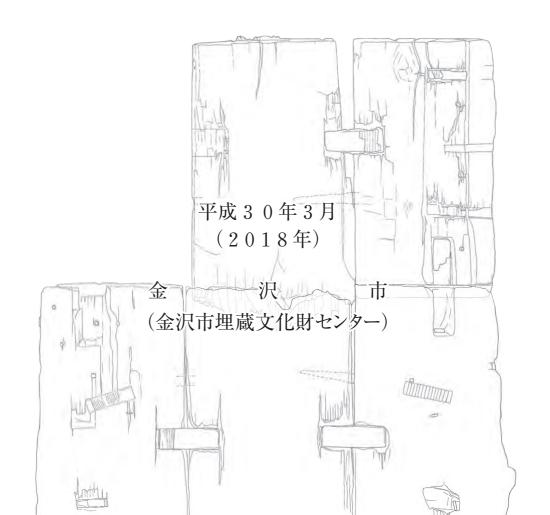
金沢市文化財紀要 312 石川県 金沢市 金沢城下町遺跡(兼六元町7番地点)

準用河川源太郎川雨水貯留施設整備工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 ―



## 石川県 金沢市

# 金沢城下町遺跡(兼六元町7番地点)

準用河川源太郎川雨水貯留施設整備工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書・



平成30年3月 (2018年)

金 沢 市 (金沢市埋蔵文化財センター)



金沢城下町遺跡(兼六元町7番地点)調査区全景〔南から撮影〕



鍋島色絵皿片 (1-①南区 SX01出土 第30図13)



舟底板(1-①中区 SE03井戸枠に転用 第46図・第47図)

## 例 言

- 1. 本書は、石川県金沢市兼六元町7番15号に所在する金沢城下町遺跡(兼六元町7番地点)の発掘調査報告書である。
- 2. 金沢城下町遺跡 (兼六元町7番地点) は、金沢市土木局内水整備課による準用河川源太郎川雨水 貯留施設整備工事に伴い、平成23年度に金沢市が発掘調査を実施したものである。
- 3. 発掘調査の期間、面積は次のとおりである。 期間:平成23年11月12日~平成24年2月9日 調査面積:723㎡)
- 4. 発掘調査は、金沢市埋蔵文化財調査委員会(当時:委員長 橋本澄夫氏、谷内尾晋司氏、垣田修 児氏、横山方子氏)の指導の下で、前田雪恵(当時:文化財保護課主任主事)が担当した。
- 5. 本書の編集・執筆は、前田の補佐を受け、新出敬子(文化財保護課主査)・庄田知充(同)・景山和也(同)が担当し、文責は目次及び報文中に記した。写真撮影は遺物を景山が、遺構を前田が行い、航空写真を日本海航測(株)が行った。
- 6. 本発掘調査・整理作業にあたり、下記の機関・個人からご教示、ご協力を賜った。記して感謝の 意を申し上げる(50音順・敬称略)。

金沢市立味噌蔵町小学校(現:金沢市立兼六小学校)、金沢市土木局内水整備課、(株)リクケン 小西昌志(金沢市立玉川図書館近世史料館)、滝川重徳(石川県金沢城調査研究所)、 廣瀬直樹(氷見市教育委員会)、松井哲洋(関宿城博物館)

- 7. 屋内整理および製図は、次の方々に協力していただいた(50音順、敬称略)。 井川明子、蟹ヤエ子、境田早苗、谷森真利、寺西悦子、土橋裕美、供田奈津子、畑尾ゆか
- 8. 本書の遺構図の指示は以下のとおりである。
- (1)遺構図の方位は全て座標北である。座標は世界測地系に基づく国土座標第Ⅲ系(測地成果2000) に準拠している。
- (2) 各図の縮尺については原則としてスケールを付し、表題末にも示している。
- (3) 土層の色調は小山正忠・竹原秀雄2006『新版標準土色帳』(日本色研究事業(株))による。
- (4) 遺構図の水平基準は海抜高で、単位はメートル (m) で記した。
- (5) 遺構名は、SK:土坑、SE:井戸、SD:溝、P:小穴、SX:その他の遺構などの略号を用いた。
- 9. 本書の遺物の記述には、下記の分類編年案による時期設定や分類を引用した。

土師器皿の記述には滝川重徳氏による分類(滝川2002)を引用した。陶磁器の年代観のうち、 堀内秀樹氏等による陶磁器編年案(堀内・成瀬2001)を引用した箇所については東大編年と略称 した。瀬戸陶磁器については藤澤良祐氏による案(藤澤1998)を引用した。越前陶器については 木村孝一郎氏による案(木村2004)を引用した。

10. 本書に収録した遺物は、全て金沢市教育委員会が一括して保管している。

# 凡例

#### 遺物について

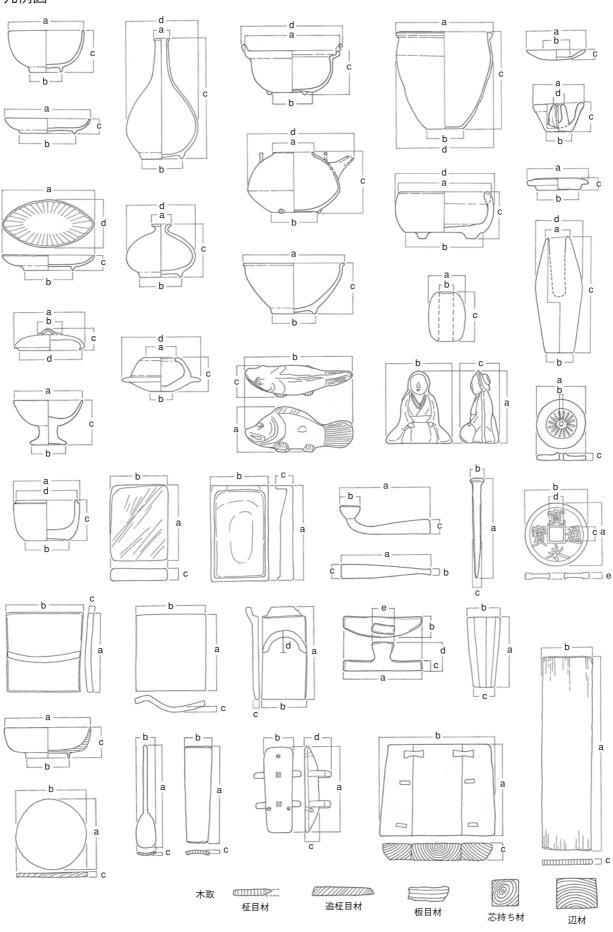
- 1. 遺物図の縮尺は、次のとおりである。図版にはスケールを付し、表題末にも示している。 掲載方法は遺構ごととしたが、金属製品と土人形は少量のため一括して種類ごとに掲載してある。
  - 1/2 土人形
  - 1/3 陶磁器、土器、木製品、貝製品、金属製品、銭貨
  - 1/4 石製品
  - 1/6 瓦、木製品(舟底板のみ1/8)
- 2. 腰瓦にみられる変色については破線で示した。
- 3. 土人形には土製品以外に陶器製も掲載してある。
- 4. 遺物実測図中の記号は次のとおりである。

灯芯油痕	 漆継		 焼継	
瑠璃釉	釉薬境		 胎土目・砂目	
青磁釉	鉄釉(矿	滋器のみ)		

## 遺物観察表について

- 1. 「番号」欄には、図版ごとに振り直した番号をつけている。
- 2. 「器種」欄には、磁器・陶器・土器などの材質も併記している。
- 3. 「法量」は、a·b·c·d の 4 欄に分けて記入した。計測部位は凡例図のとおりである。口径は最大径、底径は接地部径である。計測値のうち()数字について、陶磁器では復元数値に不安の残るもの、その他の遺物では現存値を示すのに用いた。
- 4. 「遺存」欄には、径を復元する際に利用した部位と遺存度を記した。
- 5. 「産地」欄には、器形や胎土等をもとに新出が推定した産地を記してある。
- 6. 「実測番号」欄は、実測者の通し番号で、遺物・実測図に付している番号と一致する。
- 7. 「備考」欄の高台内圏線 A は高台付け根、同 B は高台内中央付近に圏線が描かれるものを指す。
- 8. 紅皿に関しては、白磁で型打ち成形し外面を貝殻に似せたものや、外面に小町紅と銘が描かれるなど紅皿と特定できるものだけ紅皿と標記し、それ以外のものは小坏としてある。
- 9. 碗は、概ね口径が16cm以上のものは鉢とし、6.6cm(二寸)以下のものは小坏とした。また鉢や小坏にあてはまらないもので、口縁部が輪花・稜花になるもの、平面形が多角形になるもの、断面逆台形のそば猪口形のものは猪口とした。

## 凡例図



# 金沢城下町遺跡(兼六元町7番地点) 目次

第1章	調査に至る経緯と調査の概要
第1節 第2節	調査に至る経緯と経過1発掘調査の概要1
第2章	遺跡の位置と環境4
第1節 第2節	遺跡の位置と地理的環境
第3章	<b>検出遺構</b>
第 2 節 第 3 8 第 5 6 第 6 節	概要 7 土坑 (SK) 7 井戸 (SE) 13 小穴 (P) 13 溝 (SD) 14 その他の遺構 (SX) (以上、景山) 14
第4章	<b>出土遺物</b>
第 2 第 3 第 第 第 第 第 第 第 第 第 第 第 第 第 第 第 第	概要       23         土坑 (SK) 出土遺物       23         井戸 (SE) 出土遺物       30         小穴 (P) 出土遺物       31         溝 (SD) 出土遺物       32         その他の遺構 (SX) 出土遺物       32         整地層・包含層・攪乱出土遺物       (以上、新出) 34
第5章	<b>総括</b> (新出・庄田・暑山) 81

測量図版

写真図版

## 第1章 調査に至る経緯と調査の概要

#### 第1節 調査に至る経緯と経過

金沢城下町遺跡(兼六元町7番地点)は、平成23年度に金沢市立味噌蔵町小学校(当時。現:金沢市立兼六小学校)内で計画された準用河川源太郎川雨水貯留施設整備工事に伴い発掘調査を行った遺跡である。

平成22年(2010)、金沢市内水整備課から金沢市兼六元町地内の旧金沢市立味噌蔵町小学校(現金沢市立兼六小学校)グラウンド内で施工予定の雨水貯留施設設置工事について、事前の埋蔵文化財確認調査依頼が文化財保護課に提出された。これを受けて同年7月15日に試掘調査を実施したところ、施工予定地において江戸時代に属する土坑及び遺物が確認された。当初、新発見の遺跡「兼六元町7番遺跡」として取り扱っていたが、調整中の平成23年(2011)4月1日より、当該範囲を含む金沢城惣構跡内側の範囲全体が「金沢城下町遺跡」として周知化されたことに伴い、遺跡名は「金沢城下町遺跡(兼六元町7番地点)」と改称された。

貯留施設の設置工事は地下深く掘削を行う必要があり、遺構を損壊することは明らかであった。施工予定地は開校中の味噌蔵町小学校グラウンド部分であり、小学校の運営に影響を及ぼすことが避けられないことから、工事主体の内水整備課、調査主体の文化財保護課、調査地となる味噌蔵町小学校の三者で度重なる協議及び調整を行った。その結果、学校行事が落ち着き、かつ工事着手前の平成23年11月~平成24年2月の期間を以て記録保存のための発掘調査を実施することで合意した。

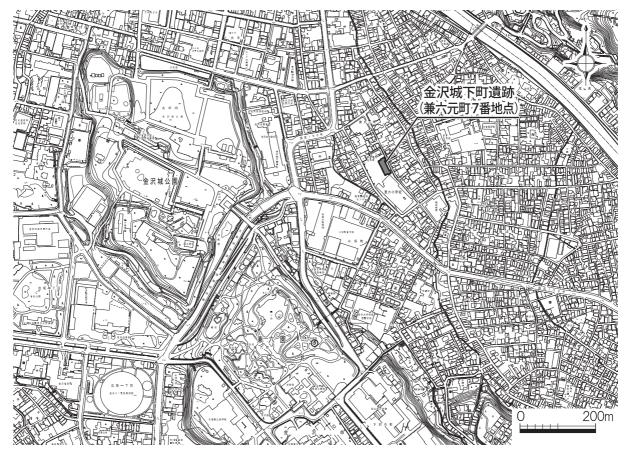
平成23年10月6日付け発内第76号にて文化財保護法第94条に基づく発掘通知が内水整備課より提出され、同年10月11日付け収文保第561号にて石川県教育委員会あてに進達、同年10月12日付け教文第1894号にて石川県教育委員会より工事に先立って発掘調査等の埋蔵文化財保護措置が必要との通知があった。これを受け、同年11月7日付け発文保第101号にて文化財保護法第99条関係の報告を石川県教育委員会あて提出し、同年11月12日に現地での発掘調査に着手した。調査対象面積は工事によって遺構が損壊する範囲、計723㎡となった。

発掘調査事業費には内水整備課の前年度繰越金を充当することとなっていたため、当該年度内に発掘調査にあわせて本工事も終了させることが必須であり、降雪期の限られた期間での調査は困難なものとなったが、各方面との調整の結果、ほぼ予定どおりの平成24年(2012)2月9日に現地での作業を終了した。調査中の平成23年12月27日には地元を対象とした遺跡見学会を実施し、金沢城下町遺跡の啓発にも努めている。除雪作業等、調査にかかる諸作業に多大なご協力をいただいた貯水施設施工業者(株)リクケンには、この場をお借りして深く感謝申し上げる。

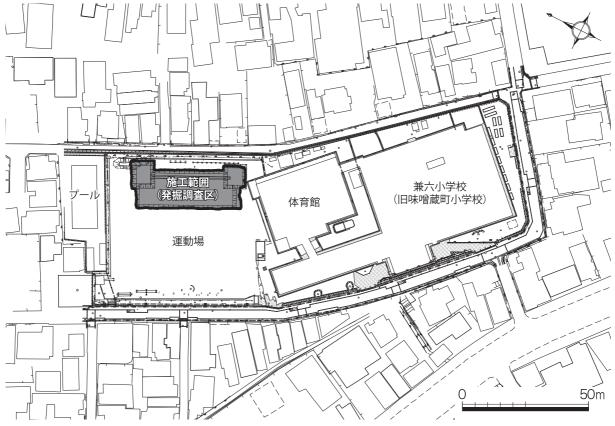
出土遺物等の屋内整理作業は平成25年度から予算措置がなされ、以後継続して行い、平成29年度に 発掘調査報告書を編集、刊行した。

### 第2節 発掘調査の概要

試掘調査の結果から、近世の遺構面が複層にわたり検出されることが予想され、降雪期ということも相まって調査の難航が懸念されていたが、平成23年11月12日に重機による表土掘削を開始して間もなく現れたのは、コンクリートの溝に小石を詰め、その上に煉瓦を数段築いた旧校舎の基礎であった。調査区を縦横に走るこの基礎を含む旧校舎の造成工事によって、遺跡の上層部分はすでに破壊されており、明確に遺構が確認できたのは結果として1面のみであった。



第1図 金沢城下町遺跡(兼六元町7番地点)の位置 [S=1/10,000]



第2図 発掘調査区位置図〔S=1/1,500〕

調査においては世界測地系2000に基づいた公共座標(MK-WE 座標系第 W系)に準拠して調査区内に10mメッシュグリッド杭を設定した。グリッド杭に西から A~D、北から1~6の順でB3、D5等の杭番号を設定して座標値の基準としている。当該年度末竣工という工事のスケジュールと調整の結果、調査期間前半は早期の着工が必要となる区域を優先して部分的に調査を完了させ、完了した区域について順次貯留施設設置工事に着手、調査期間の後半は工事と並行しての作業となった。これにより、航空測量は前半・後半の2回に分けて行うこととなったが、工事は予定どおりの竣工を迎えている。

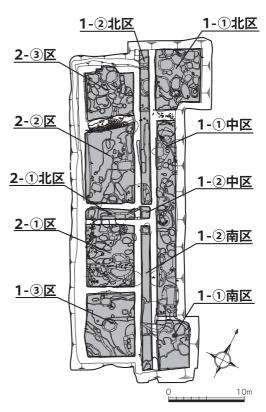
調査区割は前半調査にかかる区域=航空測量 1回目の対象区域を1区、後半調査にかかる区域=航空測量2回目の対象区域を2区と設定し、 それぞれを旧校舎の基礎と調査区の形状及び位置を基として、11区に細分して調査を実施している。

基本層序は現況のGLから約30cm 程度が運動場造成盛土で(1・2)、その下に現運動場を整備した際の基盤面である礫を含む整地層がある(3)。その下に小石の混じる褐色砂質土が約20cm程度堆積しており(4)、この層より上が旧校舎建築時以降の造成層とみられる。その下には小石・焼土等を含む黄褐色粘砂質土が約50cmにわたり確認でき、質と締まりから3層に分けられる。これらが江戸時代以前の整地層及び包含層となる(5~7)。

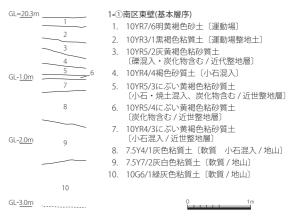
#### 発掘調査日誌(抄)

#### 平成23年(2011年)

- 11月12日 表土掘削(~11月21日まで)。
- 11月22日 屋外作業員作業開始。
- 11月28日 整地層掘削。遺構検出。
- 12月2日 遺構検出。遺構概略図作成。
- 12月5日 SK·SD·SE 等掘削。
- 12月21日 グリッド杭設置。実測作業。
- 12月27日 地元遺跡見学会実施。



第3図 金沢城下町遺跡(兼六元町7番地点) 調査区案内図 [S=1/500]



第4図 基本層序 [S=1/60]

#### 平成24年(2012年)

- 1月5日 除雪。遺構掘削。
- 1月6日 SE01等遺構掘削。作図作業。
- 1月10日 第1回航空測量実施。工事開始。
- 1月12日 SE02石積検出。
- 1月18日 包含層掘り下げ。遺構掘削。
- 2月8日 第2回航空測量実施。
- 2月9日 撤収作業。現地作業終了。

## 第2章 遺跡の位置と環境

#### 第1節 遺跡の位置と地理的環境

金沢城下町遺跡は、金沢城を中心とし惣構跡に囲繞された約200haの範囲に広がる近世に属する遺跡である。

石川県は日本海に面した県で、東は富山県、西は福井県、 南は岐阜県と接している。旧国名では北の能登国と南の加 賀国からなる、南北に細長い県である。

金沢市は旧加賀国の北部、石川県の中央やや南に位置する、面積468.64km²、人口約46万6千人を抱える石川県の 県都である。江戸時代においては加賀藩前田氏の居城である金沢城の城下町として繁栄し、太平洋戦争時の戦災を免れた町並みは現在でも当時の姿をうかがわせている。旧市街地が古い都市構造を残すのに対し、JR金沢駅以北の扇状地においては、かつての水田や耕作地帯から区画整理事業による新興住宅地に姿を変え、また県庁移転や北陸新幹線開通などの影響によってビジネス街が発展するなど、旧市街地とは対照的な姿をみせている。

金沢市の地形は、東方は森本丘陵および加越山地で、そこから北西方向に平野部が広がり、北東から南西方向に伸びる海岸線の日本海に面している。平野部は南東に連なる



第5図 石川県及び金沢市の位置

奈良岳・奥三方・大門山など海抜1,500m を超える山地に源を発して西流する浅野川と犀川によって三分され、浅野川以北が北部平野、浅野川と犀川の間が西部平野、犀川以南が南部平野である。北部平野は浅野川や森下川などにより形成された沖積平野で、粘性の強い地盤である。南部平野は白山に源を発する石川県最大の河川、手取川が形成した扇状地の北辺にあたり、砂質の強いシルト層の地質である。西部平野は犀川・浅野川の沖積地で、北部平野と南部平野の地質が混在している。

城下町及び旧市街は犀川と浅野川が最接近する付近に形成された小立野段丘一帯に立地しており、本遺跡はその東側の下位段丘上に位置する。加賀藩三代藩主前田利常の頃に大きく整備された金沢城とその城下町は、もと一向宗の拠点の一つであった金沢御堂(尾山御坊)とその寺内町につくられたもので、17世紀前半にはほぼその姿を整えている。犀川・浅野川と河岸段丘より成る地形を巧みに利用したものとなっており、段丘突端に築かれた金沢城を中心に、段丘崖部にはその高低差を利用して「惣構」と称される土居・堀で形成された遺構が、旧市街地を取り囲むように内、外2重に巡らされている。金沢市は、旧市街地の地下に存在する近世城下町の遺跡を埋蔵文化財包蔵地として一体的に保護するため、外惣構内側の範囲及び金沢城東側の家臣団屋敷地について平成23年(2011)に「金沢城下町遺跡」として周知化した。この範囲は国重要文化的景観「金沢の文化的景観 城下町の伝統と文化」の市街地部分の範囲と一致している。

本遺跡は金沢市の中心部、兼六元町地内にある。金沢城の東約300m、浅野川の西約400mの距離で、ほぼ両者の中間に位置する。調査地は金沢市立兼六小学校(旧金沢市立味噌蔵町小学校)のグラウンドで、金沢城をはじめ、兼六園、金沢21世紀美術館などの観光スポットが集結し賑わいをみせている。

#### 第2節 周辺の遺跡と歴史的環境

平成23年度に周知化された金沢城下町遺跡の範囲は、先述したとおり惣構の内部と金沢城東側の家臣団屋敷地である。周知を図るにあたって、この範囲に属する既存周知の遺跡については、中世以前のものについては変更せず、近世を主とする既存のものは『金沢城下町遺跡(【既存周知の遺跡名】地区)』、以降新発見の遺跡については『金沢城下町遺跡(【遺跡の存在する街区】地点)』と呼称を統一することとしている。以降、「地区」及び「地点」呼称のものは金沢城下町遺跡であることを示すものとしてご理解いただきたい。

周辺地域の最古の生活痕としては、金沢城石川門前土橋(a)および車橋調査区(b)の盛土層から旧石器時代後期の剥片石器がみつかっている。縄文時代の代表的な遺跡としては、縄文時代前期末~後期にかけての集落跡である笠舞 A 遺跡、晩期の鹿角製釣針が出土した笠舞 B 遺跡、犀川の第一段丘面に形成された後・晩期の集落跡と想定される犀川鉄橋遺跡などがある。

弥生時代の遺跡としては、前田氏(長種系)屋敷跡地区(2)がある。弥生時代後期後半から終末期の墳丘墓が検出され、中心部に1基、その周りに4基の木棺が検出されている。本町一丁目遺跡(25~28)からは終末期の集落跡が検出された。広坂遺跡(6)、高岡町地点(13・14)、醒ヶ井町遺跡(39)でも弥生時代後期~古墳時代前期の遺構がみつかっているほか、当遺跡においても古墳時代前期に属する溝が検出されている。古墳時代末の遺跡としては、高岡町地点があり、日本に伝来しなかったとされる半瓦当が出土したほか、奈良二彩や銅製帯金具が出土するなど特異な性格をもつ遺跡である。

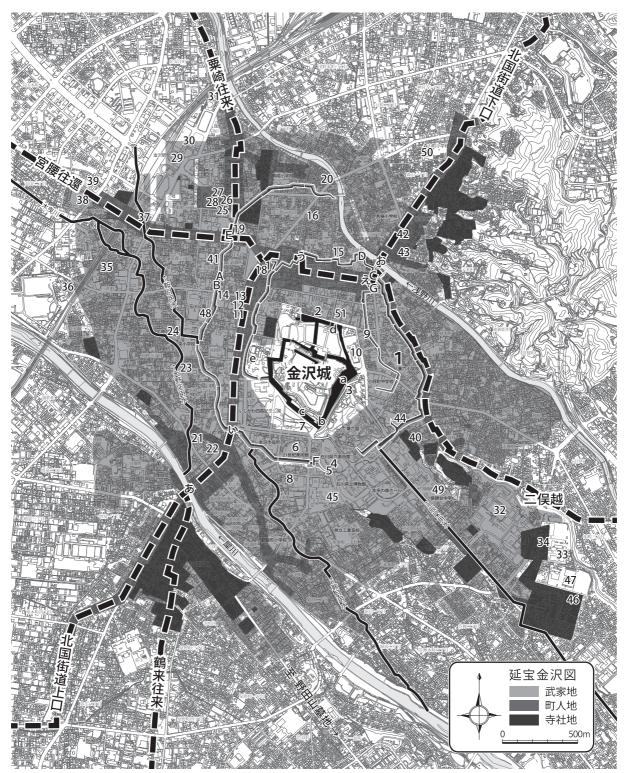
奈良・平安時代では、金沢21世紀美術館建設に伴い発掘調査を実施した広坂遺跡で藤原宮式軒平瓦と平城宮式軒瓦が出土し、古代寺院の存在が想定されている。前田氏(長種系)屋敷跡地区からは土坑や小穴が検出され、当該期の土器が出土している。

中世には高岡町地点で薬研堀が検出されたほか、彦三町一丁目15番地点(16)でも溝と遺物が報告されている。戦国時代になると現在の金沢城の場所に金沢御堂が建てられ周囲には寺内町があったと考えられているが、遺構が検出されていないため詳細は不明である。

近世では、金沢城跡が平成20年(2008)に国史跡に指定され、以後発掘調査成果を基に五十間長屋・ 橋爪門・河北門や玉泉院丸庭園などが復元・整備されている。金沢城下の範囲を規定する惣構跡は慶 長4年(1599)に内惣構が造られ、次いで外惣構が整備されている。現在、土居は盛土のほとんどを消 失し、堀も規模を縮小して水路として機能するのみだが、金沢市では惣構跡の確認調査を断続的に行っており、復元された線形は市指定史跡として保護され、東内惣構跡枯木橋北地点(C)、同南地点(G)、 西内惣構跡主計町地点(D)、西外惣構跡升形地点(E)の復元整備が実施されている。

武家屋敷では、万石以上の家禄を有し、加賀藩における家老職ともいえる年寄職を出した八家と呼ばれる大家の屋敷地を含め、多くの発掘調査が実施されている。前田氏(長種系)屋敷跡地区では当該期の井戸、土坑のほか、それ以前の屋敷地、井戸などが確認された。長氏屋敷跡地区(48)では確認調査が行われ、17世紀前半の整地層が確認されている。本多氏の下屋敷である本多町三丁目地点(45)の調査では、屋敷地及び道路跡、辰巳用水の分流などが確認されている。広坂遺跡、丸の内7番地点(10)では、礎石建物、井戸、土塀の基礎など上級武士の屋敷地及び道路跡が検出されている。

町家では、本町一丁目遺跡や昭和町遺跡(37)で間口3間規模のものが確認されており、墓地では経 王寺遺跡(34)、久昌寺遺跡(31)、木ノ新保遺跡(29・30)などの調査がある。経王寺遺跡は寺旧地の調 査で、境内内の墓地や火葬跡(灰塚)が確認された。城下縁辺に所在する久昌寺遺跡では木棺・甕棺を 用いた土葬墓と蔵骨器を用いた火葬墓が検出された。木ノ新保遺跡も城下縁辺に所在する。近世初期 に始まる墓地で、早桶を使用した土葬墓が約20基発掘されている。



第6図 城下町復元図と調査された遺跡 [S=1/25,000]

1. 兼六元町7番地点 2. 前田氏(長種系)屋敷跡地区 3. 兼六園江戸町推定地地点 4・5. 本多氏屋敷跡地区 6・7. 広坂遺跡 8. 下本多町地点 9. 兼六元町3番地点 10. 丸の内7番地点 11. 高岡町一ツ水溜跡地点 12. 高岡町3番地点 13・14. 高岡町地点 15. 彦三町一丁目8番地点 16. 彦三町一丁目15番地点 17. 青草町地点 18. 下堤町地点 19. 安江町地点 20. 瓢箪町遺跡 21. 片町二丁目遺跡(13番地点) 22. 片町二丁目遺跡(5番地点) 23. 長町遺跡 24. 穴水町遺跡 25 28. 本町一丁目遺跡 29. 木ノ新保遺跡(7番丁地点) 30. 木ノ新保遺跡(安江町地点) 31. 久昌寺遺跡 32・33. 宝町遺跡 34. 経王寺遺跡 35. 三社町遺跡 36. 元菊町遺跡 37. 昭和町遺跡 38. 長田町遺跡 39. 醒ヶ井町遺跡 40. 東兼六町5番地区 41. 玉川町遺跡 42. 東山一丁目遺跡(3番地点) 43. 東山南水溜跡 44. 東兼六地点 45. 本多町三丁目地点 46. 小立野四丁目遺跡 47. 小立野ユミノマチ遺跡 48. 長氏屋敷跡地区 49. 飛梅町3番地点 50. 森山二丁目遺跡 51. 大手町3番地点 A. B. 西外2町 西北 は、東東京地点 50. 森山二丁目遺跡 51. 大手町3番地点

F. 西外惣構跡本多町三丁目地点 G. 東内惣構跡枯木橋南地点 a. 金沢城跡(石川門前土橋) b. 金沢城跡(車橋) c. 金沢城跡(宮守堀) d. 金沢城跡(新丸) e. 金沢城跡(金谷出丸) あ. 犀川大橋 い. 香林坊橋 う. 袋町橋 え. 枯木橋 お. 浅野川大橋

## 第3章 検出遺構

#### 第1節 概要

本遺跡では、井戸、土坑、石組の溝などを検出している。遺構に時期幅はあるものの、大半の遺構が江戸時代に属し、古墳時代前期のものが少量混在している。遺構の覆土は褐灰色~黒褐色で、炭化物や焼土、さまざまな大きさの礫を含むものが多く、上層に地山と似通った埋土が入り込み検出が困難なものもあった。遺構密度は高く、土坑の数は95基を数える。

調査区は東西約19m、南北約45mの範囲にわたり、面積は約723㎡を測る。遺構検出面は海抜およそ18.5~19.2mで、南から北に向かって下がり、調査前のGLからは約1.9~1.1m下がる。東接する道路面の標高は約17.9~18.5mで、同じく北に向かって低くなる地形である。表土掘削時、旧校舎の煉瓦積み基礎が現われるなど、近代以降の開発により上面は損壊しているものと考えられる。

以下に検出した遺構の詳細について、遺構の種類順に報告する。各遺構の詳細なデータは第1表~第5表を参照していただきたい。遺物は各構成遺構ごとに掲載されているので確認しづらいが、ご容赦いただきたい。個別遺構の位置等については第7図を、また巻末の遺構平面図(第54図~第57図)に主要遺構番号を付したのでそちらを参照していただきたい。

#### 第2節 土坑(SK)

遺構番号を付したもので97基確認している。うち SK18・SK45は調査後の検討で井戸であることが 判明したため、それぞれ SE03・SE04として別節で報告する。なお、そのほかの土坑の中にも井戸の 可能性が想定されるものが複数あるが、それらについては文中及び遺構観察表の備考欄で示した。遺構の配置については各調査区(1-①中区、2-②区等)の単位で記載している。調査区割については第 3 図を参照していただきたい。

SK01 (第8図 1-③)調査区の南東で検出した、長辺約2.7m、深さ約1.7mを測る土坑。東半は旧校舎基礎によって破壊されている。断面は逆台形を呈し、埋土は3層で炭化物を含んでいる。1段掘り下げたところに大礫の石列が確認されたため、井戸の可能性がある。17世紀末~18世紀代の遺物が出土している。

**SK02(1-③)**SK01に北接して検出された。平面楕円形を呈し、検出長軸約1.4m、短軸約1.3m を測る。 深さは約0.2m と浅く、SK01の一部とも考えられる。

SK03(第12図 1-①南)南隅で検出。断面形は抉りが入り袋状を呈する。焼塩壺の出土があるものの、 煉瓦片が多く混入しており、攪乱である可能性が高い。

SK04(1-①南) 北東隅で検出。大半が調査区外のため、全容は明らかでない。検出長軸約1.4m、深さ約1.0m を測る。17世紀末~18世紀初頭の遺物が出土している。

SK05(1-①南)SK04の西側で検出した土坑で、大半は調査区外に延びており全容は不明である。深さ約0.1mと非常に浅い。

SK06(第8図 1-①中)調査区の南寄りで検出、東半は調査区外に延びる。検出長軸約2.6m、深さ約1.3 m を測る大型の土坑で、断面は箱形を呈する。上層から17世紀後半~19世紀初頭の遺物が出土している。下層からは木製品が多く出土した。

SK07(1-①南)調査区北寄りで検出された平面楕円形を呈する土坑。深さ約0.3m と浅く、単層で、



第7図 金沢城下町遺跡(兼六元町7番地点)主要遺構案内図〔S=1/200〕

埋土は炭化物と小石を多く含んでいた。土師器の小片が出土している。

**SK08(第8図 1-①中)**SK06の南に位置する、深さ約1.1m を測る小規模土坑である。17世紀末~18世紀前半代の陶磁器が多く出土した。

SK09(1-①中)調査区南寄りに位置し、西側上面は旧校舎基礎により損壊していた。1.7m まで掘削したが、底は未検出である。上層には礫が多く、工事引き渡し後、施工中に海抜17.4m まで掘削した際に円形の掘方が確認された。18世紀中葉頃の井戸である可能性が高い。

SK10(1-①中)調査区東壁で検出された直径1.1mの円形の土坑で、深さは約0.4mを測る。下方に炭化物層が確認された。SK09を切る。18世紀代の遺物が出土している。

SK11(第8図 1-③)調査区北寄りで検出された長軸約1.4m、短軸約1.1mの楕円形の土坑で、深さは約0.7mを測る。19世紀代の遺物が出土しており、SD03を切る。下層の埋土が特徴的で、木質のものを埋設していた可能性がある。

SK12(1-③)調査区北西で検出された土坑で、SD03を切る。19世紀代の遺物の出土が認められるが、埋土等から攪乱である可能性もある。

SK13(1-③)調査区北東寄りで検出。長軸約0.8mの楕円形で、深さ約0.1mと浅い。出土遺物はない。 SK14(第8図 1-③)SK13の東側で検出。東半は旧校舎の基礎により損壊している。検出長軸約1.4m、深さ約0.3mを測り、断面形は皿形を呈する。埋土は複層で、炭化物を含んでいる。

SK15(第12図 1-①南)SX02の北側で検出した土坑で、褐色砂質土の単層である。深さ約0.4mを測る。

SK16(第8図 1-①南-1-②南)直径約4.0m を測る大型土坑で、SK14と同一遺構の可能性がある。深さ約1.4m を測り、上層には礫を含む。出土した陶磁器の中には16世紀末の遺物を含む。遺構の年代は17世紀前半頃に比定できよう。

SK17(第9図 1-①中)調査区中央にて検出した長軸約1.5m を測る楕円形土坑で、深さ約0.8m を測る。断面形は椀形を呈し、埋土は3層で、中間層には炭化物を多く含む。17世紀末~18世紀初頭の遺物が出土している。

SK19(1-①中)SE03(SK18)の北側に重なって検出された土坑。18世紀代の遺物が出土している。

SK20(1-①南)調査区北隅で検出した方形土坑だが、旧校舎の基礎により損壊され全容は不明。18世紀代の遺物とともに木製品が多く出土している。施工時に最下層部が検出され、円形の掘方とともに円形の箍が確認されている。井戸であった可能性が高い。

**SK21(1-②北)**SK62と同一遺構。詳細はSK62を参照されたい。

SK22(1-①中)検出長軸約1.4m、深さ約1.1m を測る土坑。17世紀末の遺物が出土している。

SK23(1-①中)調査区北寄りで検出した。検出長軸0.7m、深さ約0.2m を測る土坑。SK25を切る。

SK24(1-①中)調査区北寄り東壁で検出した。埋土は単層で、炭化物を多く含んでいる。

SK25(1-①中)東側を SK23に切られる。深さ約0.5m を測り、埋土は単層で、小石と炭化物を含む。

SK26(1-①中)調査区北寄り西側で検出した土坑。長軸約0.6m の楕円形を呈し、深さ約0.1m と浅い。

**SK27(1-①北)**SK32・SK35に切られており、平面形は定かではないが、検出長軸約2.9m、深さ約0.1 m を測る浅い落込状の遺構である。17世紀代の遺物が出土している。

**SK28(1-①北)**SK32を切る、長軸約1.1m、深さ約0.3m を測る土坑。17世紀後半~18世紀中頃の遺物が出土している。

SK29(第9図 1-①中)調査区北隅で検出した長軸約2.8m を測る大型土坑で、深さは約1.0m まで掘り下げたが底の検出には至っていない。第3層は地山に非常に近似した色質の埋土であり、途中で掘削を中止したのだが、施工時に海抜17.4m の地点で掘方が検出された。おそらくは断面円筒形を呈し、

上層部分の大礫出土状況から、井戸であったものと考えられる。18世紀末~19世紀初頭の遺物が出土しており、遺構の年代もそのあたりとして問題ないであろう。SK30に切られる。

SK30(第9図 1-①中)SK29を切る。18世紀末から19世紀代の遺物が出土している。

SK31(第9図 1-①北)調査区北寄りで検出した長軸約2.1mを測る平面長方形を呈す土坑で、断面形は箱形である。埋土は4層で、礫と瓦片を多く含む。17世紀後半~18世紀前半の遺物が出土している。

SK31-b(1-②中)旧校舎基礎に取り囲まれるように検出された遺構で、深さ約0.2mを測る。実際の掘方はさらに大きいと考えられるが、周囲がすべて攪乱のため掘り下げることができなかった。

SK32(1-①北)長軸約1.6m、短軸約0.8m、平面長方形を呈する土坑で、深さは約0.2mを測る。未加工の河原石が大量に廃棄されていた。屋根石等の片付け穴か。17世紀~18世紀前半代までの遺物が出土している。

SK33(第9図 1-①北)調査区南東寄りで検出した長軸約2.2m を測る楕円形土坑。埋土は5層に分かれ、炭化物を多く含んでいた。17世紀後半代の遺物が出土している。

SK34(1-①北)SK33の北に位置する土坑で、18世紀末~19世紀初頭の遺物が出土している。

SK35(1-①北)調査区西寄りで検出した土坑で、長軸約2.7m、深さ約0.8m を測る大型土坑。17世紀後半~17世紀末頃の遺物が出土している。埋土は単層で、一度に埋められている。

SK36(1-①北)調査区北壁で検出したため、全容は不明である。17世紀後半~17世紀末の遺物が出土している。

**SK37(1-①中)**調査区北寄りで検出。およそ2mの深さまで掘り進めたが底の検出には至っていない。 断面は円筒形を呈し、工事施工時に最下層が検出され、井戸であった可能性が高い。出土遺物から19 世紀代の遺構である。

SK39(1-①中)調査区北寄り東壁で検出した。調査区外に延びる土坑で、全容は不明である。深さは約0.9mを測り、18世紀初頭の遺物が出土している。

SK40(1-①中)遺構図との同定ができなかったが、17世紀代の遺物が出土している。

SK41(1-①北)調査区ほぼ中央に位置する長軸約1.7m、短軸約1.2mの平面楕円形を呈する土坑で、深さ約1.0mを測る。約17世紀後半~18世紀前半にかけての陶磁器と瓦片が大量に廃棄されていた。

SK42(1-②北)調査区北隅で検出した。攪乱による損壊を受けており、全容は明らかではないが、北接するSE04の一部と考えられる。深さ約1.6mという規模からも井戸の掘肩である可能性が高い。

SK43(1-②北)調査区南隅で検出した。深さは約0.1m と浅いが、加工された大石と磁器片が出土している。

SK44(1-②北)調査区中央で検出。東西は旧校舎基礎によって損壊している。深さは約0.7mを測り、17世紀末~18世紀前半の遺物が出土している。

SK46(2-③)調査区西壁で検出。調査区外に延びており、全容は不明である。検出長軸約1.1m、埋土は礫と炭化物を含む単層で、深さは約0.2mと浅い。17世紀後半~18世紀中頃の遺物が出土している。

SK47(第9図 2-③)調査区北隅で検出。調査区外に延び、全容は不明である。断面形は皿形を呈し、一部壁が抉れている。埋土は2層の単純堆積で、上層には19世紀代の遺物が多く混入していた。SK48を切っている。

SK48(2-③)SK47に切られる深さ約0.1m の浅い土坑。埋土は焼土と炭化物を多く含む単層である。

**SK49(2-③)**土坑としたが溝である可能性がある。検出長軸は約1.3m、短軸は約0.5m、深さは約0.2 m を測る。埋土は単層で、焼土と炭化物を多く含んでいる。SD06に切られている。

SK50(第9図 2-③)調査区中央で検出した長軸約1.2m、短軸約0.9m、深さ約0.3m を測る平面楕円

形を呈する土坑である。埋土は3層で東側から埋まり、焼土と炭化物を多く含む。SD06に切られている。17世紀前半代の遺物が出土している。

SK51(2-③)調査区東側で検出、東半は旧校舎基礎により損壊している。埋土は単層で、浅い。

**SK52(2-③)**長軸約2.3m、短軸約1.1m の範囲に広がる不整形土坑で、SD06に切られている。埋土は 単層で小礫と炭化物を含み、深さは約0.3m を測る。

SK53(2-3)長軸約1.5m の不整形土坑で、P3を切り SD06に切られる。埋土は複層で、炭化物を含む。

SK54(第10図 2-③)調査区中央やや南寄りで検出した不整形土坑で、深さは約0.1m とごく浅い。P 6を切る。埋土は単層で、焼土と炭化物を含んでいる。

SK55(第10図 2-③)調査区中央で検出した。長軸約1.1m、深さ約0.1m を測る。埋土は3層が確認でき、焼土と炭化物を含んでいる。SK91を切る。

SK56(2-③)調査区西壁にかかって検出された土坑で、大半が調査区外のため全容は不明である。埋土は単層で、焼土と炭化物を含んでいる。検出できた深さは約0.2m と浅い。

SK57(第10図 2-③)調査区北西隅で検出した不整形土坑。単層で炭化物を含む。深さ約0.2m と浅い。

SK58(2-③)SK91・SK92と同一遺構と考えられる。18世紀末~19世紀初頭の遺物が出土している。

SK59(第10図 2-③)調査区西壁にかかって検出された土坑で、火鉢片が出土している。埋土は2層で、 炭化物と小石が混ざっている。SK58に切られており、19世紀初頭以降の遺構と考えられる。

SK60(第13図 2-②)調査区中央で検出したSX07を切る土坑。検出長軸約2.4mの大型土坑だが、切合等により全容は不明である。深さ約0.3mの単層、18世紀前半代の遺物が出土している。

SK61 (第10・13図 2-②)調査区中央東寄りで検出した、長軸約2.1m、短軸約1.4m を測る平面長方形を呈する土坑である。深さは約0.7m を測り、埋土は8層が複雑に入り組む。上層からは17世紀代の陶磁器類、下層からは木製品が多く出土した。

SK62(第10図 1-②北-2-②)SK21・SK63と同一遺構。旧校舎基礎により東西方向に分断されているが、復元長軸約3.7m、短軸は検出長で約2.6mを測る。深さは約0.9mで埋土は5層が確認でき、部分的に焼土を含む。下層で大礫と自然木が検出されており、井戸の可能性がある。18世紀後半の遺物が出土している。

**SK63(1-②北-2-②)**SK62と同一遺構。 3層確認した土色は第1表に記してあるので参照されたい。

SK64(2-②)調査区東寄りで確認した深さ約0.1mの浅い土坑。東半は旧校舎基礎にて損壊している。

**SK65(2-②)**SK64の南で検出した長軸1.9m を測る平面楕円形の土坑である。17世紀末~18世紀初頭までの遺物を含む。深さは約0.2m と浅く、埋土は単層である。

**SK66(第13図 2-②)**SX07を切る、長軸約2.1m を測る土坑である。上面からは18世紀中頃~後半にかけての遺物とともに、礫が多く検出されている。

SK67(第13図 2-③)調査区南端に位置する長軸約1.5m、深さ約0.5m を測る平面楕円形の土坑である。 上面には礫が多い。18世紀中頃~後半代の遺物が出土している。

**SK68(第13図 2-②)**土坑としたが、SD06と同一の遺構である可能性がある。検出延長は約4.8m を測るが、深さは約0.1m とごく浅い。上面には礫が多く、18世紀末~19世紀後半にかけての遺物が出土している。

**SK69(第10・13図 2-②)**SX07に切られる土坑で、平面は長軸約1.4m の楕円形を呈する。深さは約1.1 m を測り、断面は円筒形で単層である。上面には礫が多く存在した。

SK70(第11図 2-①北-2-①)両調査区に跨って検出された東西約1.3m、南北約1.2mの範囲にある不整形土坑。埋土は炭化物を含む4層が確認され、17世紀後半~18世紀中頃の遺物が出土している。

**SK71(2-①北)**北側が旧校舎基礎に損壊されているため、全容は不明である。検出長軸は約3.9m、深 さ約0.5m を測る。SK72・SK73に切られる。

SK72(2-①北)旧校舎基礎のため全容は不明である。SK71を切る。攪乱の可能性がある。

SK73(2-①北)旧校舎基礎により全容は不明である。SK71を切る。18世紀中頃の遺物が出土している。

**SK74(2-①北-2-①)**旧校舎基礎により上面は損壊している。検出長軸約2.5m を測る大型土坑で、深さは約0.4m を測る。SK76に切られている。

SK75(第11図 2-①)調査区北東隅で検出された長軸約1.2m、短軸約0.9m を平面楕円形の土坑で、深さは約0.2m と浅い。断面形は皿形を呈し、埋土は焼土と炭化物を含む2層が確認できる。

**SK76(2-①)**SK75の北東に位置する、長軸約1.0m を測る土坑。深さは約0.4m を測る。SK74を切っている。17世紀末~18世紀初頭の遺物が出土している。

SK77(第11図 2-①)長軸約1.3m、短軸約1.0m を測る不整形土坑。断面形は逆台形の掘方で、炭化物を含む5層の埋土の単純堆積が確認できる。SK86を切る。18世紀前半~中頃の遺物が出土している。

SK78(第11図 2-①)検出長軸約1.2m を測る土坑で、深さ約0.4m の椀形の掘方をもつ。埋土は黄灰色粘砂質土の単層である。SK87に切られる。17世紀後半の遺物が出土している。

SK79(2-①)SK75の東に位置する、長軸約0.8mの平面楕円形を呈する土坑である。埋土は焼土と炭化物が混入し、小石を多く含む単層で、浅い。

SK80(2-①)調査区中央東寄りで検出した長軸約1.1mの平面楕円形を呈する土坑。深さは約0.4mを測る。18世紀後半以降の遺物が出土した。

SK81(2-①)SK70の南に位置する落込状の遺構で、深さ約0.1m と浅く、18世紀後半~19世紀初頭の遺物が出土している。埋土には炭化物と礫が少量混入している。

SK82(2-①)調査区南寄りで検出された長軸約0.8m、深さ約0.2m を測る土坑で、埋土は2層である。

SK83(2-①)SK82の北に位置する溝状の土坑。深さ約0.2m、小石と炭化物を含む単層の遺構である。

SK84(2-①)調査区の南隅で検出。南半は旧校舎の基礎で損壊する。埋土は炭化物が混じる単層。

**SK85(第11図 2-①)**調査区の南寄りで検出された直径約3.5mの大型土坑で、SD07に切られている。 深さは約1.7mを測り、埋土は10層が確認できる。17世紀前半代の遺物が出土している。

SK86(第11図 2-①)調査区の北隅で検出した、長軸約1.2m を測る平面楕円形の土坑で、SK77に切られている。深さ約0.4m を測り、埋土は炭化物を含む3層で、柱穴の様相を呈している。

SK87(第11図 2-①)調査区の西寄りで検出。SK78を切る。17世紀後半代の遺物が出土している。

SK88(2-①)調査区の南西隅で検出。南西側は調査区外へ延び、全容は不明である。検出長軸約2.2m、深さは約1.2m を測る。埋土中には炭化物が塊で混入していた。

SK89(2-①)直径約0.8m を測る平面円形の土坑である。深さは約0.3m、埋土には粗砂と小石を含む。 SK90(第11図 1-②北-2-②)調査区の北東隅で検出した土坑で、SD04を切る。深さ0.4m まで掘削したが、施工時に海抜17.4m 地点より円形の掘方が確認されたこと、埋土には大礫が多く含まれていたことから、井戸であった可能性が高い。第1表に記した土色は最下層で確認できたものである。

SK91・SK92(2-③)SK58と同一遺構と考えられる。

SK93(2-①)調査区中央西寄りで検出した土坑で、SD07に切られている。深さ約0.6m まで掘削したが、調査後、施工時に海抜17.4m の地点で正円径の掘方が確認されたことから、井戸であった可能性が高い。施工時に確認した最下層には植物遺体が多く混入していた。

SK94(2-①)調査区北寄り、西壁際で検出したため全容は不明である。検出長軸約3.5m、深さは約0.2 m を測る。上層で石を多数検出した。17世紀後半の遺物が出土している。

SK95(2-①)調査区の南東隅で施工時に確認した遺構で、正円径の掘方が確認されたことから井戸であった可能性が高い。最下層では同心円状に2層の埋土が確認でき、レンズ状堆積と考えられる。

SK96(1-①中)調査区の中央東側にて検出。検出面から約0.3m まで掘り下げている。施工時に海抜17.4m まで掘削したところ、掘方が検出された。井戸であった可能性が高い。最下層では植物遺体と炭化物を多く含む軟質の埋土が確認されている。

## 第3節 井戸(SE)

井戸は計4基検出した。うち2基は調査時には土坑として考えていたが、その後の検討によって井戸と判断したものである。このほかにも掘方、深さから井戸と考えられる遺構は多い。それらについては第1表の備考欄に示してある。

**SE01(第12図 1-③)**調査区の中央にて検出。長軸約2.0m、深さ約0.9m を測る。調査時において枠と 掘肩が明瞭であったため、土層から井戸と判断した。埋土に大石が混入しており、石組であった可能 性もある。

**SE02(第12図 1-①中)**直径約1.8m を測る石積の井戸で、SE03に切られ北半の石積は損壊している。 深さ約1.6m まで掘削したが、底面の検出はならなかった。しかし、施工時に海抜17.4m 地点で最下層が確認され、レンズ状堆積の埋土が確認されている。18世紀後半代の遺物が出土している。

**SE03(第12図 1-①中)**SE02を切る。当初は土坑(SK18)と考えていたが、出土した木製品が井戸枠であることが判明し、井戸として報告する。直径約2.0mの円形掘方で、深さは約0.5mまで掘削した。井戸枠は舟の底板の転用である。18世紀前半代の遺物が出土している。

SE04(第12図 1-②北)施工時に井戸枠と考えられる縦板組が検出されている。SK42が井戸の掘方である可能性が高い。

#### 第4節 小穴(P)

検出法量が小さいものを土坑と区別し小穴とした。柱となるものもあろうが、明確なものは確認できていないため、すべて小穴として報告する。

- **P1 (第9図 1-①中)**SK37を切る形で検出された直径約0.5m の小穴。深さは約0.1m と浅い。
- P2(第9図 1-②)遺構図との同定はできなかったが、出土遺物は17世紀中頃のものである。
- P3 (2-③)SK53に切られる長軸約0.6m の楕円形小穴。埋土は焼土と炭化物を含む灰黄褐色粘砂質土。
- **P4(2-3)**SD06に切られる。直径約0.5m、深さ約0.3m を測るピットである。
- P5 (第10図 2-③)SK54の南に位置する直径約0.7m の平面円形を呈する小穴。深さは約0.5m を測る。
- P6 (第10図 2-③) SK54に切られる。直径約0.4m の平面円形を呈する小穴で、埋土は灰黄褐色粘砂質土に地山のブロックが混入する。深さは約0.2m を測る。
- P7 (第10図 2-③) SK54の中にある直径約0.5m の平面楕円形を呈する小穴で、深さは約0.2m を測る。
- P8 (2-2) SK61に東接する長軸約0.5m、深さ約0.3m の小穴である。
- P9 (2-①)調査区南東隅で検出した長軸約0.5m の平面楕円形を呈する小穴で、深さは約0.3m である。
- P10(2-①)SK85の南東に位置する長軸約0.4m の平面楕円形を呈する小穴で、深さは約0.1m と浅い。
- P11(2-①)SK54の南で検出された長軸約0.7m の平面円形の小穴である。深さは約0.1m を測る。

#### 第5節 溝(SD)

溝状の遺構を一括して報告する。うち SD07は礫が帯状に連なる遺構であり、溝ではなく土塀の基 礎等構造物である可能性が高い。主軸、法量等は第4表を参照していただきたい。

SD01(1-③)調査区の南西隅にて検出した溝で、南壁から西壁に弧を描く。検出延長約4.5m、幅は約1.3m、深さ約0.3mを測る。古墳時代前期の土師器片が多く出土し、須恵器も1点含まれている。土層の観察から、廃絶時には北側から埋まっていることが確認できた。平地式建物の周溝であろうか。

SD02(1-③)調査区を東西に直線的に流れる溝である、遺物は出土しておらず、詳細は不明である。

**SD03**(1-③)調査区北側を東西に直線的に流れる溝で、SK11・SK12に切られる。深さは約0.1m と浅い。17世紀末頃の遺物が出土している。

SD04(第11図 1-①中-2-③)軸を北東-南西方向に持つ石組の溝で、扁平な石で蓋を設える。検出延長は約12.1m、深さは約0.5mを測る。SK90に切られている。19世紀代の遺物が確認されているが、遺構の時期は切合い等からさらに遡るものと考える。近世屋敷境の区画排水溝と考えられる。

**SD05(1-①中)**調査区中央を東西に直線的に流れる溝で、幅約0.5m、深さは約0.1m と浅い。17世紀後半~18世紀前半代の遺物が出土している。

**SD06**(第11図 2-③)調査区を南北に流れる溝で、SK49・SK52・SK53を切る。検出延長は約4.1m、幅約0.9m、深さは約0.3m で炭化物を含む 3層の埋土が確認できる。18世紀後半~19世紀初頭の遺物が出土している。

**SD07(第11図 2-①)**東西方向約6.1m にわたり検出したが、1-①中区でも当初検出されていた。こぶし大の礫が多く検出され、溝ではなく SD04と同様空間を区画する施設、土塀の基礎と考えられる。 SK85・SK93を切っている。

#### 第6節 その他の遺構(SX)

調査時において、落込状のもの及びその性格が判然としないものについては、その他の遺構として 一括して処理している。以下、遺構番号順に報告する。

SX01(第12図 1-①南)18世紀後半代の陶磁器・礫が多数出土したが、遺構プランは不明。包含層あるいは攪乱の可能性がある。

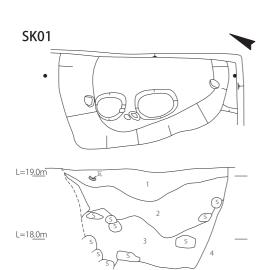
SX02(第12図 1-①南)焼土と煉瓦が多数出土した。17世紀後半代の遺物も含むが、近代以降の攪乱である可能性が高い。

**SX03(1-①北)**SK33・SK34の上層部分である。

**SX04(第13図 1-①北)**不整形の土坑状遺構で、埋土は2層が確認でき、いずれも礫・炭化物を含む。 **SX05(1-①北)**SK35の上層部分である。

**SX06(第13図 1-①南)**SX03に後発する遺構で、長軸約1.3m を測る。土層は炭化物を多く含むが、2 土坑の集合体の様相を呈する。出土遺物は19世紀代のものである。

**SX07(第13図 2-②-2-①北)**調査区西半を覆うようにある不明遺構で、SK60・SK61・SK66・SK67・SK68に先行する。南北約4.8m、東西約1.2mの範囲に広がっており、深さは約0.5mを測る。上面で礫が多く検出され、埋土中からは18世紀後半の陶磁器類とともに瓦片が多く出土しているが、SK67・SK68からの混入品であろう。切り合いからはさらに年代が遡るものと考えられる。



#### SK01

- SK01 1. 10YR4/2灰黄褐色粘質土〔炭化物含む〕 2. 2.5Y4/2階灰黄色粘質土〔地山ブロック・礫混入、炭化物含む〕 3. 7.5Y4/1灰色粘質土〔地山ブロック・大礫混入〕 4. 2.5Y4/3オリーブ褐色砂質土〔地山〕



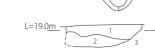


- 1. 2.574/3オリーブ褐色粘質土 (礫混入、炭化物含む) 2. 2.5Y7/1灰白色粘砂質土 3. 2.5Y5/1黄灰色粘質土 4. 2.5Y4/3オリーブ褐色砂質土〔地山〕

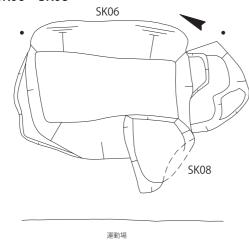




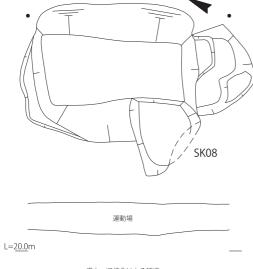
- SK14 1. 10YR4/2灰黄褐色粘砂質土
- 1. IUTK4/ZMC具荷巴粘砂真土 [地山ブロック・焼土混入、炭化物含む] 2. 2.5Y6/2灰黄色粘砂質土 (埋土1に地山ブロック混入) 3. 2.5Y4/3オリーブ褐色砂質土 [地山]

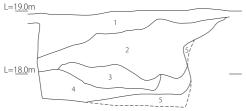


#### SK06 • SK08



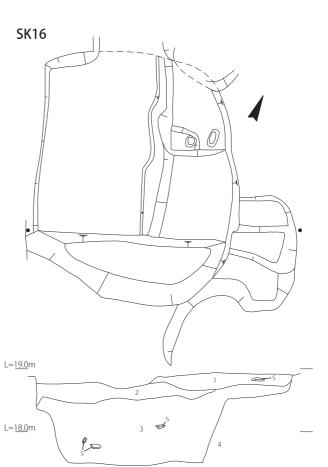
盛土・旧校舎による破壊





#### SK06

- いり 10YR3/2黒褐色粘質土 7.5Y4/1灰色粘質土〔軟質〕 5GY5/1オリーブ灰色シルト質土〔オリーブ褐色粘質土片多く混入〕 10YR3/1黒褐色砂質土〔小石混入、小枝含む〕 2.5GY4/1暗オリーブ灰色砂質土〔地山〕



- SK16

   1. 10YR5/2灰黄褐色粘砂質土〔礫混入〕

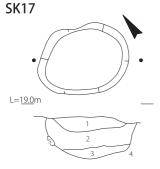
   2. 10YR5/1褐灰色粘砂質土〔地山ブロック多く混入、炭化物含む〕

   3. 5Y4/1灰色シルト質土〔黒褐色粘質土ブロック混入〕

   4. 2.5Y4/3オリーブ褐色砂質土〔地山〕

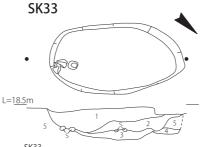


第8図 SK01·SK06·SK08·SK11·SK14·SK16 [S=1/60]



#### SK17

- 17 2.5Y5/1黄灰色粘質土 (地山ブロック混入) 10YR4/2灰黄褐色粘砂質土 (地山ブロック混入、炭化物ブロック多く含む) 10YR4/1褐灰色粘質土 (軟質) 2.5Y4/3オリーブ褐色砂質土 (地山)



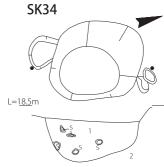
#### SK33

- ... 10YR4/2灰黄褐色粘砂質土 [小石混入、炭化物含む] 10YR4/1褐灰色粘砂質土

SK37 • P1

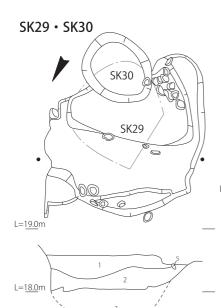
- 1016年7月次に石砂貫工 (地山ブロック多く混入、小石混入、炭化物含む) 10785/3にぶい黄褐色砂質土 (地山ブロック多く混入、小石混入、炭化物含む) 2.574/1黄灰色粘砂質土 [炭化物含む]

- 2.5Y4/3オリーブ褐色砂質土〔地山〕

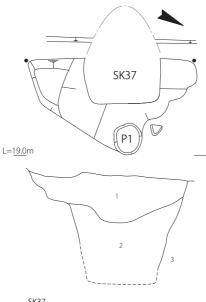


#### SK34

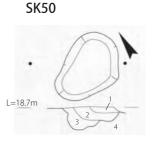
- 10YR4/2灰黄褐色粘質土
- (礫混入、炭化物含む)2. 2.5Y4/3オリーブ褐色砂質土(地山)



- 5K29 1. 10YR5/2灰黄褐色粘砂質土〔礫混入、炭化物含む〕 2. 10YR3/1黒褐色粘砂質土〔地山ブロック多く混入〕 3. 2.5Y4/3オリーブ褐色砂質土〔埋土(地山に近似)〕 4. 2.5Y4/3オリーブ褐色砂質土〔地山〕

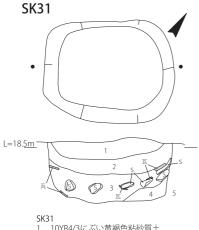


- 10YR5/3にぶい黄褐色粘砂質土 [小礫少量混入] 2.5GY5/1オリーブ灰色シルト質土 [上方に地山砂流れ込む]
- 3. 2.5Y4/3オリーブ褐色砂質土〔地山〕

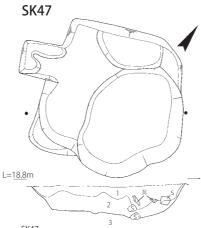


#### SK50

- 10YR3/2黒褐色粘砂質土
- 3.
- 10184/1橋灰巴柏砂貝エ 〔焼土多く混入、地山層状に流れ込む〕
   2.5Y4/3オリーブ褐色砂質土〔地山〕

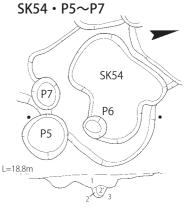


- 10YR4/3にぶい黄褐色粘砂質土 〔地山ブロック多く混入、炭化物多く含む〕 10YR3/2黒褐色砂質土〔炭化物多く含む〕
- 10YR4/2灰黄褐色粘質土〔大礫混入、瓦含む〕 10YR4/6褐色砂質土〔炭化物含む〕
- 4. 10YR4/6褐色砂質土〔炭化物含む〕5. 2.5Y4/3オリーブ褐色砂質土〔地山〕



#### SK47

- 1. 10YR4/2灰黄褐色粘砂質土
- 〔遺物多く出土、礫混入、炭化物含む〕 10YR4/2灰黄褐色粘砂質土
- 〔地山ブロック混入〕 3. 2.5Y4/3オリーブ褐色砂質土〔地山〕

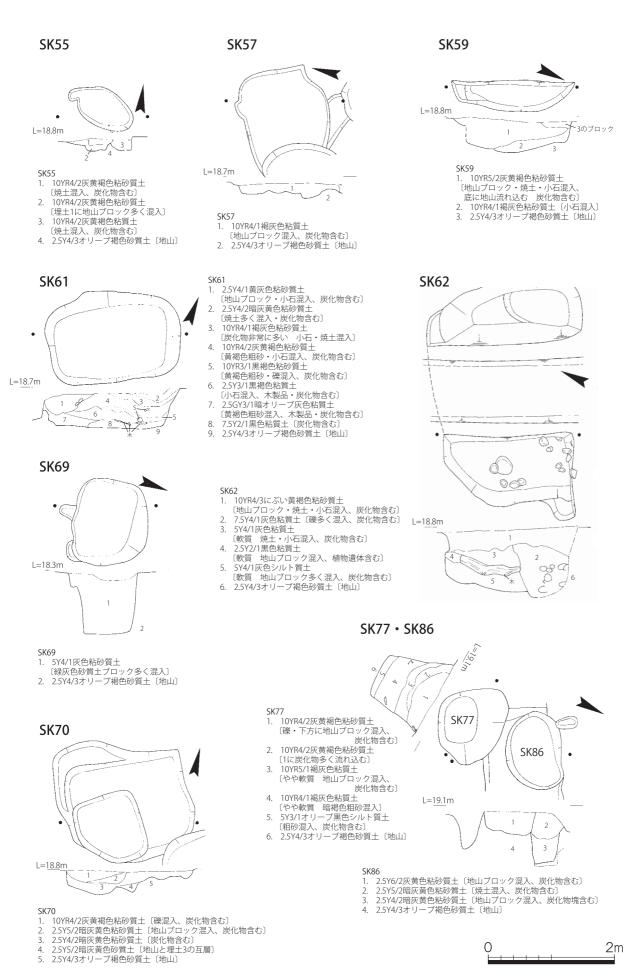


#### SK54 • P6

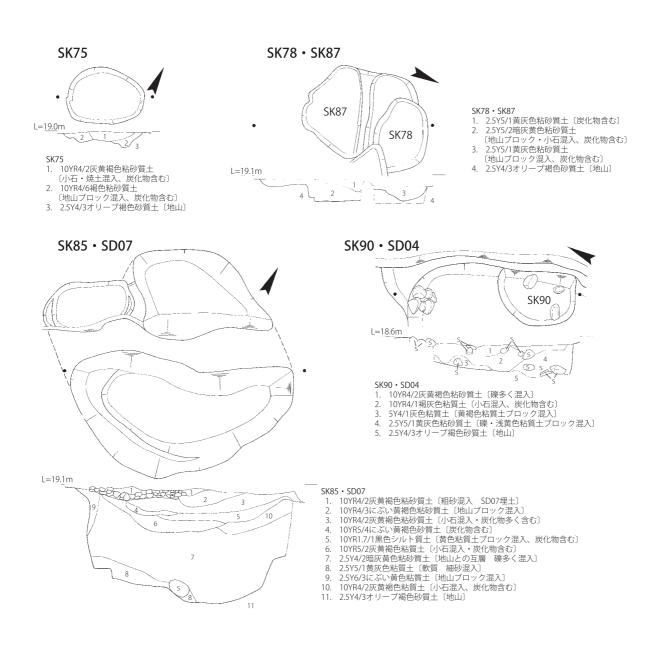
- 5/534・P6
  1. 10/P84/2灰黄褐色粘砂質土 (焼土混入、炭化物含む)
  2. 10/P84/2灰黄褐色粘砂質土 (埋土1/に地山ブロック(2))混入、P6埋土)
  3. 2.5/Y4/3オリーブ褐色砂質土(地山)

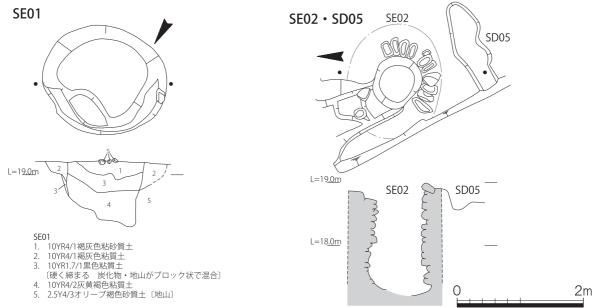


第9図 SK17・SK29・SK30・SK31・SK33・SK34・SK37・SK47・SK50・SK54・P1・P5~P7〔S=1/60〕

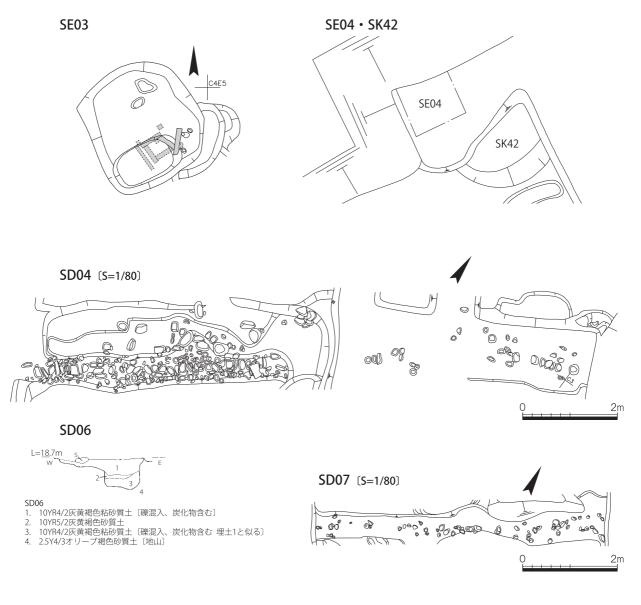


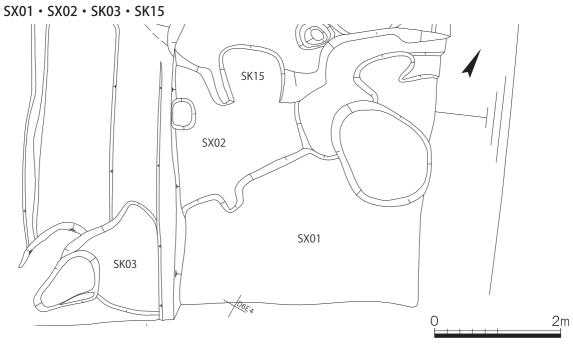
第10図 SK55・SK57・SK59・SK61・SK62・SK69・SK70・SK77・SK86 [S=1/60]



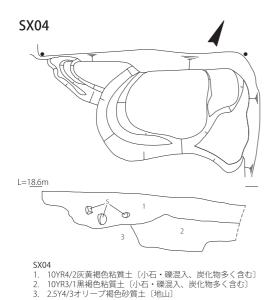


第11図 SK75・SK78・SK85・SK87・SK90・SD04・SD05・SD07・SE01・SE02 [S=1/60]





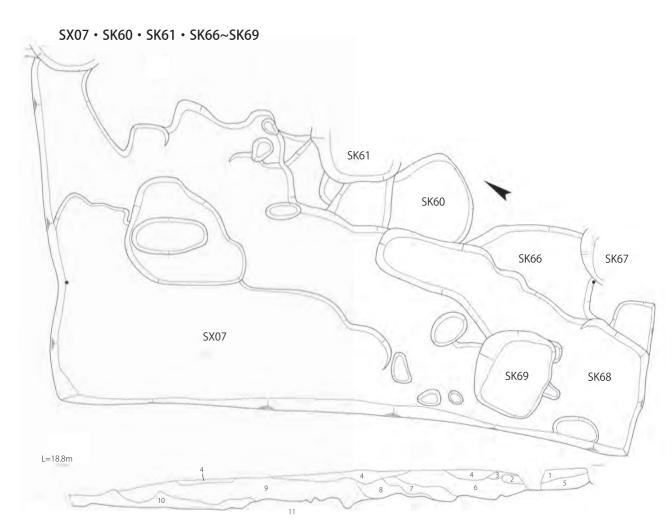
第12図 SE03·SE04·SK42·SD04·SD06·SD07·SX01·SX02·SK03·SK15 [S=1/60·1/80]



# **SX06** L=<u>18.5</u>m

- SX06 1. 10YR4/2灰黄褐色砂質土〔小石多く混入〕
- 10YR4/2次典権已的負土 (小石多く混入) 10YR4/4褐色砂質土 2.5Y4/1黄灰色粘質土 (小碟混入、炭化物含む 焼土か) 10YR4/1褐灰色粘質土 (小石混入、炭化物含む) 10YR4/2灰黄褐色粘砂質土

- 5. 1011/4/2次資報合出かります。 6. 2.5Y5/4資報色粗砂 7. 10YR4/2灰黄褐色粘質土〔炭化物多く混入〕 8. 2.5Y4/3オリーブ褐色砂質土〔地山〕



- SX07・SK60・SK61・SK66~SK69 1. 10YR4/2灰黄褐色粘砂質土〔礫混入、炭化物含む SK66埋土〕 2. 2.5Y6/2灰黄色粘砂質土〔埋土1流れ込む SK66埋土〕 3. 7.5YR4/4褐色砂質土

- 10YR5/1褐灰色粘質土 10YR4/1褐灰色粘砂質土〔地山ブロック混入、炭化物含む SK67埋土〕 2.5Y4/1黄灰色粘質土〔地山ブロック・粗砂混入、炭化物含む SK68埋土〕

- 7. 10YR4/1褐灰色粘質土(炭化物含む SK60埋土) 8. 2.5Y4/2暗灰黄色粘砂質土(炭化物との互層 SK60埋土) 9. 2.5Y5/1黄灰色粘砂質土(小石・粗砂混入、炭化物含む) 10. 5Y3/2オリーブ黒色粘質土〔地山ブロック混入〕 11. 2.5Y4/3オリーブ褐色砂質土〔地山)



第13図 SX04・SX06・SX07・SK60・SK61・SK66~SK69 [S=1/60]

## 第1表 SK 観察表

	衣		~~~	₹ <b>3</b> ₹																	
遺構名	調査区	平面形	断面形	方位軸	長辺 (m)	短辺 (m)	深さ (m)	土色等	時代·特記	図版	遺構名	調査区	平面形	断面形	方位軸	長辺 (m)	短辺 (m)	深さ (m)	土色等	時代·特記	図版
SK01	1-3	方形	逆台形	N25° W	2.7	(1.3)	1.7	断面図参照	1段下に大きな石列 井戸か 17c末~18c後	8 57	01/27			ETI ANT TIL			(1.7)	(0.0)	断面図参照 1'.7.5Y4/1灰色粘	調査後検出(土色')	9
SK02	1-3	楕円形	-	N25° W	(1.4)	(1.3)	0.2	-	浅い SK01と同一か 遺物なし	57	SK37	1-①中	_	円筒形	-	2.1	(1.7)	(2.0)	〔地山多混〕 2'.緑灰色粘〔地山〕	井戸か 19c	54
SK03	1一①南	不整形	袋状	-	(1.8)	1.7	(0.1)	煉瓦小片多く混入	攪乱か 焼塩壺	12 57	SK39	1-①ф	-	-	-	2.1	(0.9)	0.9	-	18c 初	55
SK04	1一①南	-	-	N88° W	1.4	(0.2)	1.0	-	17c 末~18c 初	57	SK40	-	-	-	-	-	-	-	-	17c 後半	-
SK05	1一①南	-	-	N56° W	1.0	(0.4)	0.1	-		57	SK41	1一①北	楕円形	-	N7° W	1.7	1.2	1.0	-	18c 前半 近世陶磁器大量 瓦片多い	54
SK06	1一①中	方形	箱形	ı	2.6	(2.2)	1.3	断面図参照	18c 末~19c 初 下層に木製品多い	8 57	SK42	1-②北	-	-	-	(1.4)	(1.0)	1.6	_	SE04の一部か	12 54
SK07	1一①南	楕円形	-	N38° W	(1.6)	1.5	0.3	10YR4/2灰黄褐色粘 〔地山・小石混、炭多〕	土師器小片	57	SK43	1-②北	-	-	-	(4.1)	(1.0)	0.1	_	加工大石·磁器片	54
SK08	1一①中	不整形	-	N77° E	(1.2)	(1.1)	1.1	_	17c 末〜18c 陶磁器多い	8 57	SK44	1-②北	-	-	-	(1.8)	(0.9)	0.7	_	17c 後半~18c 前半	54
SK09	1一①中	楕円形	-	N8° E	2.4	(2.1)	(1.7)	1'.7.5Y4/1灰色砂 [地山·小礫混、植物遺体] 2'.7.5Y6/1灰色粘[地山]	調査後検出(土色') 井戸か 18c 中頃 上方に礫多い	57	SK46	2-3	-	-	-	1.1	(0.4)	0.2	10YR4/2灰黄褐色粘 〔地山•礫混、炭〕	18世紀中頃	54
SK10	1一①中	円形	-	N64° W	1.1	1.1	0.4	-	18c 前 SK09を切る 下方に炭層	57	SK47	2-3	-	皿形	-	2.1	(2.0)	0.2	断面図参照	SK48を切る 壁が少し抉れる 19c	9 54
SK11	1-3	楕円形	袋状	N56° W	1.4	1.1	0.7	断面図参照	19c SD03を切る	8 57	SK48	2-3	-	-	-	(0.7)	0.4	0.1	10YR3/2黒褐色粘砂 〔焼土混、炭〕	SK47に切られる 焼土	54
SK12	1-3	楕円形	-	N55° W	0.9	0.5	0.4	10Y7/2灰白色粘砂	19c SD03を切る 攪乱か	57	SK49	2-3	-	-	-	(1.3)	0.5	0.2	10YR3/2黒褐色粘砂 〔焼土混、炭〕	SD06に切られる SD か	54
SK13	1-3	楕円形	-	N55° W	0.8	0.7	0.1	10YR4/1褐灰色粘 〔地山多混、炭〕	遺物なし	57	SK50	2-3	楕円形	椀形	N84° W	1.2	0.9	0.3	断面図参照	SD06に切られる 17c 前半	9 54
SK14	1-3	-	皿形	-	1.4	(0.4)	0.3	断面図参照	SK16と同一可能性	8	SK51	2-3	-	-	-	(1.0)	0.9	0.2	10YR3/2黒褐色粘砂 〔小礫混、炭〕	浅い	54
SK15	1一①南	-	-	-	1.0	(0.9)	0.4	10YR4/4褐色砂	遺物なし	12 57	SK52	2-3	不整形	-	N70° E	2.3	1.1	0.3	10YR4/2灰黄褐色粘砂 〔地山混〕	SD06に切られる	54
SK16	1一① 南 一 1一②南	楕円形	箱形	N90° W	4.0	(3.4)	1.4	断面図参照	礫あり 陶磁器少量 17c前	8 57	SK53	2-3	不整形	-	N70° W	1.5	0.4	0.2	1.10YR1.7/1黒色粘砂〔炭〕 2.10YR4/2灰黄褐色粘砂 〔炭〕	複層 SD06に切られる P3を切る	54
SK17	1一①中	楕円形	椀形	N76° W	1.5	1.1	0.8	断面図参照	18初	9 57	SK54	2-3	不整形	不整形	N89° W	1.8	1.0	0.1	断面図参照	P6を切る	9 54
SK19	1一①中	-	-	-	(1.5)	1.2	0.6	-	18c 前半	55	SK55	2-3	不整形	不整形	N75° W	1.1	0.6	0.1	断面図参照	SK91を切る	10 54
SK20	1-②南	長方形	-	N34° W	1.0	0.9	(0.3)	1'.10YR3/1黒褐色粘 〔軟質木·蜆〕	木製品多最下層円形 調査後検出(土色') 竹箍 井戸か 18c中	57	SK56	2-3	-	-	-	1.2	(0.4)	0.2	10YR3/2黒褐色粘砂 〔地山•焼土混、炭〕		54
SK21	2-2	-	椀形	-	3.7	(2.6)	0.9	SK62断面図参照	SK62・SK63と同一 18c 初 SK62に集約(欠番)	54 55	SK57	2-3	-	不整形	-	1.8	1.4	0.2	断面図参照		10 54
SK22	1一①中	-	-	ı	1.4	(0.7)	1.1	_	17c 末	57	SK58	2-3	-	-	-	1.2	(1.1)	0.2	1.2.5Y4/3オリーブ褐色砂 2.10YR4/2灰黄褐色砂 〔地山混、炭〕	SK91・SK92と同一 SK59を切る 18c末~19c初	54
SK23	1一①中	-	-	-	(0.7)	0.7	0.2	10YR4/3にぶい黄褐色砂 〔炭多・土器片〕	SK25を切る	55	SK59	2-3	-	箱形	-	(1.7)	(0.5)	0.1	断面図参照	19c 初 SK58に切られる 火鉢	10 54
SK24	1一①中	-	-	-	(0.8)	0.5	0.3	10YR4/2灰黄褐色砂 〔炭多〕		55	SK60	2-2	-	-	-	(2.4)	(1.3)	0.3	10YR4/1褐灰色粘砂質土 〔礫·小石混、炭〕	SX07を切る 18c 前半	13 54
SK25	1一①中	不整形	-	N77° E	0.9	0.8	0.5	10YR4/3にぶい黄褐色粘 〔小石混、炭・土器片〕	SK23に切られる	55	SK61	2-②	長方形	箱形	N63° W	2.1	1.4	0.7	断面図参照	上層から陶磁器 下層から木製品出土 17c 後半	10 13 54
SK26	1一①中	楕円形	-	N4° E	0.6	0.5	0.1	_		55	SK62	2-(2)	-	椀形	-	3.7	(2.6)	0.9	断面図参照	SK21・SK63と同一 18c 後半	10 54 55
SK27	1一①北	不整形	-	-	(2.9)	(2.6)	0.1	_	SK32・SK35に切られる 17c 中葉	54									1.10YR4/3にぶい黄褐色 粘砂[地山混、炭]		
SK28	1一①北	楕円形	-	N23° E	1.1	0.5	0.3	_	18c 中頃	54	SK63	2-2	-	椀形	-	3.7	(2.6)	0.9	2.10YR3/2黒褐色粘砂 [地山·小石混、炭] 3.10YR4/2灰黄褐色粘砂	SK21・SK62と同一 18c 後半	54 55
SK29	1_①db	不執形	皿形	NIII° E	2 0	2.4	(1.0)	断面図参照 1'.5Y4/1灰色粘砂	SK30に切られる 調査後最下検出	9									[地山・小石混、炭]		
31/23	1一①中	不整形	(円筒型)	N11° E	2.8	2.4	(1.0)	[地山·小礫多混] 2'.緑灰色粘[地山]	(土色') 井戸か 18c末	54	SK64	2-(2)	-	-	-	2.2	(1.2)	0.1	10YR4/2灰黄褐色粘砂	浅い	54
SK30	1一①中	楕円形	-	N90° E	1.2	1.0	0.1	2.5Y4/1黄灰色粘 〔小石多混、炭〕	SK29を切る 18c 末~19c	9 54	SK65	2-2	楕円形	-	N62° W	1.9	0.8	0.2	10YR4/2灰黄褐色粘砂 〔地山混、炭〕	17c 末~18c 初	54
SK31	1一①北	長方形	椀形	N62° E	2.1	1.6	0.9	断面図参照	18c 前半 礫・瓦片多い	9 54	SK66	2-2	-	-	-	2.1	(1.2)	0.4	_	SX07を切る 上面礫多い	13 54
SK31 —b	1-②中	-	-	-	(1.4)	(0.8)	0.2	_		57	SK67	2-2	楕円形	-	N51° E	1.5	1.4	0.5	_	18c 中頃〜後半 上面礫多い	13 56
SK32	1一①北	長方形	-	N63° E	1.6	0.8	0.2	_	石大量に廃棄 17c	54	SK68	2-2	-	-	-	4.8	1.1	0.1	_	18c 末~19c 初 上面礫多い SDか	13 56
SK33	1一①北	楕円形	皿形	N42° W	2.2	1.1	0.7	断面図参照	17c 後半	9 54	SK69	2-2	長方形	円筒形	N86° E	1.4	1.2	1.1	断面図参照	上面礫多い SX07に切られる	10 13 56
SK34	1一①北	不整形	椀形	N20° W	1.6	1.4	0.4	10YR4/2灰黄褐色粘 〔礫混•炭〕	18c 末~19c 初	9 54	SK70	2一①北 -2一①	不整形	不整形	N79° W	1.3	1.2	0.5	断面図参照	17c 後半~18c 前半	10 56
SK35	1一①北	不整形	-	N66° W	2.7	1.5	0.8	10YR4/2灰黄褐色粘砂 〔地山·小石混、炭〕	17c 後半~末	54	SK71	2一①北	-	-	-	3.9	(0.7)	0.5	-	SK73に切られる	56
	1-①北	_	_	_	1.3	(1.2)	0.3	10YR1.7/1黒色粘砂 〔大礫混、炭〕	17c 末	54	SK72	2一①北	_	_	_	(1.6)	0.9	0.4	_	SK71を切る 攪乱か	56

第3表 P 観察表

								I							-					T	
遺構名	調査区	平面形	断面形	方位軸	長辺 (m)	短辺 (m)	深さ (m)	土色等	時代·特記	図版	遺構名	調査区	平面形	断面形	方位軸	長辺 (m)	短辺 (m)	深さ (m)	土色等	時代•特記	図版
SK73	2一①北	-	-	-	(1.6)	(0.9)	0.6	_	SK71を切る 18c 中頃	57	P1	1一①中	円形	-	N89° E	0.5	0.4	0.1	_	SK37を切る	9 55
SK74	2一①北 -2一①	-	-	N18° E	2.5	(0.9)	0.4	_	SK76に切られる	56 57	P2	1-2	-	-	-	-	-	-	_	17c 中頃	-
SK75	2-①	楕円形	皿形	N63° E	1.2	0.9	0.2	断面図参照		11 57	P3	2-3	楕円形	-	N32° W	0.6	0.5	0.1	10YR4/2灰黄褐色粘砂 〔焼土混、炭〕	SK53に切られる	54
SK76	2-①	楕円形	-	N40° W	1.0	0.5	0.4	_	17c 末〜18c 初頭 SK74を切る	57	P4	2-3	楕円形	-	N32° E	0.5	0.4	0.3	_	SD06に切られる	54
SK77	2-①	不整形	逆台形	N88° W	1.3	1.0	1.2	断面図参照	18c 中頃 SK86を切る	10 56	P5	2-3	円形	-	N11E	0.7	0.7	0.5	_		9 54
SK78	2-①	-	椀形	-	(1.2)	1.0	0.4	断面図参照	17c 後半 SK87に切られる	11 56	P6	2-3	円形	椀形	N38° E	0.4	0.4	0.2	断面図参照	SK54に切られる	9 54
SK79	2-①	楕円形	-	N80° E	0.8	(0.4)	-	10YR4/3にぶい黄褐色粘 〔地山・焼土・小石多混、炭〕	石多い 浅い	57	P7	2-3	楕円形	-	N80° E	0.5	0.4	0.2	-	SK54に切られる	9 54
SK80	2-①	不整形	-	N48° E	1.1	0.6	0.4	-	18c 後半以降	57	P8	2-2	-	-	N90° E	(0.5)	0.4	0.1	_		54
SK81	2-①	-	-	-	(1.6)	1.3	0.1	10YR4/3にぶい黄褐色粘 〔地山・礫少混、炭〕		56	P9	2-①	楕円形	-	N60° E	0.5	0.3	0.3	-		57
SK82	2-①	_	椀形	N84° E	0.8	0.6	0.2	1.10YR5/6黄褐色粗砂 〔礫混〕	複層	57	P10	2-①	楕円形	-	N37° E	0.4	0.4	0.1	-		57
ONOL	- 0		176712	1407 2	0.0	0.0	0.2	2.10YR3/2黒褐色粘砂 〔小石混、炭〕	IX/E	3,	P11	2-①	楕円形	-	N42° E	0.7	0.4	0.1	_		57
SK83	2-①	-	-	-	(0.3)	(0.3)	0.2	10YR3/2黒褐色粘砂 〔小石混、炭〕	遺物少量	57	第4氢	長 5	SD 1	朗察	表						
SK84	2-①	-	-	-	0.6	(0.4)	0.2	10YR3/2黒褐色粘砂 〔地山混、炭〕		57	遺構名	調査区	平面形	断面形	方位軸	延長 (m)	幅 (m)	深さ (m)	土色等	時代・特記	図版
SK85	2-①	不整形	-	N14° W	3.6	3.5	1.7	断面図参照	SK07に切られる 17c 前半	11 57	SD01	1-3	環状	_	N78° W	(4.5)	1.3	0.3	2.5Y4/1黄灰色粘	土師器片多数・ 須恵器片1 北から埋まる	57
SK86	2-①	楕円形	円筒形	N29° E	1.2	0.9	0.4	断面図参照	SK77に切られる	10 56	OD01		SK-DC		100 11	(4.0)	1.5	0.5	2.314/10/10/10	上層に近世片少数 周溝か 古墳前期	5,
SK87	2-①	不整形	箱形	N33° W	1.8	1.7	0.3	断面図参照	17c 後半 SK78を切る	11 56	SD02	1-3	直線	-	N64° E	(3.6)	0.5	0.2	10YR4/1褐灰色粘 〔地山多混、炭〕	遺物なし	57
SK88	2-①	不整形	-	N20° W	2.2	(0.5)	1.2	10YR3/1黒褐色粘砂 〔地山混、炭塊〕		56	SD03	1-3	直線	-	N61° E	(3.2)	0.4	0.1	-	SK11・SK12に 切られる 17c末	57
SK89	2-①	円形	-	N13° E	0.8	0.8	0.3	10YR3/3暗褐色粘砂 〔粗砂·小石多混〕		56	SD04	1-①中 -2-③	直線	皿形	N56° E	(12.1)	1.8	0.5	断面図参照	石組溝蓋あり SK90に切られる 陶磁器多い 17c 後半か	11 12 54
								断面図参照 1'.7.5Y4/1灰色粘砂			SD05	1一①中	直線	-	N64° E	(1.5)	0.5	0.1	_	17c 後半~18c 前半	11 57
SK90	1-24t -2-2	-	箱形	-	1.9	(1.6)	(0.4)	[地山2種混] 2'.10YR5/6黄褐色粗砂 [地山1]	調査後最下層検出 (土色') 井戸か SD04を切るか	11 54	SD06	2-3	直線	箱形	N11° W	(4.1)	0.9	0.3	断面図参照	SK53を切る 18c 後半~19c 初	12 54
								3'.5GY5/1オリーブ灰色粘 〔地山2〕			SD07	2-①	直線	皿形	N58° E	(6.1)	0.5	0.1	断面図参照	石多数検出 土塀基礎か SK85・SK93を切る	11•12 56•57
SK91	2-3	-	-	-	(1.4)	1.2	0.3	-	SK58と同一	54	第5氢	長 5	SX 額	見察	表						
SK92	2-3	楕円形	-	N71° W	1.4	0.8	0.5	-	SK58と同一	54	遺構名	調査区	平面形	断面形	方位軸	長辺 (m)	短辺 (m)	深さ (m)	土色等	時代•特記	図版
SK93	2-①	-	-	-	(1.2)	(0.5)	(0.6)	1.2.5Y6/3にぶい黄色粘砂 1'.10YR4/3にぶい黄褐色粘 〔植物遺体多〕		56	SX01	1一①南	-	-	-	(5.5)	(3.1)	0.1	_	陶磁器・礫多数 攪乱か	12 57
SK94	2-①	-	-	-	3.5	(1.1)	0.2	10YR4/2灰黄褐色粘砂 〔上方に礫混〕	上方石多数検出 17c 後半	56	SX02	1一①南	不整形	-	-	(2.3)	(2.0)	0.4	_	焼土・煉瓦	12 57
SK95	2-①	_	_	_	(1.3)	0.7	(0.8)	1'.7.5Y4/1灰色粘 〔中央大礫混やや軟質〕	調査後検出(土色')	57	SX03	1一①北	-	-	-	-	-	-	_	SK33・SK34の上層 19c	9 54
01133	- 0				(1.5)	0.7	(0.0)	2'.2.5Y4/2暗灰黄色砂 [周囲砂利·小石多混]	井戸か	3,	SX04	1一①北	-	不整形	N39° E	(2.4)	(1.6)	0.7	断面図参照	陶磁器多い 18c 末~19c 初	13 54
SK96	1一①中	-	-	-	(2.8)	(2.1)	(0.3)	1'.N2/黒色粘 〔地山混、植物遺体・炭〕	調査後検出(土色') レンズ状堆積 井戸か	55	SX05	1一①北	不整形	-	N24° W	(1.6)	(0.8)	0.2	_	SK35上層 17末	54
第2氢	₹ 5	SE復	見察:	表							SX06	1一①北	-	不整形	-	1.3	(0.9)	0.6	断面図参照	SK33・SK34を切る 2土坑の集合体か 19c	13 54
遺構名	調査区	平面形	断面形	方位軸	長辺 (m)	短辺 (m)	深さ (m)	土色等	時代·特記	図版	SX07	2-②- 2-①北	-	皿形	-	(4.8)	(1.2)	0.5	断面図参照	SK60・SK61に切られる 瓦片多い 上方に礫多い 17c 後半	54
SE01	1-3	楕円形	箱形	N78° E	2.0	1.7	0.9	_	北西壁中央深さに抉 り湧水なし (埋土十大石)あり	11 57	*()	書きは	の数(	直は木	<b>负</b> 出列	<b>長存</b> 値	直を示	<b>きす</b> 。			
SE02	1一①中	楕円形	円筒形	N83° W	1.8	1.5	(1.6)	1'.10YR4/3にぶい黄褐色粘 〔中央大礫多混〕 2'.10YR4/6褐色砂利・小礫 〔周囲〕	石積 18c 後半 調査後検出(土色') レンズ状堆積 SE03に切られる	11 57	ſN5	0° E	」は	北か	ら東	^50°	振	れて	ifを、「E」は東を、 いることを示す。 -		
SE03	1一①中	不整形	_	N23° W	2.0	1.7	(0.5)	——————————————————————————————————————	SK18 18c 後半 舟底板転用枠	※土色等欄の「粘」は粘質土を、「砂」は砂質土を、「炭」は炭化物を示す。 12											
SE04	1-Q#L		_	N10° W		0.9	_	_	SE02を切る SK45	12											
	- 9/10	.3/12		"					調査後井戸枠検出	54											

## 第4章 出土遺物

#### 第1節 概要

本書で報告する出土遺物の大半は江戸時代に属するものであり、土坑、溝等から大量に出土している。第2節から個別遺構ごとに報告するが、紙幅の都合により、その遺構の年代を示すものや特殊なものなどを主にとりあげる。基本的に器種別となっており、報告は番号順に行うのでご了承願いたい。遺物が属する調査区、個々の遺物の法量や調整等は第6表~第12表を参照願いたい。また、文中の分類や年代観については、巻頭凡例に示した各論考を参照願いたい。

#### 第2節 土坑(SK)出土遺物

SK01(第14図) 1 は磁器製ミニチュア碗、2 は磁器小坏である。このほか、肥前産陶器の胎土目皿、砂目皿、すり鉢など17世紀代のものも出土しているが、青磁染付筒碗が出土していることから17世紀末~18世紀後半が下限であろう。

SK04(第14・42図)第14図 3 は肥前産陶器鉢で白泥の刷毛目が施され、見込みは蛇目釉剥となっている。 17世紀末~18世紀初頭か。第42図  $1 \sim 5$  は板状木製品、 6 は棒状木製品、 7 は栓。 8 も端部が斜めに削ってあるため、栓状の形状を呈する。

SK06(第14・35・42図)第14図4は肥前産磁器猪口で被熱のためか器の表面が白濁し染付の一部が退色している。5は肥前産磁器小坏、6は同紅皿である。7~10は肥前産磁器碗、12は肥前産磁器蓋物である。7は高台内に「大明年製」銘がある。17世紀後半~18世紀のものであろう。8の碗の内外には赤を中心とした色絵が施されている。12・13は肥前産磁器皿で、12の皿は高台内のみ染付の上に濃灰色の釉がかけられている。高台内の銘は「寿福」とみられ、17世紀後半代のものか。隣接するSK08から12の破片が出土している。14は肥前の波佐見産磁器鉢で高台内は蛇目釉剥され鉄釉が塗られており、高台内が大きく歪んでいる。15は京焼の陶器碗で高台内に「仁清」と刻印が残る。16・17は陶器碗である。16は京・信楽産の碗で、器形は下ぶくれで高台内に 「仁清」と刻印が残る。17は肥前産の陶胎染付碗である。18は肥前産陶器皿で見込みが蛇目釉剥されていて白泥で刷毛目を描いている。19~29は在地産土師器皿で、19~20など外面底部にムシロ目が残る17世紀前半のものから、21~29などの内面体部に凹線が巡る18世紀中頃や18世紀末~19世紀初頭にかけての製品と思われるものまでが混在している。第35図1は赤瓦の丸瓦である。第42図9~12は板状木製品であるが、六角形の板の一部のように見える。13~17は板状木製品、18・19は棒状木製品、20は刷毛である。21は漆器椀で内面赤漆、外面黒漆が塗布されている。22は曲物の蓋または底であろうか、円板状の木製品である。23~25は差歯下駄である。

SK08(第15図) 1 は肥前産磁器碗で外面にコンニャク印判が押されており、17世紀末頃~18世紀前半のものである。 2 は京焼陶器の皿であろうか。 3~5 は在地産土師器皿で体部内面に凹線が入る。17世紀末頃~18世紀初頭のものか。そのほか、絵唐津向付と思われる破片や、肥前産陶器の白泥による刷毛目鉢、在地産土器の火鉢などが出土している。

SK09(第15図) 6 は肥前産磁器紅皿である。高台内に墨書が見られる。 7 は肥前磁器碗で漆継がある。 高台内の銘は「年」のみ残存しており、染付に朱・緑・黒などの色絵が施してある。 8 は肥前産磁器 皿で手塩皿か。 9 は在地産軟質施釉陶器で、楽焼の抹茶碗か。全体に緑釉をかけ、外面体部にはヘラ 描きで文様があり、高台内は中心部が釘彫りしてある。口縁部が欠けたときの漆継痕が残る。10は肥 前産陶器甕である。11~14は在地産土師器皿である。体部から口縁部が外反し、体部内面に凹線が巡り、底部は丸みを帯びている。18世紀中葉のものであろう。13の口縁部には灯明の芯を固定するための丸い凹みが有り、その周辺のみ灯芯油痕が付着している。底部には径 3 mmの穿孔が 1 つある。

SK10(第15・40・42図)第15図15は肥前産磁器碗で、16は肥前産磁器皿で見込にコンニャク印判の五弁花があり、高台内には「大明年製」の銘がある。18世紀前半のものか。17は肥前産陶器向付。18は器種が不明であるが、水盤か建水または灰器であろうか。内面は無釉である。19~22は土師器皿で、19・20は体部から口縁にかけて外反し、体部内面に凹線が巡る丸底のもので18世紀中頃のものであろう。21・22はV類でも小型で、18世紀初頭~中頃のものか。23は三足が付く在地産の火鉢である。第40図1は粘板岩製の砥石である。第42図26~30は円盤状木製品である。31は板状木製品、32は箸、33は棒状木製品、34は連歯下駄である。

SK11(第16図) 1 は瀬戸産磁器碗で、文様はコウモリ文様であろうか。 2 は九谷産陶器鉢で、灰釉地に 鉄釉で模様が描かれ、口縁は外反し先端は内側に折れる。 3 は京・信楽産陶器灯明皿で、灰釉が施されている。いずれも19世紀に入る時期であろう。

SK12(第16図) 4 は瀬戸産磁器皿である。口縁部には染付の口紅が施されている。19世紀代のものであろう。

SK16(第16・43図)第16図5は肥前産陶器火入で鉄絵の格子文が描かれている。16世紀末のものである。 そのほか、在地産土師器皿で底部にムシロ目の残るものなども出土している。第43図1は匙のような 形をした不明木製品、2は連歯下駄である。かなり使用したのか、すり減り方が激しい。

SK17(第16・43図)第16図 6 は中国産の青磁碗で、体部外面下方に沈線が巡り、高台畳付中程から高台内面にかけて無釉である。室町時代のものであろう。7・8 は在地産土師器皿で、7 は体部から口縁にかけて開き端部が内側へ折れる。17世紀後半のものである。8 は底部が小さく平坦で内面に凹線が巡る。18世紀初頭のものである。第43図 3 は差歯下駄である。

SK19(第16図)17は外面二重網目文、内面一重網目文で見込中央に花文様が描かれる肥前産磁器碗で、18世紀前半~中頃のものである。18は肥前産磁器青磁合子の身で、糸切り底となっている。畳付と蓋が被さる返しの部分のみ無釉である。

SK20(第16・34・43図)第16図9は肥前産磁器の白磁猪口で口縁部が外反する。17世紀後半~18世紀初頭のものか。10は肥前産磁器合子蓋である。外面に染付で「寿」という文字が8字書かれている。11は肥前産白磁の鉢か。内面は型で陽刻の文様が施されている。12は肥前産磁器の青磁染付の鉢で蛇目凹型高台である。18世紀後半~19世紀代のものか。13は京・信楽産陶器の碗で外面に鉄絵が見られる。14は施釉土器の水注で、赤褐色の胎土に白泥文様が描かれ透明釉がかけられている。15は在地産土師器皿で体部から口縁にかけて外反し、内面に凹線が巡る。18世紀中頃のものであろう。16は在地産施釉土師器皿で耳が付く。第34図18は煙管の雁首である。第43図4は棒状木製品で2箇所穿孔がある。5・6 は箸、7 は円板状木製品である。

SK21 (第17・34・43図) 第17図 1 は肥前産陶器碗で、口縁部には灰釉地に鉄釉で口紅が施されている。底部から高台にかけて内外面鉄釉が塗布されている。17世紀後半~18世紀初頭のものか。 2 は肥前産陶器で絵唐津の皿または向付である。透明釉に鉄釉で草花文が描かれている。16世紀末~17世紀初頭のものである。 3・4 は在地産土師器皿で、 3 は体部内面に凹線の入るタイプのもので17世紀末~18世紀初頭のものか。 4 は内面に凹線が入らない丸底のもので、17世紀末頃のものか。 5 は在地産土器の火鉢である。内外面は墨で塗ったように黒くなっている。第34図19は煙管の吸口で、外面に鶴の文様が彫ってある。第43図 8 は桶側板で焼印が見られる。 9 は連歯下駄である。10は差歯下駄の歯である。

SK22(第16・43図)第16図19は肥前産磁器の小坏である。20は在地産土師器皿。底部の丸いタイプで17世紀末頃のものか。第43図11は板状木製品で穿孔が1箇所ある。12は先端部分をとがらせ、もう一方の端を加工してある不明木製品。13・14は箸、15は棒状木製品、16は棒状竹製品。17は不明木製品であるが、加工痕が見られる。

SK27(第17・35図)第17図 6 は在地産土師器皿で、底部は広く平坦で体部の開きが強い。器壁は比較的 薄い作りの I 3 類か。17世紀中葉のものと考えられる。そのほか、肥前陶器の砂目皿なども出土して いる。第35図 2 は燻瓦の平瓦片で、「□上」と刻印がある。

SK28(第17図) 7 は肥前産磁器皿で内面に格子文、見込は蛇目釉剥ぎである。17世紀後半~18世紀中頃の波佐見の製品か。

SK29(第17・34・39・40図) 第17図 8・9・11は肥前産磁器碗である。 8 は外面にコンニャク印判による 団鶴や菊のような文様が付けられている。18世紀前半代のものか。9は青磁染付の筒碗で、内面口縁 部には四方襷が巡り、見込みには二重圏線とコンニャク印判の五弁花文がある。18世紀後半のもので ある。11は小丸碗で外面には雪の輪文が描かれている。見込には手描きの五弁花文がある。18世紀後 半~19世紀初頭までに作られたものであろう。10は産地不明の碗である。胎土は砂が多く混ざってい るようでガサガサしている。外面が青磁釉、内面が透明釉で貫入が多い。高台の畳付は無釉で砂が付 着しており一部外側を削っている。12は肥前産磁器皿で見込が蛇目釉剥ぎになっている。17世紀後半 ~18世紀中頃の波佐見の製品か。13は肥前産磁器蓋で染付の上に色絵が施してある。14~17は陶器碗 である。14と15は外面に飛ガンナで付けたような細かい文様が見られる。瀬戸美濃産の鎧手か。18は 陶器土瓶、19~21は在地産土師器皿で、19は丸底で内面の凹線が体部上位に巡る。18世紀後半のもの か。20・21は底部が比較的平坦で凹線が体部と底部の際に明確に入るもので、18世紀末~19世紀初頭 にかけて作成されたものであろう。21は底部外面に墨書が認められる。22は在地産施釉土器皿である。 23は在地産土器の火鉢で外面に花の刻印が見られ、口縁部には敲打痕が多数ある。第34図22は銅製の 匙か。24は鉄製の舟釘状の製品である。25は鉄製の刃物か。第39図1は土人形で、天神様である。5 は中心に穿孔があり、孔を縁取るように墨で四角が描いてある。また、墨書も見られる。孔には金属 の棒状のものが残存していた。独楽か。16はミニチュアの釜である。第40図2・3は明確な接合点は ないが石製桟瓦の様な形状をしている。越前産笏谷石と考えられる緑色凝灰岩製である。

SK30(第18・34・40図)第18図1は肥前産磁器碗である。18世紀末~19世紀初頭のものであろう。2と3は陶器の植木鉢である。2は内外面鉄泥が塗られている。越前産であろう。第34図26~28は鉄製の釘である。第40図4は温石で穿孔が1箇所ある。頁岩製か。

SK31(第18・19・35・36・40図)第18図 4・5 は肥前産磁器で白磁の猪口、6 は肥前産磁器小坏である。17世紀後半~18世紀前半頃のものか。7~14は肥前産磁器碗である。7~12は17世紀後半~18世紀前半頃のものか。13は色絵碗で、白磁に朱・青・緑・黒の色絵が施してある。17世紀中頃~後半のものであろう。14は碗で、17世紀後半~18世紀初頭にかけてのものか。第19図 1 は肥前産陶器すり鉢で口縁部にのみ鉄釉がかかる。17世紀中頃のものである。2~7 は在地産土師器皿で体部が開き気味に立ち上がり端部を内側へ折り曲げる形で、いずれも17世紀後半のものか。第35図 3~8 は燻瓦である。3~5が丸瓦、6~8 が平瓦で、3の丸瓦の内側には刺縫痕が残る。4 の丸瓦の内側には刺縫痕とコビキB技法による粘土切り離し技法が残る。5 には花びらを表現しているのか円に細かなキザミを入れた中に梅鉢文がある刻印が見られる。6 には四つ割り菱の家紋に似た刻印、7 には「○十」の刻印が見られる。第36図 1 は燻瓦で、平瓦である。第40図 5~7 は砥石で、5 と 6 は中粒砂岩、7 は泥岩であろうか。

SK32(第19・34・36・40図)第19図8・9は肥前産磁器合子である。10は肥前産磁器小坏で漆継痕が残る。11・12は肥前産磁器碗で、高台内には二重圏線が巡る。18世紀前半のものか。14は肥前の京焼風陶器碗で、外面に鉄絵、底部外面に鎬文様の陰刻が巡る。15は肥前産陶器小杯で、鉄釉がかけられ高台は無釉である。16は越前産陶器鉢で鉄泥がかけられている。17~19は在地産土師器皿で小さめの底部から体部が開き気味に立ち上がる。17と18は口縁端部を丸く収め、19は小さく内側へ曲げる。ともに17世紀後半のものである。第34図29・30は鉄製の釘である。第36図2は燻平瓦で、3は腰瓦(壁に使用される燻瓦)である。表には図に破線で示したとおり色が変色した箇所がある。破線の外側が本来の色で、内側が退色したような白っぽい色になっている。表面の辺中央には方形の凹みがあり、壁に取り付ける際に釘で打ち留められていた箇所である。この凹みは実測図下の辺の割れ口部分にもあったようで痕跡が残っている。第40図8・9は砥石である。

SK33(第19図)20は肥前産磁器小坏、21は肥前産磁器碗である。13は中国産青磁鉢か。22は産地不明陶器土瓶、23は在地産土師器皿で体部から口縁にかけて大きく開き端部を丸く収めている。17世紀後半のものであろう。

SK34(第20図) 1 は漳州窯の磁器碗である。高台には砂が付着し、畳付は10/12程度の範囲で打ち欠か れたようになっている。2は肥前産磁器碗で口縁部に口紅が施されている。また体部上方口縁部付近 には型紙摺りで七宝文が施されている。高台内には二重圏線が巡る。17世紀後半~18世紀前半のもの であろう。3は肥前産磁器碗で青磁染付、見込にコンニャク印判ではあるが花びらなどが鮮明にわか る五弁花、高台内に「大明年製」銘がある。18世紀前半のものである。4も肥前産磁器の小広東碗で、 18世紀後半のものである。5は中国産磁器皿で、高台に砂が付着している。畳付は無釉、高台内は中 心部が無釉となっており、褐色に変色している。6・7は肥前産磁器皿で、6は内面に虎の絵が描か れている。17世紀中頃~後半代のものか。 8・9 は肥前産磁器鉢である。 9 は焼継痕が見られ高台は 蛇目凹型高台である。18世紀末のものか。10は肥前産陶器皿で見込に胎土目跡が4つ残る。16世紀末 ~17世紀初頭のものである。11は17世紀中頃~後半代に盛行する肥前産京焼風陶器か。12は陶器皿で ある。13は肥前産陶器鉢で、白泥による刷毛目文様である。見込に砂目跡が残る。18世紀代のもので あろう。14は越前産陶器鉢で、19世紀代のものである。15は在地産施釉土器皿で同破片がSX04から も出土している。内面は型押し文様で木目文様になっており、口縁には沈線が5条巡る。刻印(「井 □」)がある。底部は布痕が残る。広坂遺跡の SK2380から類似品が出土している。16は在地産土器秉 燭。17·18は在地産土師器皿で、体部から口縁にかけて開き、丸底である。17世紀末頃のものであろ う。隣接する SK33の古い土器が混在しているが SK34は18世紀末~19世紀初頭の土坑であろう。

SK35(第21図) 1 は肥前産磁器小坏で見込に胎土目風の付着物がある。17世紀中頃のものであろう。 2 は瀬戸産磁器碗で19世紀代に入るものである。周囲からの混入品か、この磁器のみ年代が新しい。 3 は肥前産磁器皿で青磁釉がかけられ、見込みは蛇目釉剥ぎしてある。17世紀中頃~後半にかけて作られたものであろう。 4 は青磁の香炉である。底部の削りこみは浅く、高台内を鉄泥のような釉で塗ってある。肥前産であろうか。隣接する SK41でも同一の破片が出土した。 5 は肥前産陶器碗で呉器手と呼ばれる碗である。やや小ぶりで外面には緑釉で文様が描かれている。17世紀中頃~後半に作られたものである。 6・7 は肥前産陶器碗で京焼風陶器である。口縁部に口紅、高台の外面から内面にかけて鉄釉がかけられている。17世紀中頃~後半にかけて作られたものである。 8 は肥前産陶器すり鉢で17世紀後半に多く作られたものである。 9~13 は在地産土師器皿で体部から口縁部にかけて開き、底部が丸いことから、概ね17世紀後半~末頃に作られたものと考えられる。

SK36(第21図)14は肥前産陶器すり鉢で底部が糸切りになっているものである。17世紀後半に多く作ら

れたものである。15は在地産土師器皿で体部から口縁部にかけて開き、底部が丸底であることから17世紀末頃のものと考える。

SK37(第21図)16は肥前産磁器碗で、雲龍文を描いた小広東碗である。19世紀に入るものであろう。17は肥前産磁器碗で外面文様は型紙摺りである。17世紀後半~18世紀前半にかけて作られたものである。18は肥前磁器皿である。17世紀後半~18世紀中頃に作られたものか。19は肥前磁器皿である。20は産地不明の陶器甕である。

SK38(第22図) 1 は肥前産磁器蓋で、外面にコンニャク印判で文様が付けられている。17世紀後半~18世紀後半代のものか。 2 は京・信楽産陶器の煎じ碗で、灰釉と透明釉をかけ分けし、内外面に色絵付けしている。特に内面見込は目跡 2 つと傷跡 1 箇所を隠すように水色の花模様で絵付けしている。

SK39(第22図) 3 は在地産土師器皿で、底部は小さく平坦気味。体部見込際に凹線が巡る。18世紀初頭のものか。

SK40(第22図) 4 は肥前産磁器小坏、5 は肥前の京焼風陶器碗で、透明釉を施した後、鉄釉で高台内外面と口縁部に口紅を施している。17世紀中頃~後半にかけて作られたものである。6・7 は在地産土師器皿で、体部から口縁にかけて開き、口縁端部を丸く収める器形である。17世紀後半のものか。

SK41(第22・34・36図)第22図9は肥前産磁器碗で、白磁に青・緑・黒で絵付けしている。17世紀中頃~後半のものか。10は肥前産磁器碗で、外面にコンニャク印判で模様を付けている。18世紀前半のものか。11は産地不明の磁器瓶で外面に鉄釉がかけられている。12は肥前産磁器仏飯器で、杯部は青磁釉がかけられ、底部は無釉で高台内の削りこみは浅い。13は肥前産磁器皿で内面には矢羽根文が描かれ、見込は蛇目釉剥ぎされている。波佐見の木場山窯で17世紀中頃~後半にかけて多く生産された製品であろう。高台には砂が付着している。14は肥前陶器皿で外面が透明釉、内面が銅緑釉で、見込は蛇目釉剥されている。17世紀中頃~後半のものか。15~18は在地産土師器皿で17世紀後半~17世紀末のものか。18は底部に大きさの異なる穿孔が2箇所残る。地鎮などに使用された特別な皿か。第34図31は鉄製の釘である。第36図4~8は瓦である。4は燻瓦の丸瓦で穿孔が1箇所ある。内面には刺縫痕が残る。5は赤瓦の平瓦、6~8は燻瓦の腰瓦である。このうち6と8には破線部分で変色が見られ、「○堺」の刻印が見られる。7は「○十」の刻印が見られる。

SK42(第22図)第22図8は肥前産磁器皿である。

SK44(第23図)  $1\cdot 2$  は肥前産磁器小坏である。 1 は17世紀中頃~後半のものか。 2 は型紙摺りで花模様が描かれている。17世紀後半~18世紀前半にかけてのものである。  $3\sim 6$  は肥前産磁器碗で時期は概ね17世紀後半代のものである。 6 は鉄釉と瑠璃釉をかけ分けたもので、形状は筒形を呈する。 7 はミニチュアの銚子である。 8 は肥前産磁器で青磁の皿である。色調は白に近く、見込は蛇目釉剥されている。17世紀中頃~後半のものである。 9 は肥前産陶器すり鉢で17世紀後半のものである。底部は回転糸切りになっている。 $10\sim 12$ は在地産土師器皿で、丸底で体部から口縁にかけて開く。17世紀末頃のものである。

SK46(第24・34・39・43図)第24図1・2は肥前産磁器碗である。1は波佐見の製品と思われる。見込を蛇目釉剥する。17世紀後半~18世紀前半のものである。2は青磁染付で、口縁部に鉄釉で口紅が施してある。18世紀前半のものであろう。3は肥前であろうか。磁器の蓋物で、漆継痕がある。4は京・信楽産の陶器碗である。外面に鉄絵、外面底部に縦鎬文様の陰刻が巡る。5は肥前産陶器すり鉢で、17世紀末~18世紀中頃に作られたものである。6は軟質施釉土器碗である。7・8は在地産土師器皿で内面見込み付近に凹線が巡る。17世紀末~18世紀初頭のものか。9は在地産焼塩壺で、鉢形のものである。第34図21は不明銅製品である。第39図2は裃を着た男性の土人形である。第43図18は板状木

製品。19は棒状木製品で先端が尖るよう加工されている。

SK47(第23・39・40図)第23図13は肥前産磁器皿である。型で成形されており輪花となっている。高台は蛇目凹型高台である。18世紀後半~19世紀代のものである。14は陶器天目碗、15は在地産土師器皿で内型作り成形、16は在地産土錘、いずれも18世紀末~19世紀前半のものである。第39図7は土製の独楽で、12はミニチュアの舟である。第40図10は蝋石で作成した印章である。11は凝灰岩製の砥石である。

SK50(第23図)17は高杯の脚である。古墳時代のものか。18は在地産土師器皿で平坦な広い底を持つ。 外面には指頭圧痕がはっきり残る。17世紀前半のものである。

SK58(第24・39図)第24図10は在地産土師器皿で底部は平坦、体部はやや折れ気味に立ち上がり口縁部は丸く収める。凹線は見込近くに巡る。18世紀末~19世紀初頭のものであろう。第39図6は土製の独楽である。型成形で車輪のような文様が付けられ、中央に芯を通す穿孔が1箇所ある。

SK59(第24・37図)第24図11は肥前産磁器紅皿で、型打ち成形で貝殻風にしたものである。19世紀初頭のものか。12は中国産磁器碗である。漳州窯製か。13は在地産土器風炉である。第37図1は燻瓦の平瓦で「○△」の刻印が見られる。

**SK60(第24・37図)** 第24図14は肥前産磁器碗で18世紀前半のものである。第37図 2 は燻瓦の腰瓦で「○ 堺」の刻印がある。

SK61 (第24・37・43図) 第24図15は肥前産磁器碗で高台内に砂が付着している。17世紀前半のものであろう。16・17は肥前産陶器すり鉢である。16は口縁にのみ鉄釉がかかる。17世紀前半のものである。17は玉縁の口縁で口縁部のみ鉄釉がかかる。17世紀後半のものである。18・19は在地産土師器皿である。体部から口縁にかけて開き、底部は丸みを帯びる。口縁端部は内側に小さく折れ曲がる。17世紀後半のものであろう。第37図 3 燻瓦の丸瓦である。内面は刺縫痕、コビキBによる粘土切り離し技法痕、棒状圧痕が見られる。第43図20~23は板状木製品、24は漆器椀で内面赤漆、外面は黒漆で、赤と金で花文様が描かれている。25は漆器の椀か皿である。内面赤漆、外面黒漆が塗布されている。

SK62(第25・37・43図)第25図1は肥前産磁器紅皿、2~5は肥前産磁器碗である。2の高台内には「富貴長春」銘、見込には手描きの五弁花が描かれている。18世紀後半代のものであろう。3は波佐見のくらわんか碗で外面には草花文や雪の輪文が描かれている。高台内には銘がある。18世紀中頃~後半のものか。4は内面口縁部付近に四方襷文が巡り、見込にコンニャク印判の五弁花がある。18世紀後半代か。6は陶器蓋で把手が動物形(犬か)となっており、鉄絵や染付、白泥による装飾が見られる。7は在地産土師器皿で、体部から口縁にかけて内湾気味に短く立ち上がる。四線は体部上方に巡る。18世紀後半代のものか。第37図4は燻瓦の平瓦である。第43図26~28は板状木製品、29は箸、30は桶等の持ち手であろうか、棒状の木製品である。31~33は桶側板で、箍痕が残る。31には焼印が見られる。34は桶の蓋で焼印が見られる。35・36は円板状木製品で、36には内外面に黒漆が塗られる。37は不明木製品。38は柄杓の容器部分か。39は差歯下駄である。

SK63(第44図) 1 は円板状木製品である。

SK65(第25図) 8 は肥前産陶器皿である。透明釉がかけられ、見込に鉄絵の一部が見られる。体部外面下方から高台にかけて無釉。京焼風陶器であろう。 9 は在地産土師器皿である。丸底で体部内面に凹線が巡る。17世紀末~18世紀初頭のものか。

SK67(第25図)10は肥前産磁器の筒碗で、見込に五弁花文の一部、外面底部には折れ松葉の文様が見られる。18世紀中頃~後半のものか。

SK68(第25図)11·12は肥前産磁器小坏である。11は外面に蛸唐草文、12は外面に氷裂文が描かれている。18世紀末~19世紀後半のものか。

SK70(第25図)13は肥前の波佐見産磁器碗で、外面にはコンニャク印判の文様、高台内には崩れた銘が見られる。17世紀後半~18世紀中頃のものであろう。

SK73(第25図)14は肥前産磁器猪口で、口縁部外面に雨降文が巡る。18世紀中頃のものか。15は肥前産陶器小坏か。16は陶器の小型甕か。17は在地産土師器皿である。比較的大ぶりで体部から口縁にかけて開き、丸底である。17世紀末頃のものであろう。

SK76(第25図)18は在地産施釉土器の小坏か。型打ち成形で六角形になっている。内面は茄子が2個描かれ、外面には小花のスタンプが巡る。19・20は在地産土師器皿で、体部内面に凹線が巡り丸底であることから17世紀末~18世紀初頭のものと考えられる。

SK77(第25・39図)第25図21は肥前産磁器小坏である。22・23は肥前産磁器小壺である。22は内面にも 釉がかかっているが、底部外面は無釉である。23は内面が無釉である。蓋が付く薬壺か。24・25は肥 前産磁器碗で18世紀前半のものか。26は肥前産磁器皿で口縁部に口紅が施され、輪花になっている。 17世紀中頃のものである。27は越中瀬戸産陶器碗である。28は瀬戸美濃産陶器碗である。18世紀中頃 のものか。29は美濃産陶器皿で長石釉がかかる稜皿。30~32は在地産土師器皿である。30・31は17世 紀末のもので、32は18世紀初頭のものであろう。第39図10は陶器製の水鳥で、全体に透明釉、首後ろ に染付、尾に鉄釉が施されている。大阪の堂島窯跡出土品に似たものがある。

SK78(第26図) 1 は瀬戸美濃産陶器すり鉢である。 2 は在地産土師器皿である。比較的大ぶりで体部から口縁にかけて開き、丸底だが凹線が入らないタイプである。17世紀後半のものである。

SK80(第26図) 3 は陶器蓋で、外面に桜のスタンプが見られる。 4 は瀬戸美濃産陶器鉢である。18世紀後半以降か。

SK85(第26・27・40・44図)第26図 9・10は肥前産磁器碗である。 9 は筒碗で外面上部に四方襷が巡る。 高台には砂が付着し、文字が書かれている。17世紀前半代のものであろう。11は中国産磁器皿である。 漳州窯であろう。12は肥前産陶器小坏で内面及び体部外面中程まで白っぽい灰釉がかけられている。 体部下から高台は無釉。口縁部が外反する。17世紀前半のものか。13は産地不明陶器の茶入である。 外面は鉄釉と藁灰釉のかけ分けとなっており平底の底部には粗い砂が少量付着している。胎土の一部 には黒色土が練り込まれているようにも見える。14は肥前産陶器の碗であろうか。15・16は肥前産陶 器皿で、高台内と見込みに砂目が付着している。17世紀前半のものである。17は産地不明の水盤また は灰器のようなものであろうか。鉄絵や刷毛目で装飾が施されている。18は産地不明の火入か。白泥 で文様を描いてあり底部には三足が付く。第27図1は肥前産陶器鉢で見込と高台内に砂目痕が残る。 17世紀前半代のものである。2は肥前産陶器すり鉢で、17世紀前半のものである。3は越中瀬戸産の すり鉢か。4は肥前産陶器の甕で17世紀代のものである。5~13は在地産土師器皿である。平坦な底 部から体部が比較的急に立ち上がり口縁部は内湾気味に収めている。主に17世紀前半代のものであろ う。第40図12は凝灰岩製の砥石である。第44図2は板状木製品、3は棒状木製品、4・5は箸である。 6は櫛の様な不明木製品である。7は漆器蓋で、内面は赤漆、外面は黒漆が施され、黄と赤で花の文 様が描かれている。8は漆器椀で内面に赤漆、外面には黒漆が塗られ、赤で花の文様が描かれている。 9は円板状木製品である。

SK87(第26・44図)第26図5・6は在地産土師器皿で、小さめの底部から体部が開き気味に立ち上がる。 口縁端部を丸く収め、丸底であることから、17世紀後半のものであろう。第44図10は漆器椀で内面赤 漆、外面には黒漆が施されており、高台内に赤漆で丸が描かれている。 **SK88(第34・37図)**第34図 9・10は寛永通宝である。 9 は新寛永、10は古寛永である。第37図 6 は赤瓦の軒桟瓦である。瓦を留めるための穿孔が 2 箇所見られる。

SK91 (第37図) 7 は燻瓦の丸瓦である。内面に刺縫痕とコビキB技法による粘土切り離し技法痕が見られる。

SK94(第26・37図) 第26図 7 は磁器の火入で、外面に青磁釉と釘彫りのような装飾が見られる。 8 は在地産土師器皿で、小さめの体部から口縁にかけて開き、口縁端部を内側へ小さく折り曲げる形で17世紀後半のものか。第37図 8 は燻瓦の平瓦で、「○堺」の刻印が見られる。

SK96(第44図)11は板状木製品で、穿孔が1箇所ある。

### 第3節 井戸(SE)出土遺物

SE02(第28図) 1 は京・信楽産陶器碗で碁笥底となっている。灰釉がかけられており、内面には貫入が多い。外面は火を受けたのか白っぽく変色している。 2 は肥前産陶器碗で陶胎染付である。17世紀後半~18世紀中頃に作られたものである。 3 は須佐産陶器すり鉢である。高台内には工具痕が残る。 4 は在地産土師器皿で、内面の凹線が体部上位に巡る。18世紀後半のものであろう。

SE03(第28・38・41・44~47図)第28図5は肥前産磁器紅皿で、外面が貝殻状に型押し成形されやや青みがかった白磁釉がかけられている。6は肥前産磁器碗で17世紀後半~18世紀前半のものか。7は肥前産磁器の白磁の変形皿でロクロ型打ち成形である。第38図1は燻瓦の鎌桟瓦である。第41図1は泥岩製の硯、2は越前産笏谷石の製品である。第44図12は板状木製品で建築部材か。両端に加工痕や釘孔が見られる。13・14も板状木製品である。15・17は棒状木製品、16は杭か。18~20は円板状木製品で、18には焼印が見られる。「木越屋」か。21~25は桶側板で、21と22には酒瓶のような焼印が見られる。同一の桶であろう。26は不明木製品。第45図は建築部材であろうか。7を除く木製品にホゾやホゾ穴などの加工痕が見られる。

第46図と第47図は SE03の井戸枠として転用されていた舟の底板である。出土した材の厚さは6.4cm ~ 8 cm で、それぞれ 3 枚の板を結合してある。これらの底板を説明するために第47図の模式図に表したとおり、便宜的に板ごとに a~k のアルファベットを振った。実測図の左側が表面で、断面図・側面図を挟んで右側が裏面である。また、第46図の1と2、第46図3と第47図1はもともと接合していたが、井戸枠として使用する際に第46図の1と2は裁断し、第46図の3と第47図1はホゾを外し、真中の板は折ったと考えられる。前グループと後グループは同一の底板であるかは不明であるが、板厚などは似ている。

第46図1の底板について、aには側面からbに向かって2箇所の通り釘が残存し、1箇所通り釘があったと思われる孔がある。また、a側面には漆のような暗褐色の付着物が所々に見られ、棚板との接着剤として使用したと考えられる。棚板と結合するために2箇所舟釘が打たれていたと思われ、1箇所のみ舟釘が残存している。舟釘を打ち込む際に底板の表面を彫り凹めてある。この凹みに埋木があったと考えられるが残存しない。cの板にはbに向かって4箇所の通り釘があり通り釘が残存している。棚板と結合するための舟釘が打たれた思われる孔が2箇所残る。cの側面にも漆のような暗褐色の付着物が見られる。cの裏には木釘と考えられるものが3箇所打たれ、その孔と思われるものが2箇所見られる。bの裏にも木釘の穴と思われるものが1箇所ある。a・b・cの上面にはホゾがあったのか痕跡が残っている。

第46図2の底板について、dの板には表側に3箇所、棚板と底板を結合するための舟釘が打たれている。その際、打ち込む部分を方形に穿ち、底から棚板に向けて舟釘を打っている。穿たれた穴には

釘隠しのための埋木がはめ込まれていたと考えられるが残存しない。fの板も同じように棚板に向けて舟釘が3箇所打たれている。dの裏にはやはり釘を打ち込むための穴が彫られ、通り釘がdからeに打たれている。ここは埋木が残存している。同じものがfの裏側にもあり、通り釘がfからeに向かって打たれている。dとe、eとfを結合するためにチキリが埋め込まれている。チキリは底板の木目と逆の木目にしてあり、強度を考えてつくられている。整理作業中に、dとe結合しているチキリが外れたので、チキリの裏を見ると漆が塗られたような痕跡があった。eとf接合部には木の皮のようなものが挟まっている。木と木の間にマキハダ(槙肌:檜などの皮を繊維状にしたもの)と漆を詰め充填剤として使用したものであろう。

第46図3の底板について、3もほかと同様にもともと3枚の板を結合していたと考えられるが、左側の板は残存していなかった。gの表面右には、gとhを結合するための鎹が打たれている。この鎹の反対側にも、gと現存しない別材を結合するための鎹を打ち込んだ痕が見られる。また、hの板の下には、kと結合するためのホゾが設けられている(kにはホゾ穴が穿たれている)。ホゾで結合した上からも鎹で繋いであった痕跡が残っている。hの底板表面には棚板と結合するための舟釘跡が3箇所あり、釘隠しの埋木は残っていない。これらの舟釘の下には鉄の釘が3箇所に打たれている。hの裏には舟釘3箇所、釘穴9箇所が残る。gの裏には舟釘1箇所、釘穴1箇所が残る。

第47図1の底板について、iの板には側面に3箇所、棚板と底板を結合するための舟釘が棚板方向から底板に向かって打たれている。また、2箇所に平たい木製の楔のようなものが打ち込まれている。iの板の表面下方には底板から棚板方向へ舟釘を打ち込んである。その際、打ち込む部分を長方形に穿ち、釘隠しのための埋木がはめ込まれていた形跡が残る。iの板中程にはiとjを結合するための通り釘を打ち込むために長方形に表面を凹ませてあり、釘隠しの埋木が残存している。さらにiとjを結合するために鎹が打たれ、鎹隠しの薄板が漆で貼り付けられている。iの上方には第46図3と結合するための鎹の跡が残る。iの裏面には舟釘4箇所、木釘が1箇所残る。kの板には底板から棚板に向けて3箇所舟釘が打ち込まれている。kの表面下方にもiと同様に底板から棚板へ舟釘を打ち込むため底板表面を長方形に穿ってあり、釘隠しの埋木があったと考えられるが埋木は残存しない。kの表面中程には、kとjを結合するための鎹と、通り釘を打ち込むための長方形の凹みがあり、凹みには釘隠しの埋木が残る。kの上方には第46図3のhと結合するための鎹の痕が残る。k裏面には舟釘4箇所と木釘が1箇所残る。iとkの上端部にはホゾ穴が造られ、第46図3と結合できる。真中のjと第46図3のgは同じ板である。ホゾで結合するあたりで折られている。

**SE04(第28・48・49図)**第28図 8 は陶器瓶で、漆継されている。産地は不明。第48図 1 ~ 8 と第49図 1 ~ 5 は SE04の井戸枠で桶を転用している。外面に箍跡が残る。

### 第4節 小穴(P)出土遺物

**P2 (第28図)** 9 は肥前産陶器皿で見込に胎土目が1つ、高台に胎土目痕が二つ見られる。16世紀末のものである。10は肥前産陶器瓶であろうか、高台は極浅い。内外面に黄白色の釉がかかるが、熱を受けたように火ぶくれを起こし光沢はない。外面の釉の一部は剥がれている。11は在地産土師器皿で17世紀中頃のものか。

- P3 (第28図)12は瀬戸美濃産陶器皿である。灰釉がかかっている。
- P7 (第28図)13は京・信楽産陶器碗で、口縁部はほぼ垂直に立ち上がる。外面に鉄絵が見られる。
- P11(第28図)14は在地産施釉土器の植木鉢である。底部に穿孔が1箇所ある。

# 第5節 溝(SD)出土遺物

**SD01 (第28・29図)** 第28図15~21は土師器甕である。15は有段擬凹線の口縁部を持つ。22と23は甕か壺の底部である。24と25は土師器壺である。24は段を持つ口縁部のみ残る。第29図 1 も土師器壺で、2 は壺か甕か不明である。 $3 \sim 6$  は土師器高杯で、 $7 \sim 9$  は高杯あるいは器台の脚部である。10は土師器の小型壺、11は醸形土器である。概ね古墳時代前半のものであろう。

**SD03(第29・34図)**第29図12は在地産土師器皿である。開き気味の体部で内面に凹線は見られない。IV4 類で17世紀末頃のものか。第34図32と33は鉄製の釘である。

SD04(第29・34・37・40・49図)第29図13は瀬戸美濃産磁器碗で外面に雲龍文の釘彫りと瑠璃釉がかけられている。高台畳付無釉で高台内は透明釉。焼継がある。19世紀のものか。14は肥前産磁器皿で型押し成形。内面は全体が菊花でその中に小さい2種類の菊花が散らされている。15は九谷産硬質施釉陶器皿で胎土は乳白色、細かな貫入がある。16は九谷産陶器すり鉢である。底部外面から高台にかけ鉄泥を塗り、外面底部から内面にかけては鉄釉をかけてある。第34図8は牡蠣貝で作られた貝杓子か。柄と結合するための穿孔が1箇所認められる。20は煙管の雁首である。34は鉄製の舟釘である。第37図5は燻瓦の平瓦である。第40図13は泥岩製の砥石である。第49図6~8は円板状木製品である。

SD05(第29図)17は肥前産磁器の青磁の皿で見込を蛇目釉剥したものである。高台は無釉で砂が付着する。漆継痕があり、口縁部の1/6程度に煤のような黒色の付着物が付いていたようにも見える。灯明皿として使用したものか。17世紀後半~18世紀前半のものであろう。

SD06(第30図) 1 は須恵器の甕。 2 は肥前産磁器碗で高台は浅く小さい。18世紀後半~19世紀初頭のものである。 3 は産地不明の陶器すり鉢で小型である。外面底部以外に鉄釉を二度がけしている。 4 は在地産土師器皿で底部が平坦で内面に凹線が入る。18世紀末~19世紀初頭のものである。

# 第6節 そのほかの遺構(SX)出土遺物

SX01 (第30・39図) 第30図 8 は肥前産磁器小坏で白磁に赤で色絵付けされている。高台が径15mmと非常に小さいので紅皿の可能性が高い。 9 は肥前産磁器碗で、高台内に「大明年製」の銘がある。17世紀後半~18世紀前半のものか。高台部分に漆継痕が残る。10は肥前磁器の小丸碗である。見込に手描きの五弁花が見られるが簡略化されたものである。また、見込の透明釉が薄く削られ、無数の傷跡が残る。口縁部付近内面には手描きの四方襷が巡る。18世紀中頃~後半のものか。11は肥前産磁器蓋物である。12は肥前産磁器の薄手半球碗である。13は肥前産磁器皿で鍋島の色絵皿である。内面には菊花文や赤で渦巻き、外面はおそらく七宝文が染付で描かれている。高台は高く外面に櫛歯文が描かれる櫛目高台である。18世紀代のものか。14は肥前産磁器皿で蛇目凹型高台に「渦福」の銘が見られる。見込には松竹梅文が巡る。18世紀後半のものか。15は肥前産磁器蓋である。16は陶器碗で、鉄釉が体部外面下方から内面にかけて塗られている。外面には長石釉で模様が付けられ、2箇所のみ凹ませてある。瀬戸美濃産か。17は在地産土師器皿で体部内面に凹線が巡る。18世紀後半代のものか。18は在地産施釉土器皿である。第39図 8 は土製の犬である。11は舟で、穿孔が2箇所ある。

SX02(第30図) 5 は肥前産陶器皿である。見込に胎土目跡が 4 箇所残る。16世紀後半~17世紀前半のものである。 6 は肥前産の京焼風陶器碗で、高台内に「森」の刻印がある。17世紀中頃~後半のものである。 7 は在地産土師器皿で、底部がやや丸みを帯び口縁が外反し端部がやや内側に折れ曲がる。17世紀後半のものであろう。

SX03(第31・37・39図)第31図1は肥前産磁器紅皿で、外面に蛸唐草文を型押ししてある。19世紀中頃~後半のものである。2は肥前産磁器小坏。3は肥前産磁器の小丸碗で口縁部内面に手描きの四方欅が巡る。18世紀後半~19世紀初頭のものか。4は肥前産磁器皿で高台が蛇目凹型高台になっている。18世紀後半~19世紀後半のものか。5は肥前産の京焼風陶器皿で、見込には山水文様が描かれ、高台内に「柴」の刻印がある。17世紀中頃~後半のものである。6は九谷産陶器鉢であろうか。灰釉がかけられているが、体部下方から高台にかけては無釉となる。内面に鉄釉の模様がある。高台内に墨書が見られる。7~9は在地産土師器皿で、7と8は内形作り成形、19世紀前半以降のものである。9は17世紀末頃か。10は在地産土器火鉢で、外面に赤漆が塗布してある。11は在地産土器焼塩壺で鉢形を呈する。第37図9は燻瓦の丸瓦である。第39図13は土製のミニチュアの台座である。

SX04(第31・32・34・38・39・40図)第31図12は肥前産磁器ミニチュア碗である。体部外面には草花文 が描かれている。13は肥前産磁器小坏としたが、高台径が14mmしかないので紅皿の可能性が高い。外 面は金・朱・不明の3色で色絵付けしてある。14は肥前産磁器小坏である。高台径は広い。小坏とし たが、ミニチュア碗の可能性もある。15は肥前産磁器小坏としたが、器高が低く浅いため紅皿の可能 性がある。外面に染付文様がある。17は肥前産磁器の台付きの小坏で外面下部に斜行カンナ目が認め られる。18~22は肥前産磁器碗である。21は色絵素地か。22は18世紀後半の小広東碗である。23は肥 前産磁器皿で輪花になっている。見込には五弁花が見られる。24も肥前産磁器皿で、熱を受けたのか 全体が白濁している。焼継ぎされている。25は肥前の波佐見産磁器皿で、高台内には「渦福」の銘が ある。18世紀後半~19世紀初頭のものである。26は肥前産磁器仏飯器で底部に砂が付着している。外 面は斜格子文である。27·28は肥前産陶器の刷毛目碗である。27は被熱したように釉が白く変色した 箇所がある。17世紀後半~18世紀後半のものである。第32図1は京・信楽焼の碗で、外面に鉄泥をか け、高台内を拭き取り無釉としている。その上に白泥で文様を描き透明釉をかけてある。2は肥前産 陶器の呉器手碗で外面は熱を受けたように白濁している。緑釉で文様が描かれる。漆継痕も見られる。 17世紀中頃~後半のものである。3は在地産軟質施釉陶器碗であるが、内外面にかけてあった釉は痕 跡のみが残る。見込に別の碗の高台痕と釉が溶けて固まったような黒色付着物がある。サヤ鉢として 使用したものか。高台はもともと無釉であったが、煤が畳付を中心に付着している。 4 は産地不明の 陶器鉢で3足が付く。5は産地不明陶器の製品で高台が3足になっている。外面は鉄泥を塗布しその 上に白泥で文様を付けてある。内面と高台は無釉。6は産地不明陶器蓋で四角く成形してある。鈕は 丸紐状の粘土を貼り付けてある。7は須佐産陶器すり鉢である。口縁が玉縁で外へ開く感じに成形さ れている。8は産地不明陶器の甕で、灰釉に鉄釉を流し掛けしてある。9は瀬戸美濃産陶器鉢である。 10は産地不明陶器灯明皿で、赤褐色の胎土で内面のみ鉄泥が塗布されている。灯芯油痕が口縁部全周 に付いている。11~16は在地産土師器皿である。11~13は丸底で体部上位に凹線が巡る。18世紀中頃 か。14~16は底部が平坦で体部はやや折れ気味に立ち上がり、口縁部は丸く収める。18世紀末~19世 紀初頭のものか。17は在地産土師器皿であるがロクロ成形で大型である。内面は内面黒色土器のよう に黒く、凹線が巡る。18は在地産土器秉燭。19と20は在地産土器の焼塩壺の蓋と身(砲弾型)である。 21・22は在地産土器火鉢でともに3足で外面に花の刻印が見られ、口縁部に使用のための敲打痕が残 る。第34図23は銅製の針金のような細い棒で、先端が丸まっている。第38図2~4は瓦で、2は赤瓦 の丸瓦である。3・4は燻瓦の平瓦である。第39図9は土製の魚で、型合わせとなっている。15は土 製のミニチュアの釜である。第40図14は粘板岩製の砥石である。

**SX05(第30・37図)**第30図19は陶器の水滴か。外面は型で菊花が表現されている。20は肥前産磁器碗で 高台内に「大明年製」の銘が見られる。18世紀前半のものであろう。21~23は在地産土師器皿である。 丸底で底部から口縁にかけて開き気味に立ち上がる。17世紀末のものか。第37図10は燻瓦の丸瓦で、 「□上」の刻印が見られる。

SX06(第33・34図)第33図1~3は肥前産磁器小坏である。3は外面が一重網目文で、高台に砂が付着する。4・5は肥前産磁器碗で、5は高台内に「大明年製」の銘がある。また、外面の雨降文も丁寧に描かれている。18世紀前半のものであろう。6は九谷産の磁器碗であろうか。外面が被熱したように釉が白濁している。7は肥前産磁器皿で白磁の菊花文を型押しした製品である。口縁部に口紅が見られる。高台は蛇目凹型高台。19世紀初頭~後半のものか。8は肥前産磁器で白磁の合子身である。9は京・信楽焼産陶器の小壺か。外面に鉄釉で梅が描かれている。高台は無釉。10は京焼陶器皿で内面に山水文が描かれている。11は肥前産陶器書り鉢で、口縁部は玉縁で、口縁部のみに鉄釉が施される。17世紀後半のものである。12は肥前産陶器整で内面に格子目の当具痕が残る。17世紀後半のものである。13~17、19・20は在地産土師器皿である。13~17は小さめの底部から体部が開き気味に立ち上がる。端部を丸く収める。17世紀後半のものであるう。18は器壁が薄く体部から口縁にかけて丸く立ち上がり、底部中心はわずかにヘソ状に凹んでいる。口縁部には灯芯油痕が巡り灯明皿として使用されたと考えられるが、元々は焼塩壺の蓋として作成された可能性もある。21はロクロ製で搬入品か。広坂遺跡からもロクロ製土師器皿が出土しているが、21は広坂より胎土が緻密であること、胎土色の赤みが少ない、外面底部立ち上がりが急である点が異なる。22は在地産土器の土錘である。第34図35・36は鉄製の釘である。

SX07(第33・37・40・49図)第33図23は肥前産磁器小坏で高台に砂目跡が1箇所見られる。17世紀前半のものである。24は肥前産磁器碗で筒形を呈する。見込に崩れたコンニャク印判の五弁花が見られる。18世紀後半のものであろう。第37図11は赤瓦の平瓦である。第40図15は黒の碁石で頁岩製か。第49図9・10は板状木製品である。

# 第7節 整地層・包含層・攪乱出土遺物

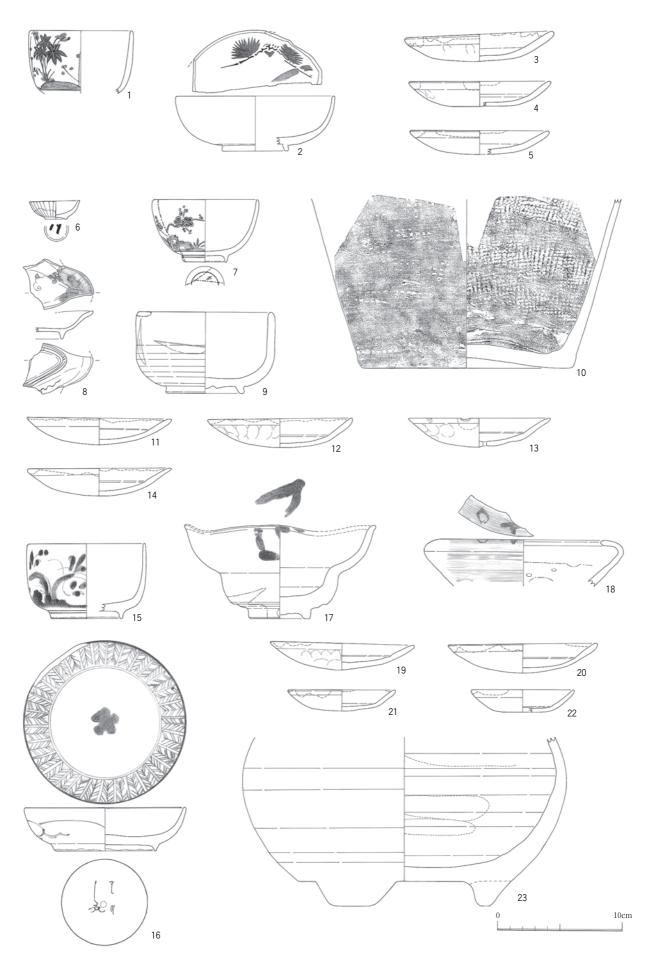
整地層(第34・38・39・41図)第34図1は肥前産磁器蓋物で17世紀後半~18世紀後半のものか。2は九谷産磁器皿か。3は肥前産磁器蓋で外面は菊花が型押ししてあり、底部の返し部分は楕円形に成形されている。菊花は赤で色絵付けされている。4は肥前産陶器鉢で二彩、刷毛目で装飾してある。5は珠洲焼の鉢。第38図5~11は瓦である。5・6は燻瓦の丸瓦で、5は「○」、6は「□上」の刻印がある。第39図3・4は土人形で、男性座像と狛犬である。第41図3は泥岩製の硯で内面は凹んでいる。4と5は黒の碁石で頁岩製か。6は越前産笏谷石と考えられる緑色凝灰岩製の製品である。用途は不明。7は凝灰岩製の鉢か。

**包含層(第38・39図)**第38図12は燻瓦の雁振瓦。第39図14は土製のミニチュア釜の蓋である。

**攪乱(第34図)**第34図 6 は京・信楽産陶器土鍋か。 7 は在地産土師器皿で、底部に穿孔が 1 箇所ある。 18世紀前半のものか。11~17は古銭である。11は宋銭、12~14は新寛永で14は文銭。15は古寛永で、16は 2 枚が錆でくっついている。片方は古寛永と判読できたが、もう片方は不明である。37~39は鉄製の釘であろうか。



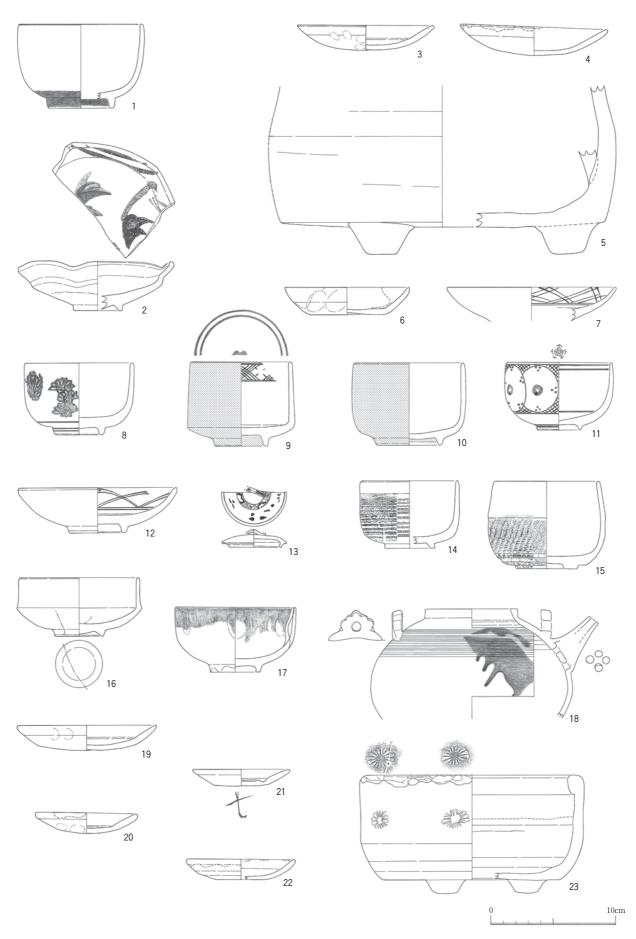
第14図 SK01、SK04、SK06出土陶磁器・土器実測図〔S=1/3〕



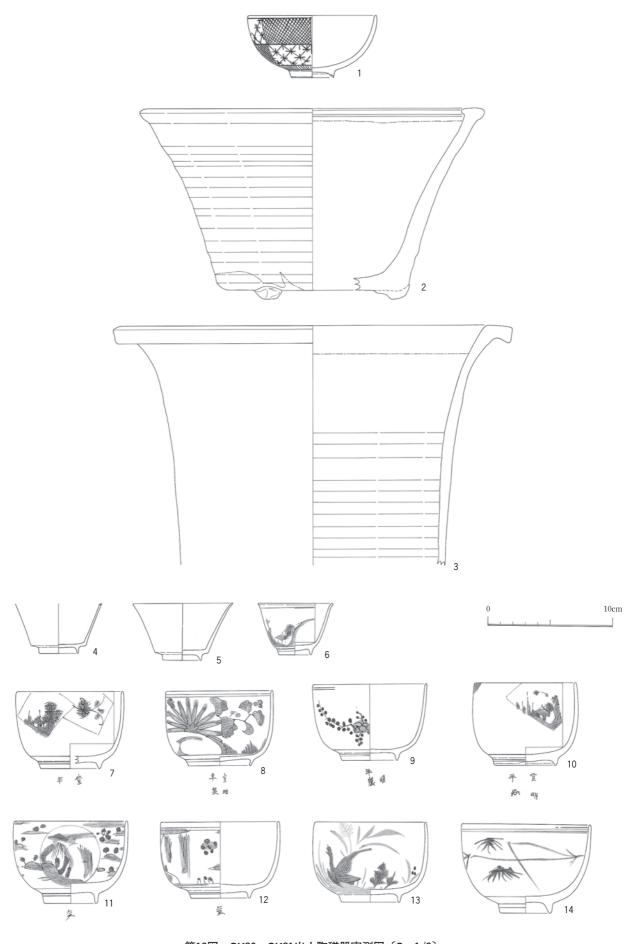
第15図 SK08、SK09、SK10出土陶磁器・土器実測図〔S=1/3〕



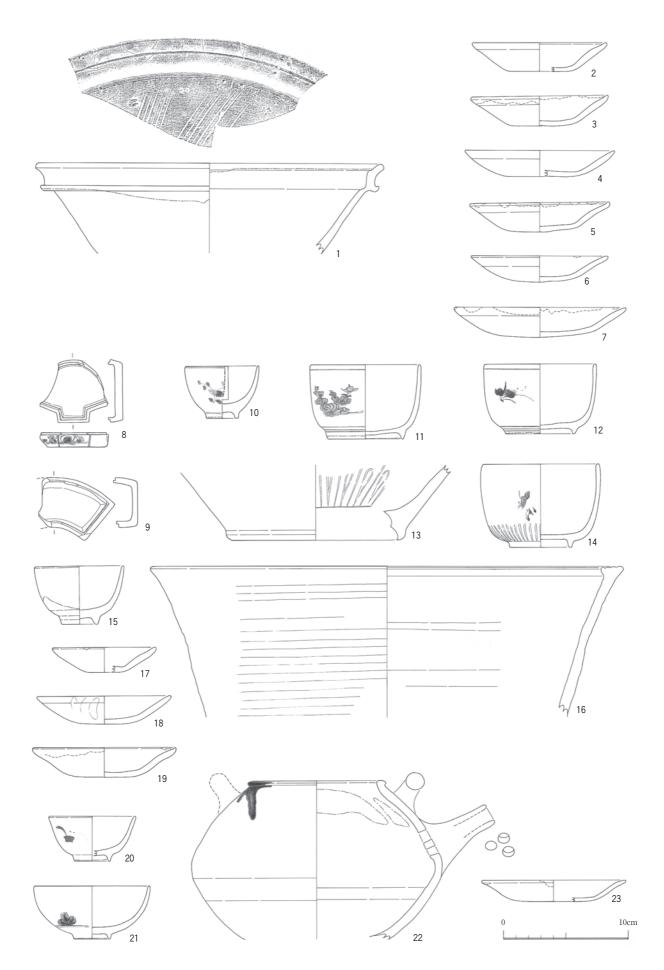
第16図 SK11、SK12、SK16、SK17、SK19、SK20、SK22出土陶磁器・土器実測図〔S=1/3〕



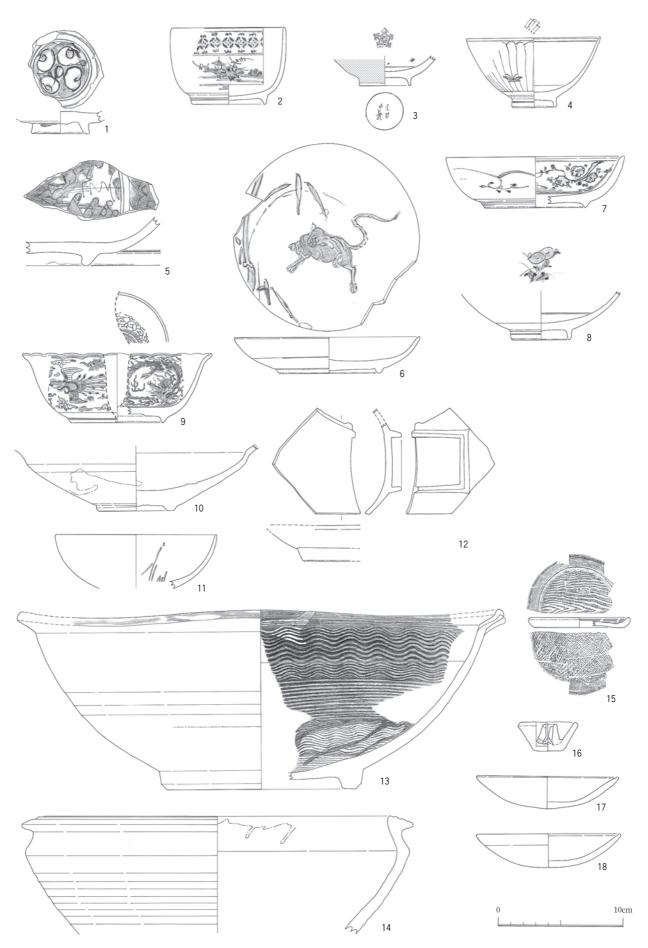
第17図 SK21、SK27、SK28、SK29出土陶磁器・土器実測図〔S=1/3〕



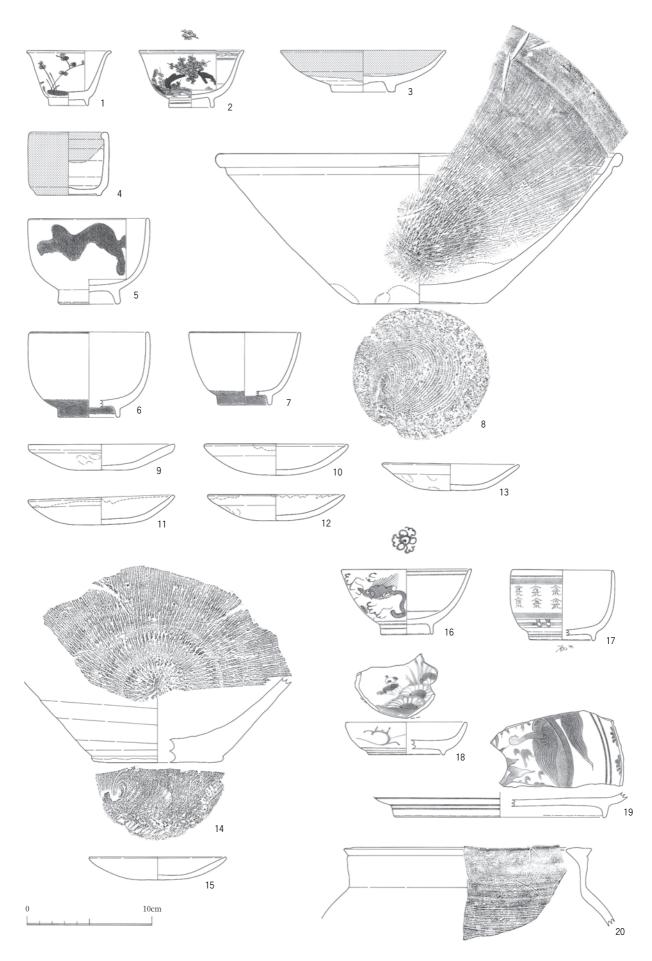
第18図 SK30、SK31出土陶磁器実測図〔S=1/3〕



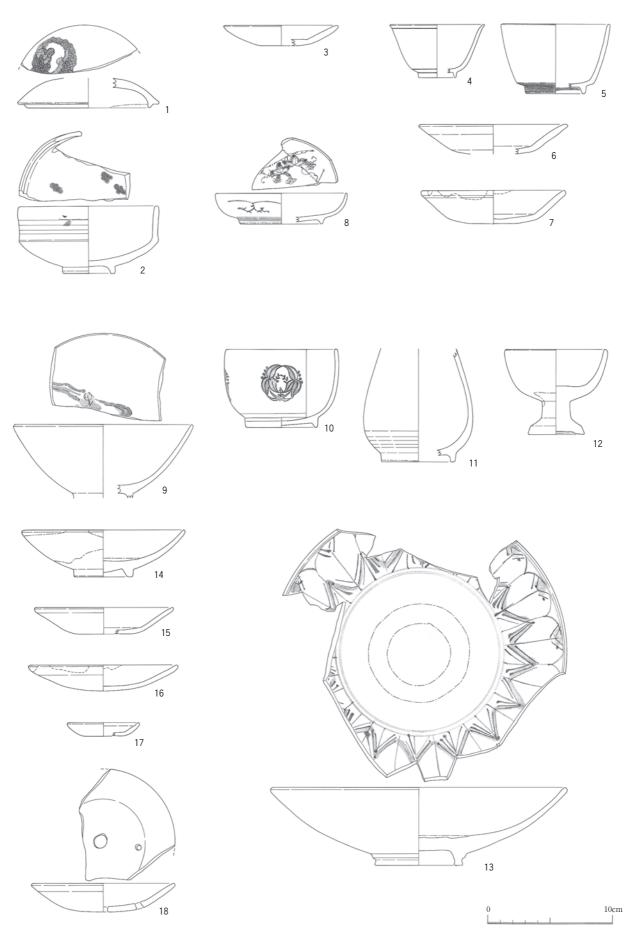
第19図 SK31、SK32、SK33出土陶磁器・土器実測図〔S=1/3〕



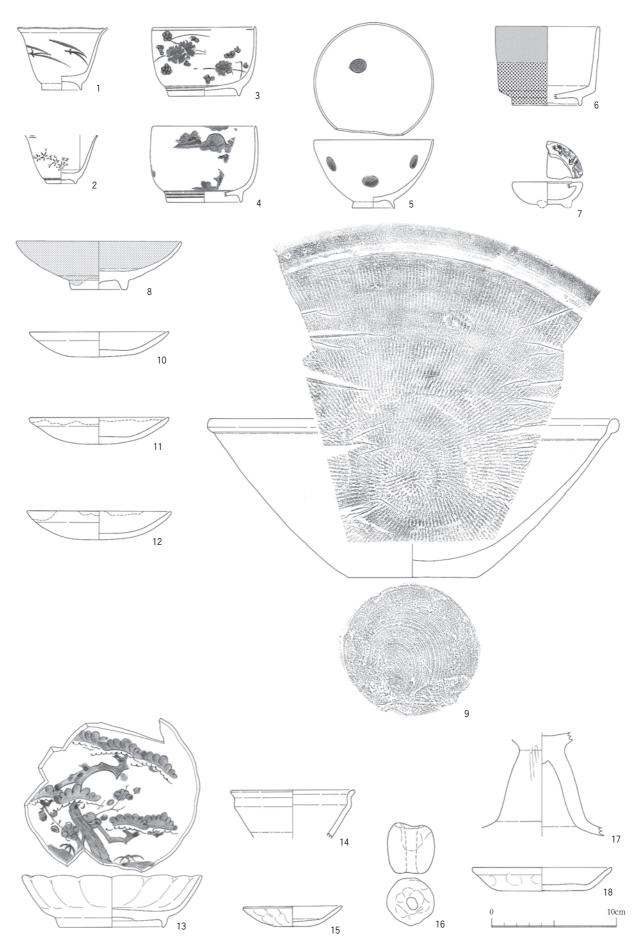
第20図 SK34出土陶磁器・土器実測図〔S=1/3〕



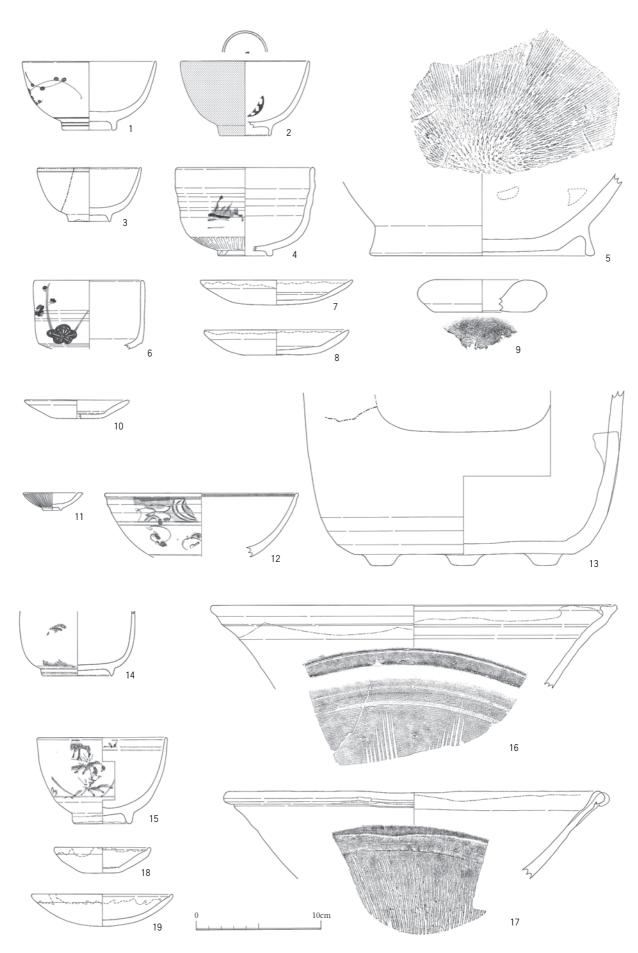
第21図 SK35、SK36、SK37出土陶磁器・土器実測図〔S=1/3〕



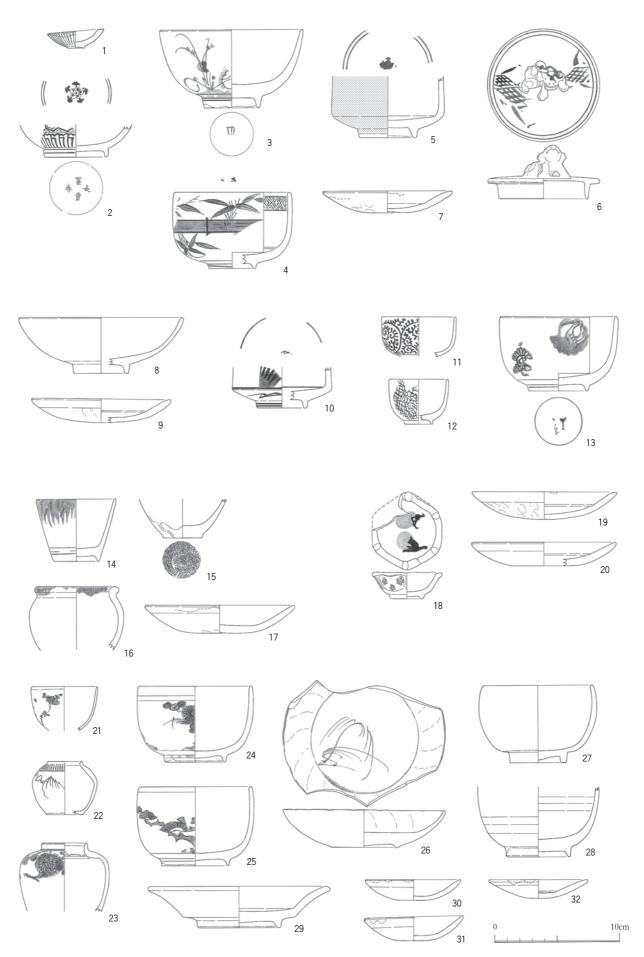
第22図 SK38、SK39、SK40、SK41、SK42出土陶磁器・土器実測図〔S=1/3〕



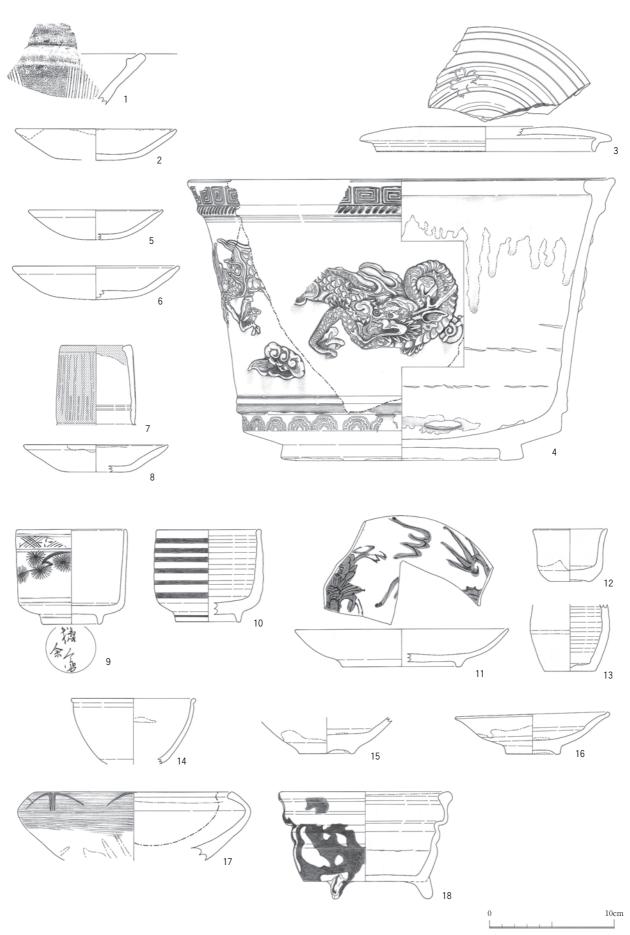
第23図 SK44、SK47、SK50出土陶磁器・土器・土製品実測図〔S=1/3〕



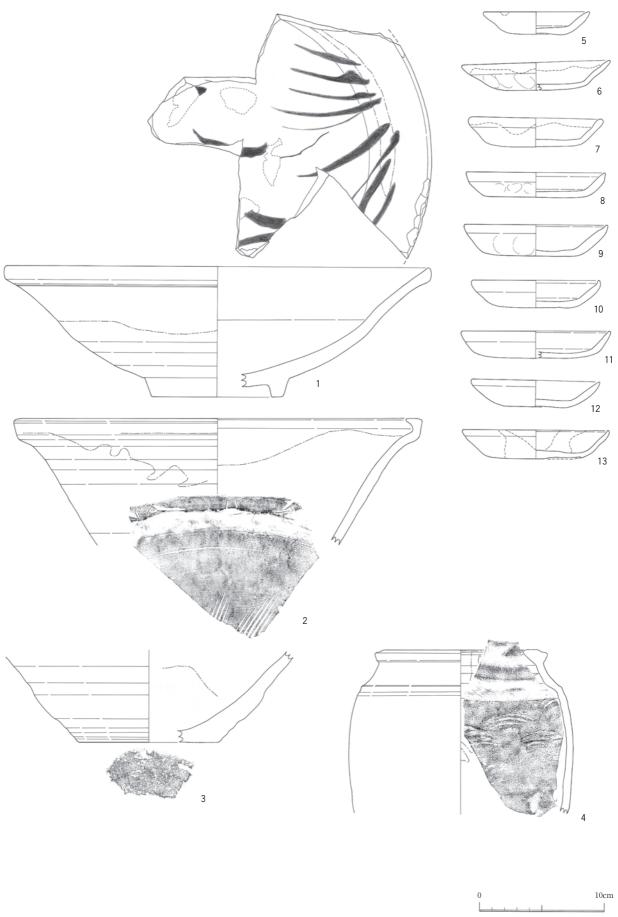
第24図 SK46、SK58、SK59、SK60、SK61出土陶磁器・土器実測図〔S=1/3〕



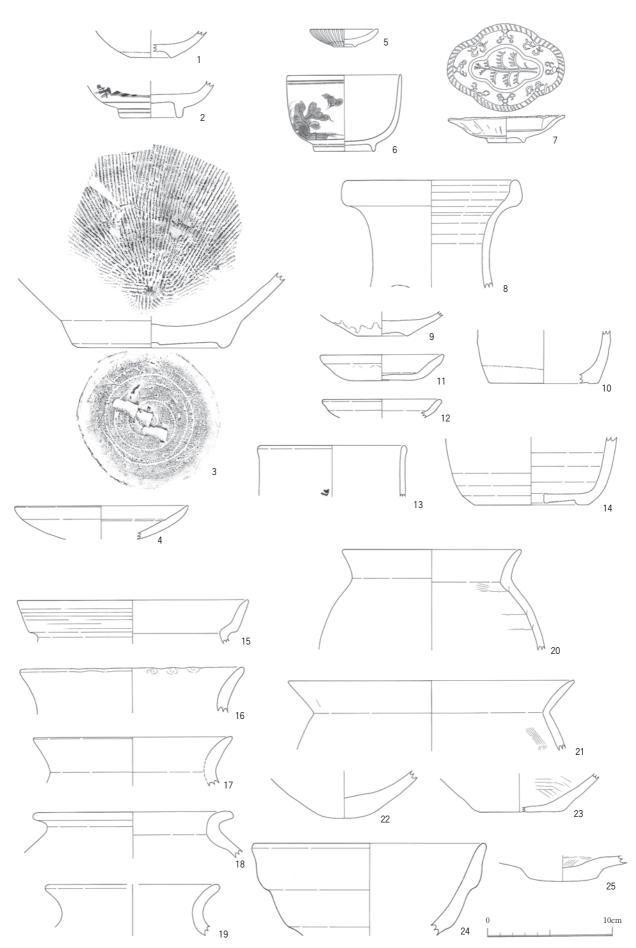
第25図 SK62、SK65、SK67、SK68、SK70、SK73、SK76、SK77出土陶磁器・土器実測図〔S=1/3〕



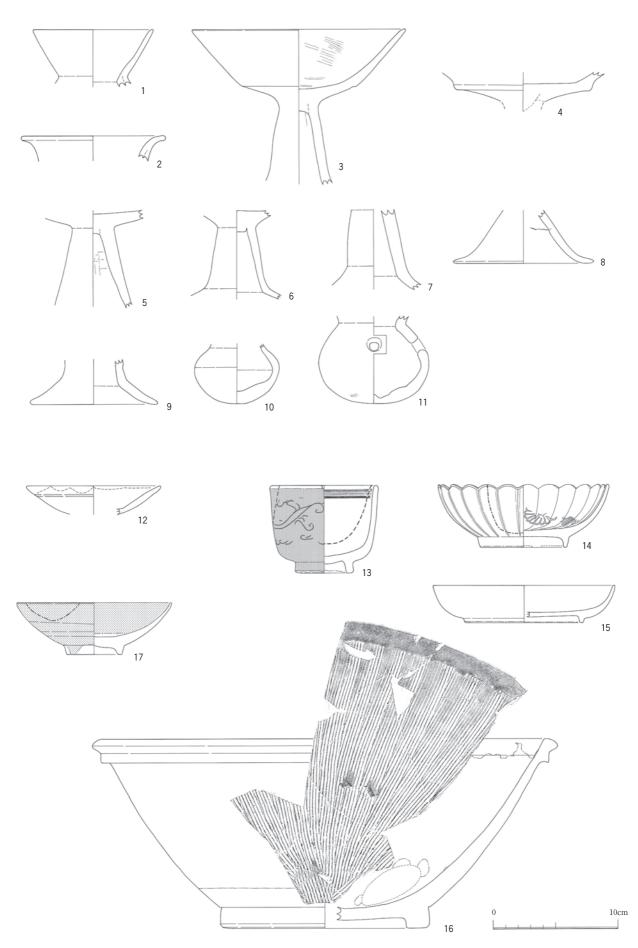
第26図 SK78、SK80、SK87、SK94、SK85出土陶磁器・土器実測図〔S=1/3〕



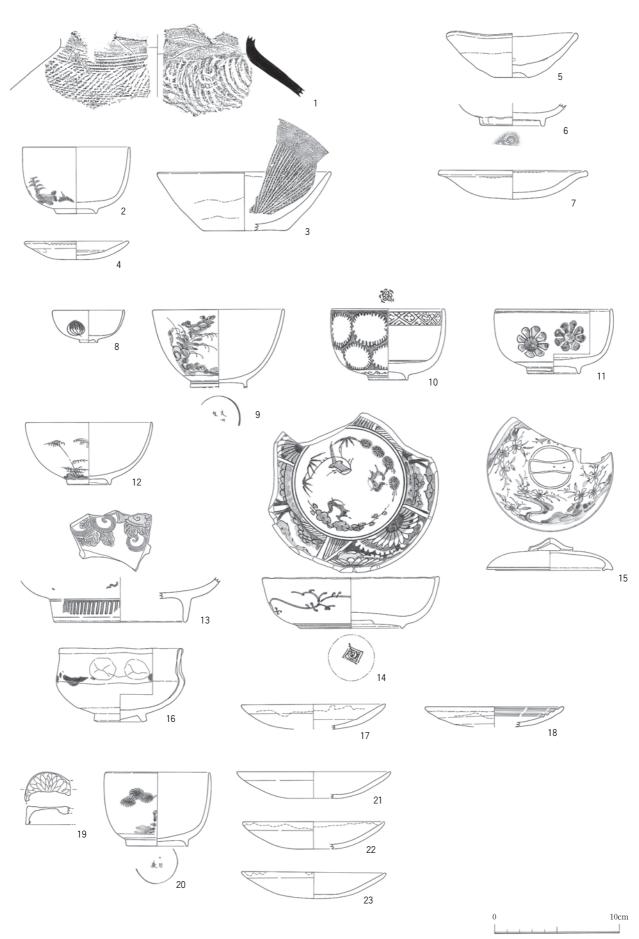
第27図 SK85出土陶器・土器実測図〔S=1/3〕



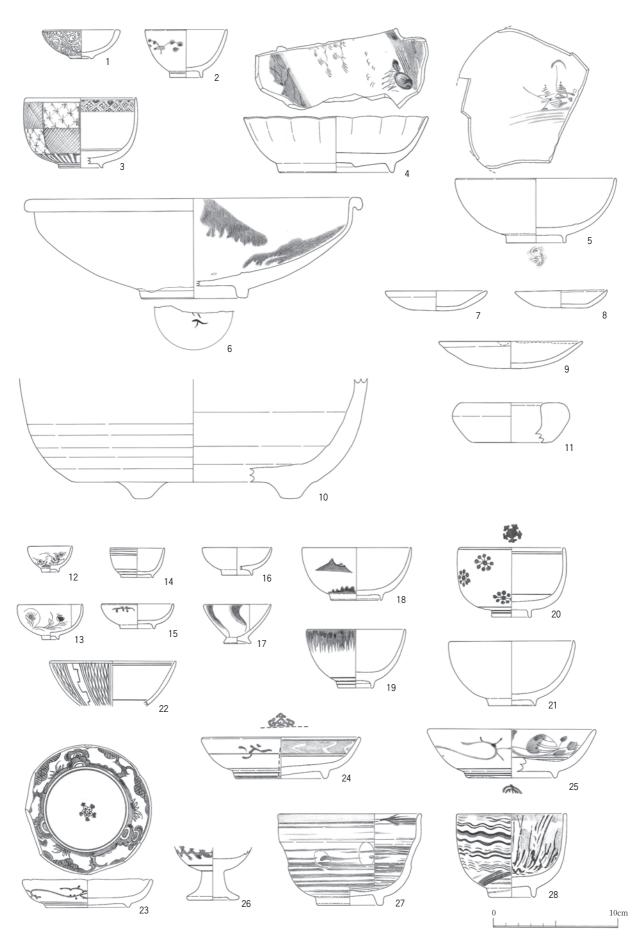
第28図 SE02、SE03、SE04、P2、P3、P7、P11、SD01出土陶磁器・土器実測図〔S=1/3〕



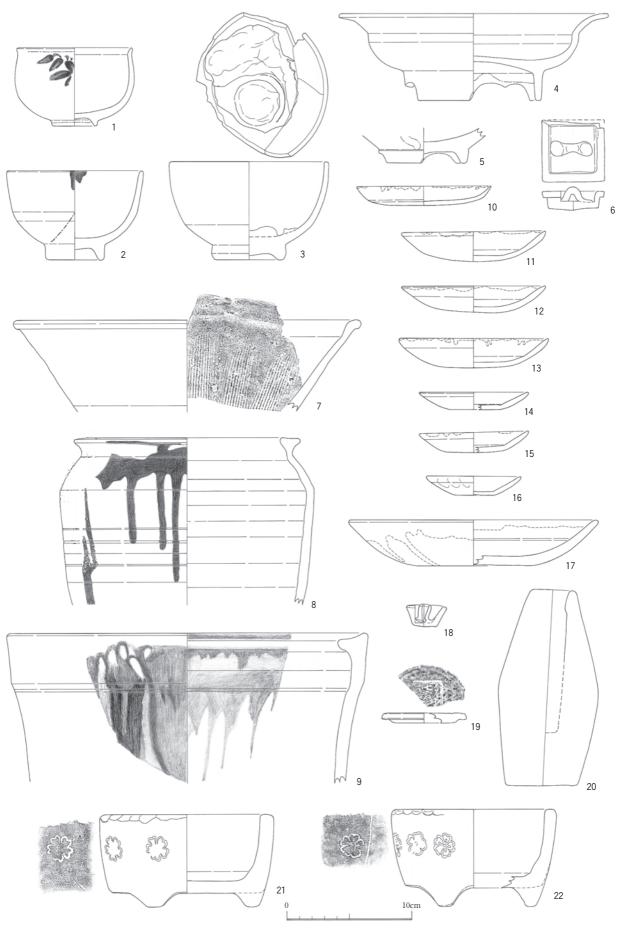
第29図 SD01、SD03、SD04、SD05出土陶磁器・土器実測図〔S=1/3〕



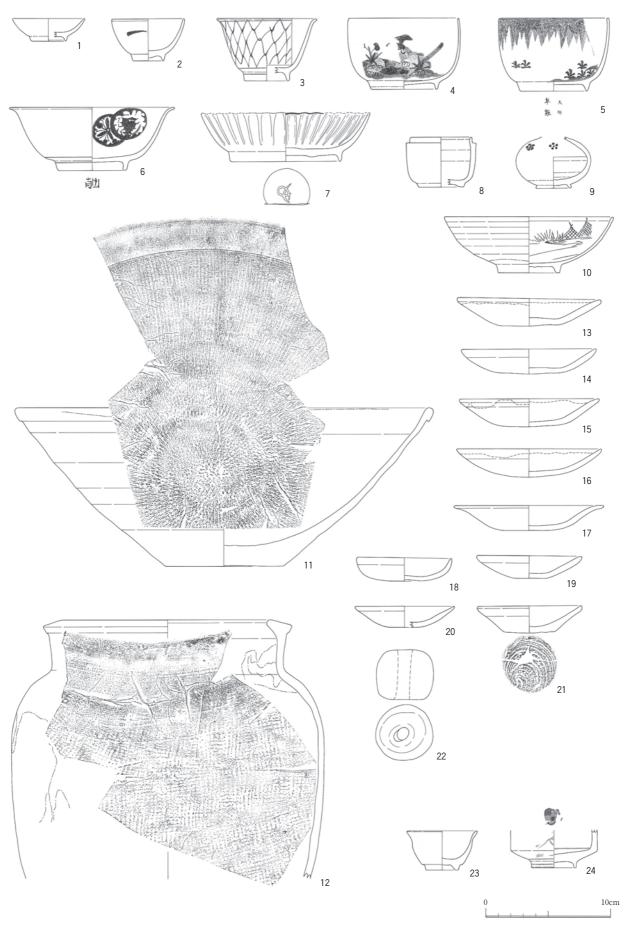
第30図 SD06、SX01、SX02、SX05出土陶磁器·土器実測図〔S=1/3〕



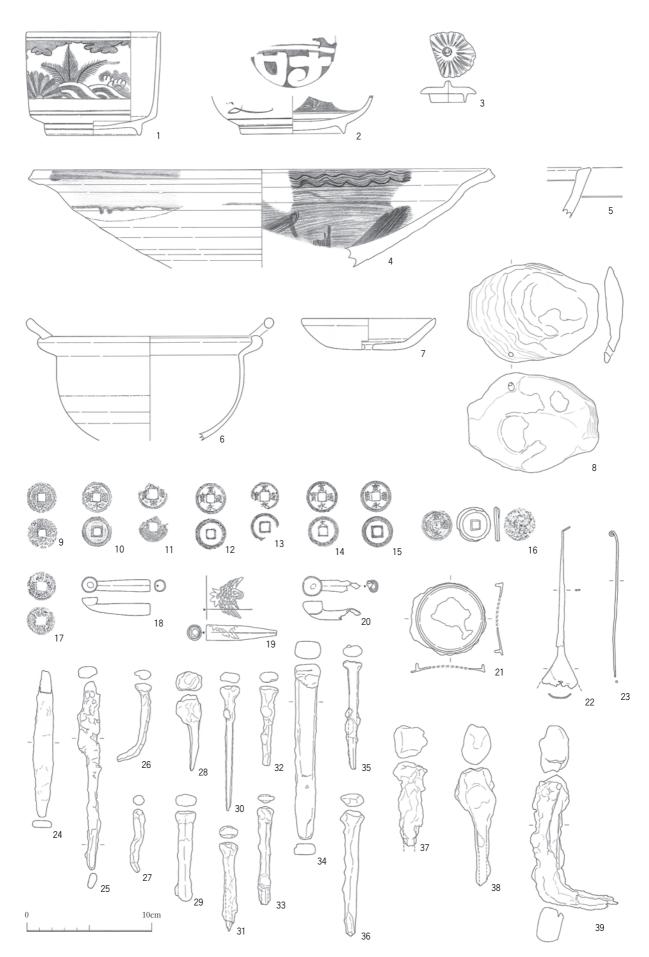
第31図 SX03、SX04出土陶磁器・土器実測図〔S=1/3〕



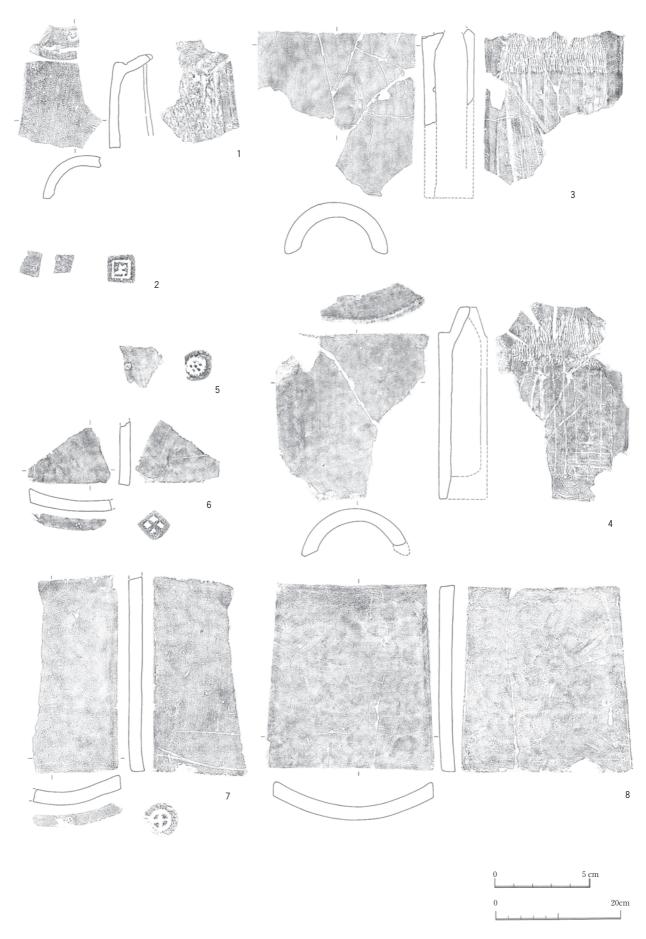
第32図 SX04出土陶器・土器実測図〔S=1/3〕



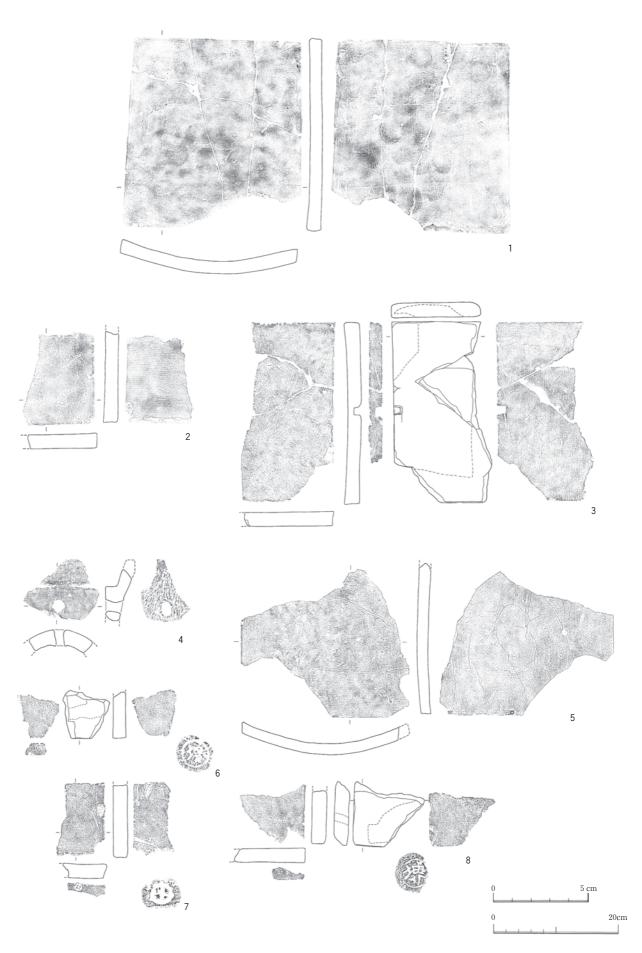
第33図 SX06、SX07出土陶磁器・土器・土製品実測図〔S=1/3〕



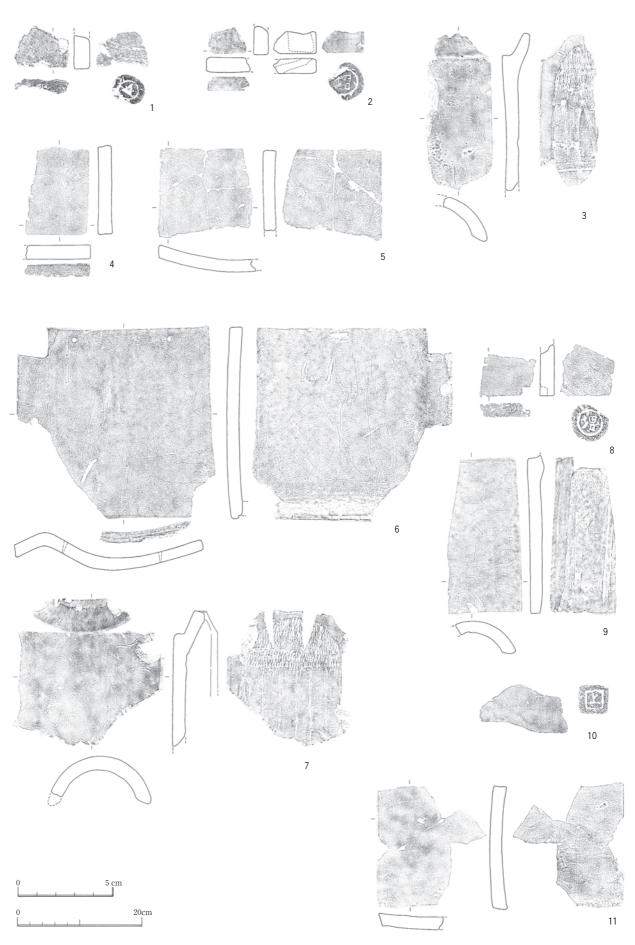
第34図 整地層、カクラン出土陶磁器・土器実測図 [S=1/3]、貝製品・金属製品実測図 [S=1/3]



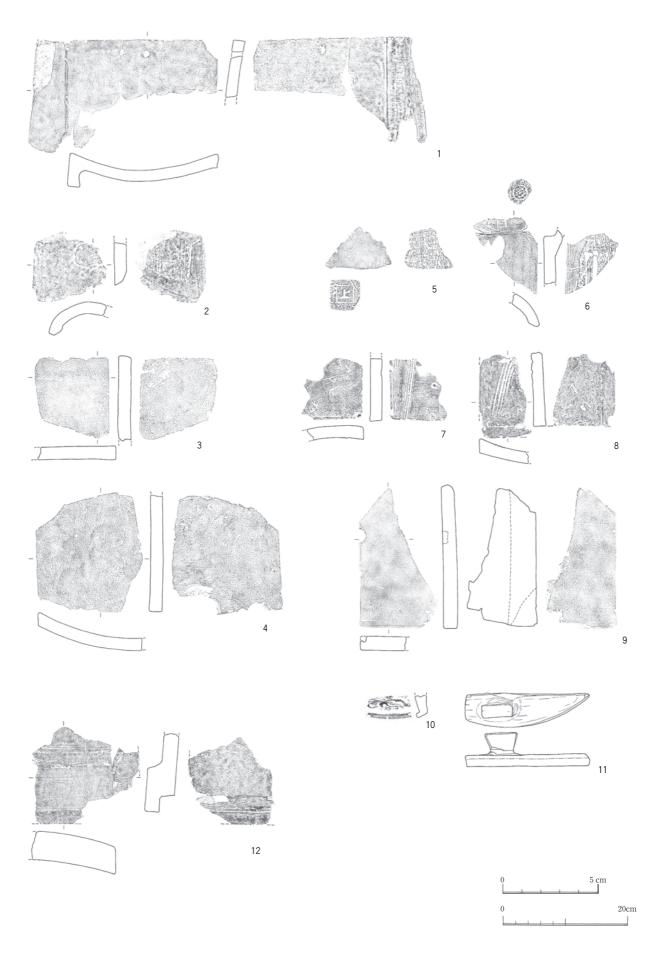
第35図 SK06、SK27、SK31出土瓦実測図〔S=1/6、刻印は S=1/2〕



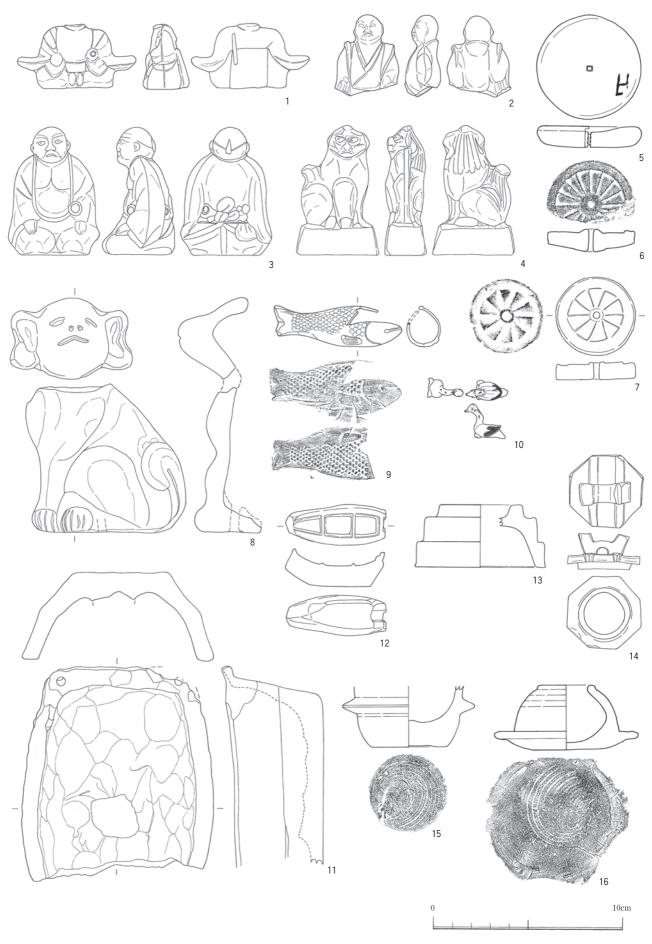
第36図 SK31、SK32、SK41出土瓦実測図〔S=1/6、刻印は S=1/2〕



第37図 SK59、SK60、SK61、SK62、SK88、SK91、SK94、SD04、SX03、SX05、SX07出土瓦実測図〔S=1/6、刻印は S=1/2〕



第38図 SE03、SX04、整地層、包含層出土瓦実測図〔S=1/6、刻印は S=1/2〕

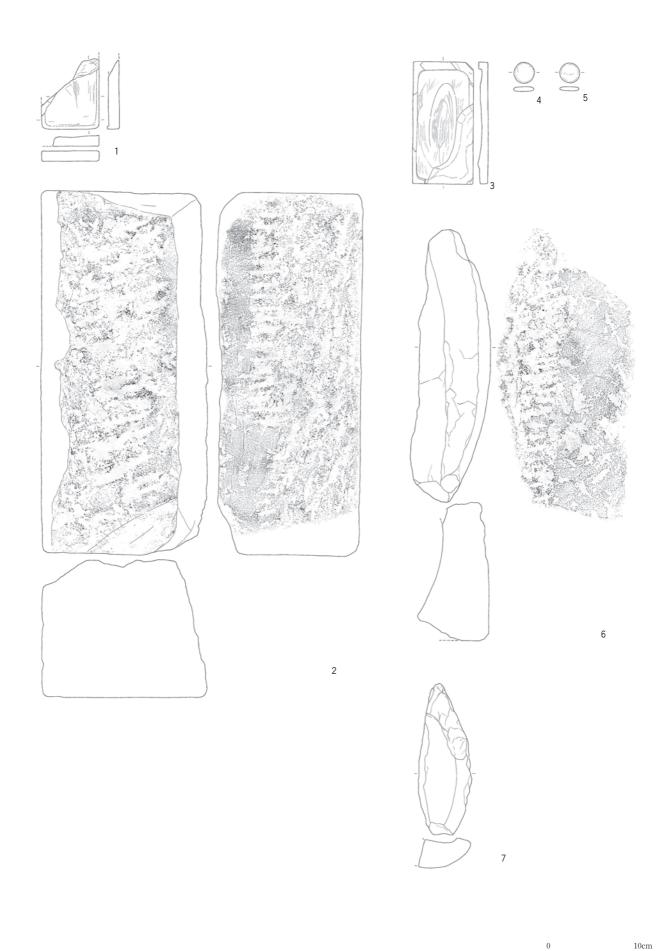


第39図 土人形実測図〔S=1/2〕

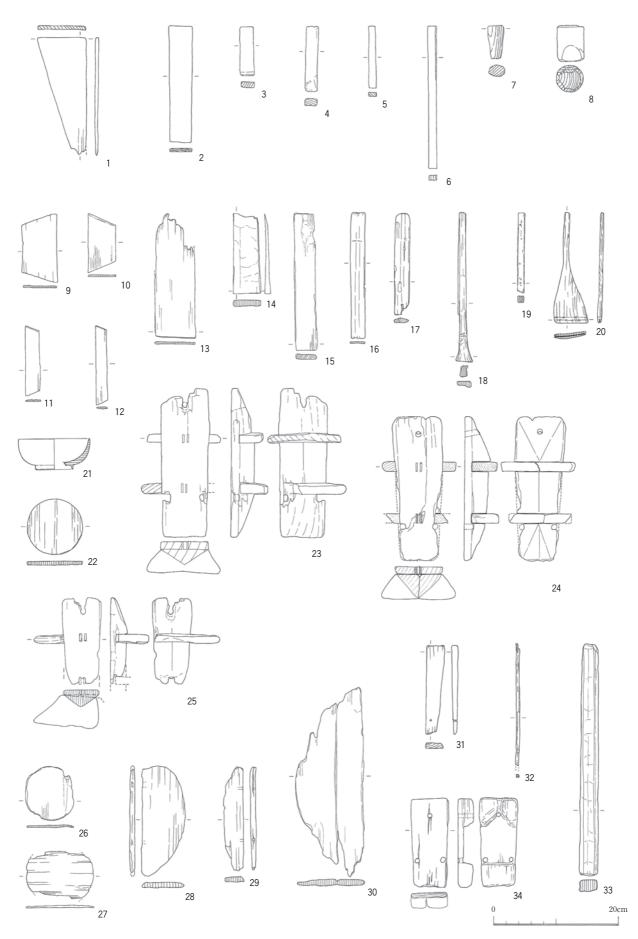




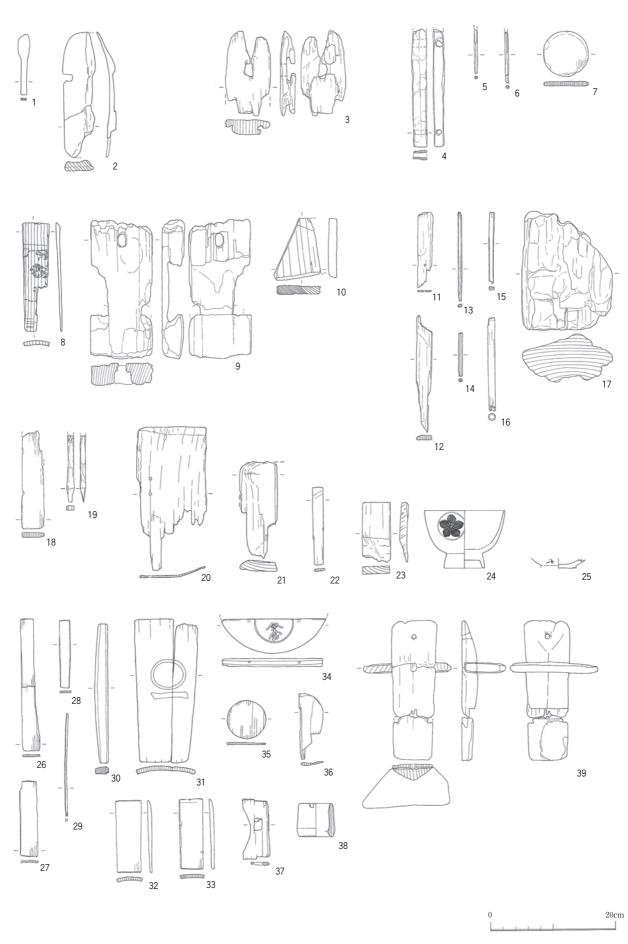
第40図 SK10、SK29、SK30、SK31、SK32、SK47、SK85、SD04、SX04、SX07出土石製品実測図〔S=1/4·1/2〕



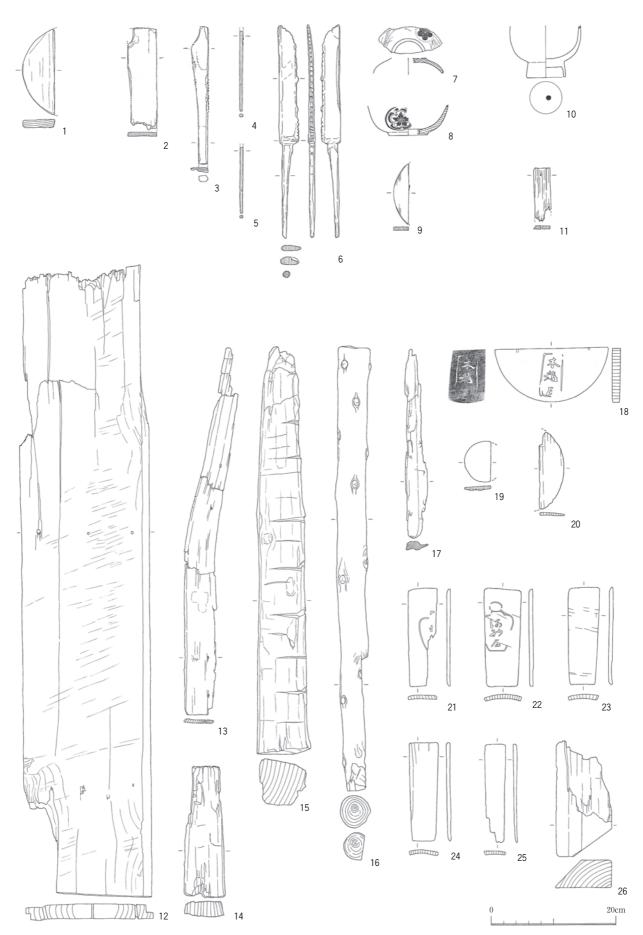
第41図 SE03、整地層出土石製品実測図〔S=1/4〕



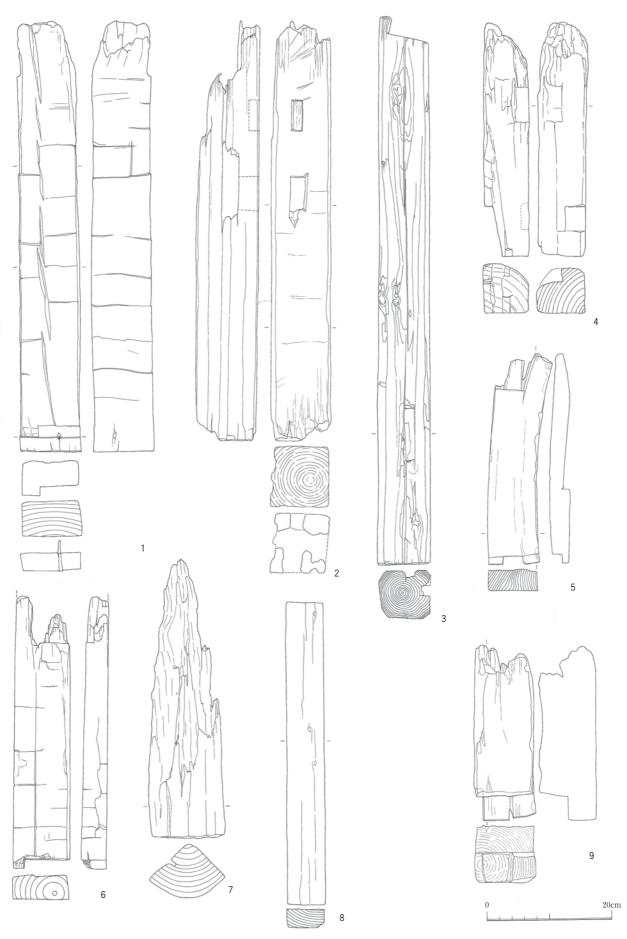
第42図 SK04、SK06、SK10出土木製品実測図〔S=1/6〕



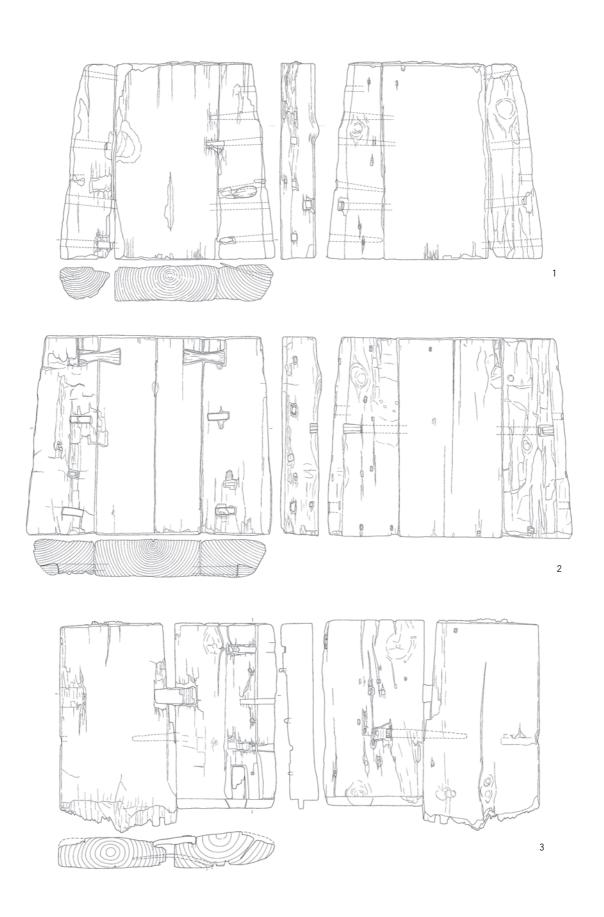
第43図 SK16、SK17、SK20、SK21、SK22、SK46、SK61、SK62出土木製品実測図〔S=1/6〕



第44図 SK63、SK85、SK87、SK96、SE03出土木製品実測図〔S=1/6〕

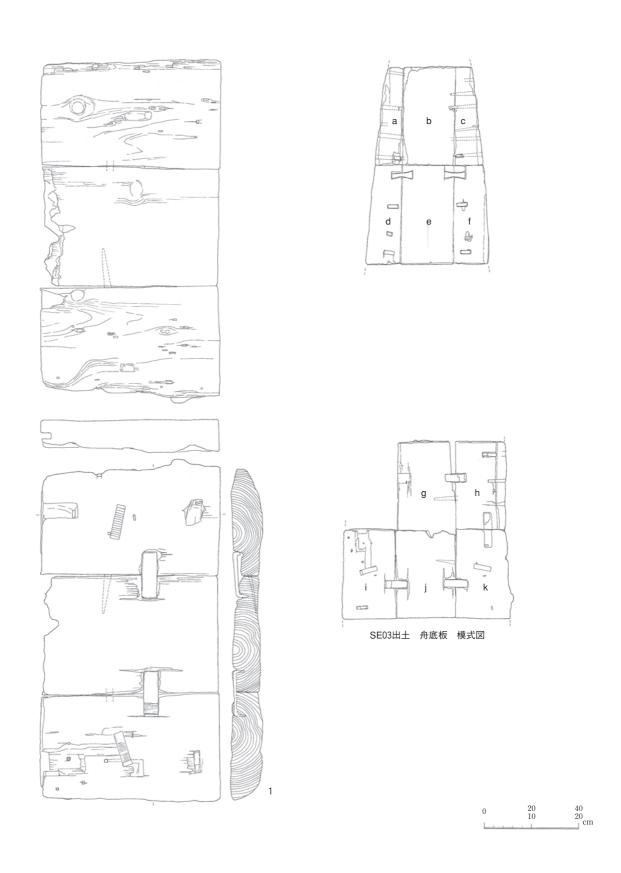


第45図 SE03出土木製品実測図〔S=1/6〕



0 20cm

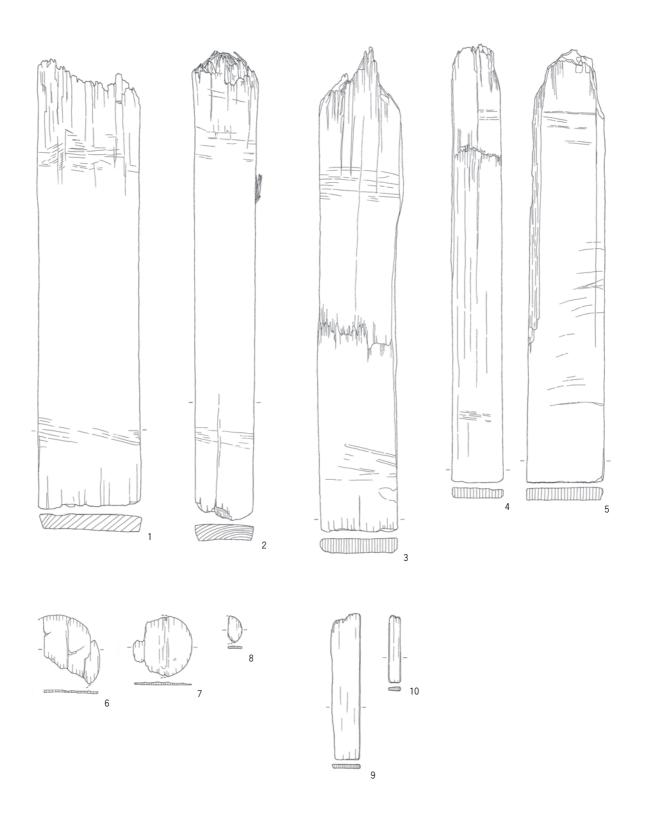
第46図 SE03出土木製品実測図〔S=1/8〕



第47図 SE03出土木製品実測図〔S=1/8、舟底板模式図は S=1/16〕



第48図 SE04出土木製品実測図〔S=1/6〕





第49図 SE04、SD04、SX07出土木製品実測図〔S=1/6〕

# 第6表 陶磁器土器等観察表

単位(mm)

	交交	אמן נשכן			于 E兀:	祭表			単1	立(mm)											
番号	遺構	器種 種別	a b	量 c d	遺存 /12	釉薬 絵付	胎土色調 外面 内面	産地	備考	実測 番号	番号	遺構	器種 種別	a b	是 c d	遺存 /12	釉薬 絵付	胎土色調 外面 内面	産地	備考	実測 番号
	第14図										18	SK10	水盤か	126	(37)	<u>_</u> 1	灰釉白泥	5 <u>Y</u> 7/1	肥前か		T7
1	SK01	ミニチュア税 磁器	30 13	15 —	口6 底6	透明釉	N9/ 白	不明		M8		01110	陶器	_	胴160	胴2	鉄絵	灰白	10111		
2	SK01	小坏 磁器	64 23	24	口2 底6	透明釉色絵	N9/ 白	不明	色絵(金·不明)	M7	19	SK10	土師器皿土器	115 内75	23	□10		10YR8/2 灰白	在地	灯芯油痕2/12以上	Т3
3	SK04	鉢 陶器	81	(45) —	底7	透明釉 白泥	10R5/4 赤褐	肥前	見込蛇目釉剥ぎ	M6	20	SK10	土師器皿土器	120 内81	25	完形		10YR8/3 浅黄橙	在地	掌痕有 灯芯油痕11/12	T2
4	SK06	猪口 磁器	56 34	33	口8 底7	透明釉染付	N9/ 白	肥前	二次被熱	Q20	21	SK10	土師器皿土器	86 内42	17	完形		10YR8/3 浅黄橙	在地	灯芯油痕10/12	T1
5	SK06	小坏 磁器	44 21	22	口5 底2	透明釉色絵	N9/ 白	肥前	色絵(赤) 漆継	Q21	22	SK10	土師器皿土器	82 内40	18	□4		10YR8/3 浅黄橙	在地		T4
6	SK06	紅皿 磁器	52 16	17	口8 底10	透明釉	N9/ 白	肥前	型押成形	Q22	23	SK10	火鉢 土器	170	(135)	底5		10YR8/2 灰白	在地	内面スス付着 足2残	T5
7	SK06	碗 磁器	90 54	60	口6 底9	透明釉染付	N9/ 白	肥前	高台内銘「大明年製」	Q12		第16図									
8	SK06	碗 磁器	93	(45) 胴94	□6	透明釉色絵	N9/ 白	肥前	色絵(金·赤·緑·紫·黑· 不明)	Q16	1	SK11	碗 磁器	90 40	50	口1 底2	透明釉染付	N9/ 自	瀬戸		T11
9	SK06	碗 磁器	110 44	51 胴111	口2 底3	透明釉染付	N9/ 白	肥前	歪み有	Q14	2	SK11	鉢 陶器	180 72	(68)	口1 底3	灰釉 鉄釉	10YR6/1 褐灰	九谷	輪花6	T12
10	SK06	碗 磁器	95 56	62	口2 底3	透明釉染付	N8/ 灰白	肥前	コンニャク印判	Q13	3	SK11	灯明皿 陶器	104 40	19	□4	灰釉	10YR8/2 灰白	京・信	灯芯油痕2/12以上	T10
11	SK06	蓋物 磁器	101 56	72 —	口2 底2	透明釉染付	N9/ 白	肥前		Q15	4	SK12	磁器	108 60	20	□3	透明釉染付	N9/ 白	瀬戸	口紅	N5
12	SK06		206	39	□3	透明釉	N9/	肥前	高台内銘「寿福」・1重圏 線 A・高台内薄墨様の	Q24	5	SK16	火入 陶器	72 43	57 —	口7 底12	灰釉 鉄絵	10YR7/2 にぶい黄橙	肥前		N1
	01100	磁器	113	_	底7	染付	Á	NON'	釉で塗りつぶしてある	QL.	6	SK17	碗 磁器	- 64	29	底4	青磁釉	N7/ 灰白	中国	高台無釉	N4
13	SK06	ш	146	44	□6	透明釉	N9/	肥前	高台内1重圏線 A、銘有 目跡1残	Q23	7	SK17	土師器皿 土器	116 内48	23	口10 底11		7.5YR8/3 浅黄橙	在地	灯芯油痕4ヵ所以上	N3
13	51100	磁器	89	_	底10	染付	白	донч	輪花8弁 漆継	QZS	8	SK17	土師器皿 土器	84 内78	18 —	口5 底6		10YR8/3 浅黄橙	在地	内面型打成形	N2
14	SK06	鉢	312	108	□1	青磁釉	N8/	肥前	輪花6~7弁 内面片刃彫	Q26	9	SK20	猪口 磁器	44 22	39 —	底9	透明釉	N9/ 自	肥前		M18
14	SK00	磁器	127	_	底5	鉄釉	灰白	HCHI	高台内鉄釉塗布 蛇目釉剥ぎ	QZ6	10	SK20	合子蓋 磁器	55 —	85 受50	□12	透明釉 染付	N9/ 白	肥前	側面に4ヵ所墨痕有	M12
15	SK06	碗 陶器	_ 51	(22)	底4	透明釉	N8/ 灰白	京・信	高台内銘「仁清」	Q17	11	SK20	鉢 磁器	138 60	42 —	口10 底12	透明釉	N9/ 白	肥前か	内面型打 輪花6弁 漆継	M14
16	SK06	碗 陶器	92 39	73 胴102	口4 底12	灰釉・白泥	10YR6/1 褐灰	京・信	掛分 外面底部釘彫	Q19	12	SK20	鉢 磁器	178 86	69 —	口2 底2	透明釉 染付	N9/ 白	肥前	蛇目凹型高台 高台内銘有	M11
17	SK06	碗陶器	110 52	66	口3 底9	透明釉染付	10YR7/1 灰白	肥前	陶胎染付	Q18	13	SK20	碗陶器	95 29	55 —	口7 底12	透明釉鉄絵	2.5Y8/3 淡黄色	京・信		M15
18	SK06	血 陶器	204 77	57 —	口3 底12	透明釉白泥	2.5YR7/4 淡赤橙	肥前	刷毛目 見込蛇目釉剥ぎ	Q25	14	SK20	水注 施釉土器	_ 30	(42) 胴112	胴5	透明釉白泥	5YR6/6 橙	在地	足3個	M16
19	SK06	土師器皿土器	115 内64	20	完形		10YR8/3 浅黄橙	在地	灯芯油痕ほぽ全周 外面底部ムシロ目	Q8	15	SK20	土師器皿土器	120 内76	22	□3		7.5YR8/4 浅黄橙	在地		M13
20	SK06	土師器皿	135 内95	21	□5		7.5YR8/3 浅黄橙	在地	灯芯油痕1残 外面底部ムシロ目	Q10	16	SK20	灯明皿 施釉土器	122 62	24	□4	透明釉	7.5YR8/4 浅黄橙	在地	内面重圏線 灯芯油痕4/12以上	M17
21	SK06	土師器皿 土器	115 内75	23	□11		10YR7/4 にぶい黄橙	在地	灯芯油痕ほぽ全周	Q6	17	SK19	碗磁器	_ 38	(34)	底12	透明釉染付	N9/ 白	肥前	高台砂付着	M9
22	SK06	土師器皿	115 内76	21	□11		7.5YR8/4 浅黄橙	在地	灯芯油痕7/12	Q5	18	SK19	合子磁器	_	13		青磁釉	N9/ 白	肥前	糸切高台	M10
23	SK06	土師器皿土器	117 内71	22	□6		10YR8/3 浅黄橙	在地		Q9	19	SK22	小坏磁器	80	(31)	□3	透明釉染付	N9/ 白	肥前		E13
24	SK06	土師器皿	186 内142	(43)	□2		7.0YR7/3 にぶい黄橙	在地		Q11	20	SK22	土師器皿	108	18	□2	木川	10YR7/4 にぶい黄橙	在地	灯芯油痕1ヵ所以上 見込に鉄分付着	E12
25	SK06	土師器皿	115	23	完形		10YR7/4	在地	灯芯油痕全周	Q7		第17図	上市市	P334				にがり異位		元益に飲力り加	
26	SK06	土器土師器皿	内74	19	□4		にぶい黄橙 10YR7/3	在地	灯芯油痕1ヵ所以上	Q4	1	SK21	<b>砂</b>	100	67	□3 <b>©</b> 3	透明釉	2.5Y8/3	肥前	口紅	M21
27	SK06	土器土師器皿	内75 84	15	□11		にぶい黄橙 7.5YR8/4	在地	内外面に黒斑有	Q1	2	SK21	陶器 向付	125	40	底2	透明釉	淡黄 10YR7/1	肥前	底部内外面鉄泥皿か	M20
28	SK06	土器土師器皿	内34	17	□11		浅黄橙 10YR8/3	在地	灯芯油痕1/12以上	Q3	3	SK21	陶器 土師器皿	110	20	□3	鉄絵	灰白 10YR8/3	在地		M23
29	SK06	土器土師器皿	内43	19	完形		浅黄橙 10YR8/2	在地	灯芯油痕5/12	Q2	4	SK21	土器土師器皿	内66 118	26	□12		浅黄橙 7.5YR7/4	在地	灯芯油痕9/12	M24
	第15図	土器	内43	_			灰白		歪み大		5	SK21	上器 火鉢	内61	(134)	底12		にぶい橙 10YR8/4		内外面墨塗布	M19
1	SK08	碗	84	(50)	□4	透明釉	N9/	肥前	コンニャク印判	M1			土器	260	_	,_,		浅黄橙		内面に黒雲母多	+
2	SK08	磁器	128	44	底3	透明釉	自 2.5Y7/2	_	色絵(青•不明)	M4	6	SK27	土師器皿 土器	100 内61	22	□2		10YR7/2 にぶい黄橙	在地		E11
3	SK08	陶器 土師器皿	53 120	25	□10	色絵	灰黄 10YR8/3	-	灯芯油痕10/12以上	M2	7	SK28		136	(27)	□3	透明釉	2.5Y7/2	肥前	見込蛇目釉剥ぎ	E10
4	SK08	土器土師器皿	内73	20	□5		浅黄橙 10YR7/3	-		M3	8	SK29	磁器	88	58	□5	透明釉	灰黄 N9/	肥前	コンニャク印判	E22
5	SK08	土器土師器皿	内73 112	19	□3		にぶい黄橙 5YR7/6	在地	灯芯油痕3/12以上	M5		Ortes	磁器	40	_	底12	染付	白	non-	高台に砂付着	-
6	SK09	土器	内66 40	15	底8	透明釉	橙 2.5Y8/1	肥前	高台内墨書有	E5	9	SK29	碗 磁器	81 42	68	底6	透明釉 青磁釉 染付	N9/ 白	肥前	青磁染付	E23
7	SK09	磁器碗	18 86	50	<u>⊿</u> 6	透明釉	灰白 N9/	肥前	漆継 色絵(朱・緑・黒)	E8	10	SK29	碗	90	66	底12	透明釉	N8/	不明	外面青磁釉	E25
		磁器	36	23	底6	染付 色絵 透明釉	白 N9/	_	高台内: 圏線 A、銘有				磁器碗	54 86	54		透明釉	灰白 N9/		内面透明釉	+
8	SK09	磁器	_		底4	染付	Á	肥前	高台に圏線3条	E9	11	SK29	磁器皿	36 128	36	底6	染付 透明釉	白 N9/	肥前	見込蛇目釉剥ぎ	E24
9	SK09	碗 軟質施	112 64	65 —	口6 底12	緑釉	7.5YR8/4 浅黄橙	在地	高台敲打痕有 外面体部へラ描き痕有 高台内代形 連絡痕	E6	12	SK29	磁器	48 52	41	底12	染付 透明釉	白 N9/	肥前	高台・見込に砂付着	E26
		釉陶器	_	(135)			10YR7/2	l	高台内釘彫 漆継痕		13	SK29	磁器	摘14 78	54	受6	染付 色絵	白 N7/	肥前		E30
10	SK09	陶器 土師器皿	175 116	22	底12	鉄釉	にぶい黄橙 7.5YR8/6	肥前	内外面敲痕 灯芯油痕全周	E7	14	SK29	陶器	40 82	70	底6	鉄釉	灰白 2.5Y7/1	美濃か		E28
11	SK09	土器	内74 116	24	完形		浅黄橙 7.5YR7/3	在地	掌痕有 灯芯油痕全周	E1	15	SK29	陶器碗	48	47	底6	鉄釉	灰白 N7/	美濃か瀬戸	外面鎧手か	E29
12	SK09	土器	内72	_	完形		にぶい橙	在地	掌痕有	E2	16	SK29	陶器	40	_	底12	鉄釉	灰白	美濃		E27
13	SK09	土師器皿土器	114 内72	23	□11		10YR7/3 にぶい黄橙	在地	灯芯油痕1ヵ所以上 底部1ヵ所径3mm穿孔 口縁部1ヵ所意図的な	E3	17	SK29	碗 陶器 土斯	96 40	52 —	底12	鉄釉 長石釉	10YR6/3 褐灰 7 EVP4/2	不明		E31
								_	割れ口有 掌痕有		18	SK29	土瓶陶器	73	88	□3	鉄釉	7.5YR4/3 にぶい褐	不明	外面底部煤付着	E34
14	SK09	土器	116 内74	22	完形	VENDS:	10YR8/3 浅黄橙	在地	灯芯油痕全周 掌痕有	E4	19	SK29	土器	112 内76	20	□4		10YR7/3 にぶい黄橙	在地		E20
15	SK10	碗 磁器	95 58	60	口1 底1	透明釉染付	N9/ 白	肥前	高台内1重圏線 A	T8	20	SK29	土師器皿土器	81 内35	17	完形		10YR8/3 浅黄橙	在地	灯芯油痕3ヵ所	E17
16	SK10	<u>m</u>	130	35	口10 度12	透明釉	N9/	肥前	高台内:1重圏線A、目 跡1残、大明年製銘	Т9	21	SK29	土師器皿土器	78 内31	14	□11		7.5YR8/6 浅黄橙	在地		E18
-	-	磁器	81	_	底12	染付	Á		口紅		22	SK29	土師器皿 施釉土器	88 内36	16 —	□5	透明釉	10YR8/2 灰白	在地	灯芯油痕5/12以上 内面施釉	E19
- 1	SK10	向付 陶器	153 50	74	口3 底12	灰釉 鉄絵	N7/ 灰白	肥前		Т6	23	SK29	火鉢 土器	176 142	95	底10		10YR8/3 浅黄橙	在地	外目赤漆 足3残 外面花型刻印6残	E32

番号	遺構	器種 種別	a b	量 c d	遺存/12	釉薬 絵付	胎土外面	色調	産地	備考	実測番号	番号	遺構	器種 種別	a h	量 c	遺存 /12	釉薬 絵付	胎土包 外面	5調 内面	産地	備考	実測番号
	第18図		В	u			<u> </u>					13	SK34	鉢陶器	192 160	143	口2 底2	鉄釉 白泥	5Y6/ 褐灰		肥前	見込砂目2個	N39
1	SK30	碗	104	50	□2	透明釉	7.5		肥前		E15	14	SK34	鉢	314	(94)	<u>IE</u> Z2	鉄泥	7.5YF	16/1	越前		Q27
2	SK30	磁器植木鉢	276	152	□2 \$70	染付 鉄泥	灰 10YI	R8/3	越前	三足中1足残存	E16	15	SK34	四	82	胴308	□4	透明釉	褐灰 5YR6		在地	内面刻印・型押成形	Q37
3	SK30	植木鉢	154 320	(192)	底2	灰釉	浅黄	/8/2	不明		E14	16	SK34	施釉土器	72 48	23	完形		检 10YR		在地	外面布痕 灯芯油痕有	Q38
4	SK31	陶器 猪口	_	(40)	底12	白磁	灰 N		肥前		N18	17	SK34	土製品	25 112	12 26	D4		灰白 10YR		在地	内面一部黒斑	Q36
5	SK31	磁器	32 80	46-	ほぼ	白磁	N N		肥前		N17	18	SK34	土器	内42 116	27	□2		浅黄 7.5YR		在地	内外面一部黒斑	Q39
		磁器	32 60		完形 口8	透明釉	N N	3		= 4744×				土器	内30	-	Ш		浅黄	橙	11.75	1771国一即無対	Q39
6	SK31	磁器	27 87	62	底12	染付 透明釉	E N	3	肥前	高台砂付着高台内銘	N19		第21図	小坏	68	44	□9	透明釉	N9	/	am 14	畳付砂付着	T
7	SK31	磁器	50 86	60	底6	染付 透明釉		3	肥前	「宣明年製」か	N22	1	SK35	磁器	32 84	46	底12	染付 透明釉	Á N9		肥前	見込胎土目1残	M34
8	SK31	磁器	51 92	61	底10	染付 透明釉	灰 N	白	肥前	高台内銘 高台内銘	N23	2	SK35	磁器	37 133	34	底6	染付	白 N9		瀬戸	見込蛇目釉剥ぎ	M28
9	SK31	磁器碗	45 82	66	底6	染付 透明釉	I N	3	肥前	同日773年 同日773年 同日773年 同日773年 日日774年 日日774年	N20	3	SK35	磁器	50	50	底12	青磁釉	白 N9		肥前	底部砂付着 高台無和	M26
10	SK31	磁器	51	_	底11	染付	灰	白	肥前	「宣明年製」	N21	4	SK35	磁器	53	_	底12	青磁釉	白		肥前か	SK41と接合	M39
11	SK31	磁器	92 43	66	底11	透明釉染付	N E	1	肥前	高台内銘有 高台内1重圏線 A	N24	5	SK35	陶器	98 50	69	口9 底12	透明釉緑釉	2.5Y8 灰白	3	肥前	呉器手	M30
12	SK31	磁器	95 48	61	口9 底12	透明釉染付	N 灰	白	肥前	高台内1重圏線 A 高台砂付着	N16	6	SK35	碗 陶器	98 50	69	底6	透明釉 鉄泥	2.5Y8 淡黄	ŧ	肥前	口紅 底部内外面鉄泥	M31
13	SK31	磁器	90 48	64	口11 底9	透明釉色絵	N E	3	肥前	色絵(朱・青・緑・黒)	N26	7	SK35	碗 陶器	90 44	59 —	口3 底4	透明釉 鉄泥	2.5Y8 淡黄	ŧ	肥前	口紅 底部内外面鉄泥	M27
14	SK31	碗 磁器	104 42	71 —	口6 底12	透明釉 染付	N 灰		肥前	高台砂付着	N25	8	SK35	すり鉢 陶器	327 109	120 —	口6 底12	鉄釉	10R4 灰赤		肥前	底部糸切り 見込と底部に目跡残	M25
	第19図											9	SK35	土師器皿 土器	118 内57	21	□6		5YR8 淡相		在地		M29
1	SK31	すり鉢 陶器	280	72 —	□3	鉄釉	7.5Y 褐		肥前	口縁部鉄釉	N15	10	SK35	土師器皿 土器	116 内58	25 —	□3		7.5YR 浅黄		在地	灯芯油痕1ヵ所以上	M36
2	SK31	土師器皿 土器	108 内52	23	口4 底4		7.5Y 浅黄		在地	指頭圧痕有	N13	11	SK35	土師器皿 土器	118 内62	24	□9		7.5YR 浅黄		在地	灯芯油痕9/12以上	M35
3	SK31	土師器皿 土器	110 内46	25	ほぽ		7.5Y 浅黄	R8/4	在地	灯芯油痕4ヵ所 指頭圧痕有	N9	12	SK35	土師器皿	110 内56	21	□11		7.5YF 浅黄	18/4	在地	灯芯油痕11/12以上	M33
4	SK31	土師器皿 土器	120 内58	21	口3 底3		10YI	R7/3	在地	指頭圧痕有	N14	13	SK35	土師器皿	110 内56	21	□6		5YR7	'/4	在地		M32
5	SK31	土師器皿土器	112 内52	24	ほぽ完形		7.5Y 浅黄	R8/4	在地	灯芯油痕6ヵ所 指頭圧痕有	N10	14	SK36	すり鉢陶器	104	(68)	底6		2.5YR 明赤	15/6	肥前	底部糸切り	T31
6	SK31	土師器皿	110	21	□4		7.5Y	R7/4	在地	灯芯油痕1ヵ所	N12	15	SK36	土師器皿	110	19	□2 \$4		10YR	8/4	在地		T30
7	SK31	土器土師器皿	内56 138	24	底5		にぶ 7.5Y	R8/4	在地	指頭圧痕有 灯芯油痕4ヵ所	N11	16	SK37	強	内40 104	53	底4	透明釉	浅黄 N9	<u>fe</u>	肥前		T37
8	SK32	土器 合子	内76 55	12	底9	透明釉	浅 N	9/	肥前	指頭圧痕有 底部無釉	T27	17	SK37	磁器碗	42 82	56	底1	染付 透明釉	白 N9/	/	肥前	高台内1重圏線 A	T38
9	SK32	磁器合子	50 60	19	底6	染付 白磁	N N			底部無釉	T26	18	SK37	磁器皿	52 98	26	底6	染付 透明釉	白 N7,	/	肥前	高台内銘「大明年製」 高台内1重圏線 A	T35
		磁器	40 60	42	Æ.6 □5	透明釉	N N		肥前		$\vdash$	_		磁器皿	61	(20)		染付 透明釉	灰白 N9			銘有 高台砂付着 高台内1重圏線 A	+
10	SK32	磁器碗	26 90	60	底6	染付 透明釉	E N		肥前	漆継	T18	19	SK37	磁器	170 199	(63)	底1	染付	白 2.5Y7		肥前	高台内ハリ目跡1残	T36
11	SK32	磁器	61 90	- 56	底9	染付 透明釉	F N	3	肥前	高台内2重圏線 A	T16	20	SK37	陶器			□2	鉄釉	灰黄		不明		T34
12	SK32	磁器	56	(60)	底6	染付	7.5Y	3	肥前	高台内2重圏線 A	T17		第22図	蓋	114	返99		透明釉	N9/	/	1		T
13	SK33	陶器	140 96	_	以下 口4	青磁轴	灰	白	中国か	型押成形	T22	1	SK38	磁器	24	_	□3	染付	白		肥前		T33
14	SK32	陶器	50	67	底11	灰釉	10YI 灰	白	肥前	畳付砂付着 外面陰刻	T20	2	SK38	碗陶器	113 41	54	口2 底6	透明釉 灰釉	N8, 灰白		京・信	見込目跡2と傷跡1にオ  色で絵付  外面色絵(朱・白)	T32
15	SK32	小坏陶器	72 29	47	口11 底12	鉄釉	10YI 灰	白	肥前		T19							色絵				高台砂付着 内面貫入	
16	SK32か SK33	鉢 陶器	380	(120)	□1	鉄泥	10YI 褐	灰	越前		T24	3	SK39	土師器皿	90 内40	17	口6 底6		10YR 浅黄	橙	在地		T29
17	SK32	土師器皿土器	84 内30	20 —	口3 底12		10YI 浅黄		在地	灯芯油痕1ヵ所以上 内面型打成形	T15	4	SK40	小坏 磁器	76 30	43	底3	透明釉染付	N9, 白	/	肥前		M52
18	SK32	土師器皿 土器	108 内54	22	□5		10YI 浅黄	R8/3 专橙	在地	外面指ナデ痕	T14	5	SK40	碗 陶器	88 48	56 —	口2 底2	透明釉鉄釉	2.5Y8 淡黄	ŧ	肥前	口紅	M50
19	SK32	土師器皿 土器	116 内54	24 —	□6		5YF		在地	灯芯油痕2ヵ所以上	T13	6	SK40	土師器皿 土器	120 内61	(24)	□4		5YR7 橙	//6	在地		M49
20	SK33	小坏 磁器	70 29	36 —	口4 底6	透明釉 染付	N E		肥前		T23	7	SK40	土師器皿 土器	116 内66	27	□3		10YR 浅黄		在地	灯芯油痕3/12以上	M51
21	SK33	碗 磁器	94 30	43 —	口7 底12	透明釉 染付	N E	9/	肥前		T25	8	SK42	皿 磁器	106 66	25 —	口1 底3	透明釉 染付	N9/	/	肥前	高台内1重圏線 A	M48
00	SK33	土瓶	110	_	□8	透明釉	10YI	R8/3	4.14.	A-□712	T00	9	SK41	碗 磁器	144	(58)	□3	透明釉色絵	N9, 白	/	肥前	色絵(青、緑、黒)	M44
22	SK34 上層	土器	-	胴200	胴4	緑釉		<b>专橙</b>	仕地か	注口孔3	T28	10	SK41	碗 磁器	90 57	63	口3 底12	透明釉染付	N9/	/	肥前	高台内1重圏線AとE の間	В м40
23	SK33	土師器皿 土器	116 内62	17	□3		7.5Y 浅黄		在地	灯芯油痕3ヵ所以上	T21	11	SK41	瓶磁器	- 60	(90) 胴88	底5	鉄釉	N9/ 白	/	不明	畳付砂付着	M41
	第20図											12	SK41	仏飯器 磁器	83 46	68	口6 底12	青磁釉	N7, 灰白		肥前		M42
1	SK34	碗器	_ 47	(18)	底3	透明釉染付	7.5Y 浅黄		中国漳州		Q30	13	SK41	皿 磁器	236 70	63	口3 底12	透明釉染付	N9,		肥前	見込蛇目釉剥ぎ 高台砂付着	M37
2	SK34	碗碗器	92	62	底9	透明釉	N	9/	肥前	口銹 高台内2重圏線	Q33	14	SK41	ш	131	38	□4	透明釉	2.5Y8		肥前	見込蛇目釉剥ぎ	M38
			60	胴93		染付 透明釉		3		高台内25里图線 高台内銘「大明年製」	Н	15	SK41	土師器皿	47 112	22	底7	銅緑釉	灰白 7.5YR 油类	18/3	在地	外面底部無釉	M45
3	SK34	磁器	42	(24)	底6	青磁轴染付	N 灰		肥前	高台内1重圏線 A 青磁染付	Q31	16	SK41	土器	内58 120	21	□6		浅黄 5YR7		在地	灯芯油痕3/12以上	M46
4	SK34	碗	108	56	底9	透明釉	N		肥前		Q32	17	SK41	土器 ミニチュア皿	内64	11	□2		也 2.5YR		在地		M47
5	SK33	磁器皿	36 —	(39)	底1	染付 透明釉	N		中国	高台砂付着	Q43	18	SK41	土器土師器皿	34 116	23	□3		橙 7.5YR	17/3	在地	見込穿孔2ヵ所	MAZ
	SK34	磁器皿	(156) 149	29	□9	染付 透明釉	灰 N	9/	漳州					土器	内68	_	μз		にぶい	\橙	II PE	(大:径12mm 小:径5mm)	)   WI43
6	SK34 SK33	磁器皿	81 144	41	底12	染付 透明釉	F N	3	肥前	高台内1重圏線 A	Q35		第23図	小坏	72	50	□4	透明釉	N9/	/	om a4		Noc
7	SK34 SK33	磁器鉢	82	(39)	□2	染付 透明釉	灰 N	白	肥前	高台内1重圏線 A	Q42	1	SK44	磁器	32	39	底12	染付 透明釉	白 N9/		肥前		N32
8	SK34	磁器	48 152	_	底12	逸明相 染付 透明釉	E N	3	肥前	輪花24弁 焼継	Q41	2	SK44	磁器	26 84	-	底12	染付 透明釉	白 N9/			外:圈線4条 型紙刷	N31
9	SK34	磁器	152 75	56 -	底3	透明細 染付	E	1	肥前	輪化24并 焼継 蛇目凹型高台	Q34	3	SK44	磁器	58	55 —	□5	染付	白		肥前	圏線外4条 高台内1条	€ N37
10	SK34	陶器	61	(52)	底11	灰釉	2.5Y にぶ	い橙	肥前	見込胎土目4残	Q28	4	SK44	磁器	84 62	61	口3 底3	透明釉染付	N9, 白		肥前	圏線外3条 高台内1条	€ N36
- 1	SK33	碗 陶器	130	(43)	□3	透明釉 染付	10YI 灰	R8/2 白	肥前		Q40	5	SK44	磁器	96 34	55 —	口9 底12	透明釉 染付	N9/ 白	′	肥前		N35
11	SK34	m	85	29			5YF				-												

番号	遺構	器種 種別	法 a b	量 c d	遺存 /12	釉薬 絵付	胎土1	色調 内面	産地	備考	実測番号	番号	遺構	器種 種別	a b	量 c	遺存 /12	釉薬 絵付	胎土 外面	色調内面	産地	備考	実測番号
6	SK44	碗磁器	84 56	63	口2 底5	透明釉瑠璃釉	N9		肥前		N33	16	SK73	小甕か 陶器 +師器皿	68 - 120	(51) 胴76 22.5	□3	灰釉か 藁灰釉か	10R 赤 7.5Yi	7			M66
		ミニチュア銚子	56	21	□3	鉄釉 透明釉	N9	/				17	SK73	土器	内69 56	21	□2	透明釉	にぶ 7.5YI	い橙	在地	灯心油痕2/12以上 施釉土器	M69
7	SK44	磁器	28	39	底3	染付 色絵	É			足1個残 3足か	N34	18	SK76	土器	24	_	底11	上絵	7.5YI	<b>专橙</b>	在地	型打ち成形	M70
8	SK44	磁器	46	-	底8	青磁釉	É	ĺ	肥前	見込蛇目釉剥ぎ	N30	19	SK76	土師器皿土器	116 内74	22	□6		浅黄	<b>专橙</b>	在地	灯心油痕1か所以上	M71
9	SK44	すり鉢陶器	330 104	127	口5 底12	鉄釉	10Y4 赤柱	륑	肥前	回転糸切底	N38	20	SK76	土師器皿土器	116 内73	19	□4	15.0051	10YF にぶし	・黄橙	在地	掌痕有	M72
10	SK44	土師器皿 土器	112 内50	20	口4 底5		7.5YF 浅黄	橙	在地	指圧痕	N27	21	SK77	小坏 磁器	53	(35)	□5	透明釉染付	N9 É	3	肥前		T49
11	SK44	土師器皿土器	112 内46	22	口8 底9		7.5YF 浅黄		在地	指圧痕	N29	22	SK77	小壺 磁器	28 30	43	口7 底11	透明釉 染付	N8 灰		肥前	底部外面無釉 内面施釉	T51
12	SK44	土師器皿 土器	116 内50	23	口8 底9		7.5YF 浅黄		在地	指圧痕	N28	23	SK77	小壺 磁器	37 —	(55)	□2	透明釉 染付	N9 É		肥前		T50
13	SK47	皿 磁器	145 84	42 —	底12	透明釉 染付	N9 É		肥前	輪花16弁 蛇目凹型高台	E51	24	SK77	碗 磁器	91 50	61 —	口6 底9	透明釉 染付	N9 É		肥前		T52
14	SK47	碗 陶器	100	(39)	□1	天目釉	10YF 灰I			天目茶碗	E61	25	SK77	碗 磁器	90 54	64	口11 底12	透明釉 染付	N9 É		肥前	高台内圏線 A	T53
15	SK47	土師器皿 土器	80 内44	16 —	□9		10YF にぶい		在地	掌痕有	E47	26	SK77	皿 磁器	130 54	30	口3 底12	透明釉 染付	N9 É		肥前	口紅 高台砂付着	T48
16	SK47	土錘 土製品	38 9	40 —	完形		5YR にぶ		在地		E50	27	SK77	碗 陶器	88 46	62 —	□10	鉄釉	10YF にぶし		越中瀬戸	高台無釉	T46
17	SK50	高杯 土師器	=	(83) 頸36	頸12		2.5Y 灰I			内外面摩滅	N45	28	SK77	碗陶器	- 51	(56)	底12	灰釉	10YF 灰		瀬戸美濃	見込ハリ目跡3残	T45
18	SK50	土師器皿 土器	112 内70	19	□4		10YF にぶい	7/3	在地	指頭圧痕有	E46	29	SK77	皿 陶器	146 67	34	口1 底11	長石釉	2.5Y 灰	/8/2	美濃	内外面貫入 志野	T47
	第24図									1		30	SK77	土師器皿土器	76 内26	17	完形		10YF 浅黄	R8/3	在地	灯芯油痕5ヵ所	T41
1	SK46	碗磁器	108 44	55	底6	透明釉染付	5Y8 灰I		肥前	見込蛇目釉剥ぎ 高台砂付着	E43	31	SK77	土師器皿土器	80 内34	21	□10		10YF 浅黄	R8/3	在地	灯芯油痕6残	T42
				-		透明釉						32	SK77	土師器皿土器	80 (内26)	20	□3		10YF 浅黄	R8/3	在地	型打成形 灯芯油痕1/12以上	T43
2	SK46	磁器	103 41	60	底2	青磁釉 染付	N9 É		肥前	青磁染付 口銹 高台内圏線1条 B	E40		第26図	上市市	(P320)				/2,54	41H		万心海拔1/12以上	
								,		口縁部無釉		1	SK78	すり鉢	(28)	41	П1 N.Т.	鉄釉	10YF		瀬戸		T40
3	SK46	蓋物 磁器	84 34	43	底8	透明釉	N9 É		肥前	高台2ヵ所胎土目残 漆継	E39	2	SK78	海器 土師器皿	130	25	以下 口11		灭 7.5Y	R8/3	美濃 在地	灯芯油痕ほぼ全周	T39
4	SK46	碗	112	71	底2	透明釉	5Y7		京・信	外面底部飛カンナ	E44	3	SK80	土器	内64	(20)	□2	灰釉	浅黄 7.5Y	R8/3		外面桜刻印	Q59
5	SK46	陶器 すり鉢	44	(65)	底4	染付 鉄絵 鉄釉	灰I 5YR	5/3	肥前	見込砂目跡2残	E37		Ortoo	陶器	摘一	受176		白泥	浅黄	<b>を</b> 橙		内面施釉	1
6	SK46	陶器碗	180 88	- 55	<u> </u>	透明釉	にぶい 7.5YF		在地	底部砂付着 色絵(緑)	E41	4	SK80	鉢 陶器	344 195	226 —	口10 底3	灰釉 緑釉 鉄釉	5Y8 灰		瀬戸 美濃	漆継 浮文 見込胎土目跡1残 内面接合痕	Q60
7		軟質施釉土器 土師器皿	122	20	D11	白泥 色絵	相 7.5YF		-	灯芯油痕ほぽ全周	F42	_	CV07	土師器皿	108	24	□3	200	10YF	R8/3	<del>√.</del> +sh		Q57
	SK46	土器土師器皿	内77 116	20			浅黄 10YF	橙	在地	掌痕有		5	SK87	土器土師器皿	内43 134	27			浅黄 7.5YI	<b>专橙</b>	在地		+
8	SK46	土器 焼塩壺	内70 68	26	□6		浅黄 7.5YF	橙	在地	灯芯油痕5/12以上	E38	6	SK87	土器 火入	内66 57	(64)	□2		浅黄 N8	<b>专橙</b>	在地	A-0/	Q58
9	SK46	土器	76 84	胴104 15	底3		にぶ 7.5YF	ハ橙	在地	内面ススか	E36	7	SK94	磁器土師器皿	116	胴64 22	□4	青磁釉	灰 2.5YI	白		釘彫り	Q55
10	SK58	土器	内39 48	14	□3 □8		浅黄 N8	橙	在地	ヨゴレか	Q45	8	SK94	土器	内52 90	76	□1	透明釉	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	Ê	在地	灯芯油痕1/12以上	Q56
11	SK59	磁器	15	(51)	底12	透明釉透明釉	灰i 7.5YF	á	肥前		Q46	9	SK85	磁器碗	48	74	底7	染付 透明釉	灰 N	白	肥前	高台内銘有	E74
12	SK59	磁器	-	_	□1	染付	浅黄	橙	中国	#10VDF /1相匠	Q47	10	SK85	磁器	52	_	底6	染付	灰 N	白	肥前	高台内砂付着	E57
13	SK59	土器	176	(139)	底10	AE BEIGH	7.5YF 浅黄	橙	在地	芯10YR5/1褐灰 漆継	Q48	11	SK85	磁器	172 96	30	底2	透明釉染付	灰	Á	漳州	高台内無釉部分有 高台に砂付着	E60
14	SK60	磁器	57	(52)	底3	透明釉 染付	N9 É		肥前	高台内一重圏線 A	Q49	12	SK85	陶器	60 32	42 -	底12	灰釉	10YF 灰	白	肥前		E56
15	SK61	磁器	105 47	69	口1 底8	透明釉染付	N8 灰I	<b>á</b>	肥前	高台畳付砂付着	Q50	13	SK85	茶入 陶器	42	(54)	底12	藁灰釉 鉄釉	2.5Y 灰	白	不明		E59
16	SK61	すり鉢 陶器	326	(67)	□3	鉄釉	10Re 赤	音	肥前		Q51	14	SK85	碗 陶器	100	(53)	□3	灰釉	2.5Y 灰	白	肥前		E72
17	SK61	すり鉢 陶器	306	(70)	□2	鉄釉	5YR 黒	曷	肥前		Q52	15	SK85	陶器	45	(29)	底12	灰釉	N7 灰	白	肥前	同口が日期づ次	E73
18	SK61	土師器皿 土器	78 内28	21	□6		7.5YF にぶ		在地	灯心油痕6/12以上	Q54	16	SK85	陶器	124 43	34	底12	灰釉	10YF 灰黄		肥前	見込砂目跡3残 外面底部砂目跡3残	E58
19	SK61	土師器皿 土器	114 (内44)	26 —	□5		7.5YF 浅黄		在地	灯心油痕5/12	Q53	17	SK85	水盤か 陶器	160	(55) 肩188	□3	透明釉 白泥 鉄絵	2.5Y 灰	白	不明	漆継痕 刷毛目	E66
	第25図											18	SK85	火入か 陶器	140 99	86 —	底6	鉄釉 白泥	10YF にぶぃ		不明	3足中1足残存	E69
1	SK62	紅皿 磁器	45 12	16 —	口11 底12	透明釉	N9 É		肥前		M58		第27図										
2	SK62	碗 磁器	_ 50	(26) —	底10	透明釉 染付	N9 É		肥前	高台内銘有 「富貴長春」	M55	1	SK85畦	鉢 陶器	346 106	104 —	底7	透明釉 鉄絵	2.5YI にぶ		肥前	見込砂目跡4残 高台砂目跡5残	E53
3	SK62	碗 磁器	116 46	63 —	口1 底12	透明釉 染付	N8 灰I		肥前	高台砂付着 高台内銘有	M54	2	SK85	すり鉢 陶器	329 —	(101) —	□2	鉄釉	5YR 赤		肥前		E65
4	SK62	碗磁器	94 38	62 —	口3 底5	透明釉 染付	N9 É		肥前		M59	3	SK85	すり鉢 陶器	_ 112	(73) —	底2	鉄泥	10YF にぶし		越中瀬戸	底部糸切	E64
	0::::	碗	_	(49)		透明釉	N9		gm.s.c	= 47441 ×		4	SK85畦	甕 陶器	139	(131) 肩180	□1	鉄釉	7.5Yi 褐.	R4/1	肥前	内面当具痕 口縁部溶着痕有	E75
5	SK62	磁器	46		底1	青磁釉 染付	É		肥前	高台砂付着	M53	5	SK85	土師器皿土器	86 内58	19	□8		10YF にぶし	R7/3	在地	灯芯油痕1ヵ所以上	E52
		蓋	90	44		透明釉	10YF	7/2				6	SK85	土師器皿 土器	120 内76	24	□9		2.5Y 灰	/8/2	在地	灯芯油痕全周か	E68
6	SK62	陶器	71	44	完形	染付 白泥 鉄絵	にぶい				M56	7	SK85	土師器皿土器	108 内73	24	□6		10YF 灰	R8/2	在地	灯芯油痕全周か	E63
7	SK62	土師器皿土器	104	18	□2		10YF にぶい		在地	灯心油痕2/12以上	M57	8	SK85	土師器皿土器	112 内78	20	□2		10YF 灰	R8/2	在地	外面指頭圧痕	E70
8	SK65	ш	132 44	45	底4	透明釉	2.5Y	8/3	肥前	内面に鉄絵有	M60	9	SK85畦	土師器皿	116	25	完形		10YF	R8/4	在地		E71
9	SK65	陶器 土師器皿	112	19		鉄絵	淡: 5YR	7/6	在地		M61	10	SK85	土師器皿	内64	22	底12		浅黄 10YF	R7/2	在地		E54
10	SK67	一生器	内60	(33)	底4	透明釉	档 Ng	/		SK68と接合	M62	11	SK85	土器	内69	22	□6		にぶし 5Y3	3/2		底部ムシロ目跡有	E55
11	SK68	松器 小杯	41 60	(32)	□3	染付 透明釉	É N9	/	肥前		M63	12	SK85	土器土師器皿	内88	21	□9		オリー 10YF	R8/2	在地	THE S THE PATE H	E62
12	SK68	磁器 小杯	48	36	底3	染付 透明釉	É N9	/	肥前		M64	13	SK85	土器土師器皿	内54 118	23	П2		灰 10YF	R6/1	在地	外面剥離多	E67
		磁器碗	22 95	60		染付 透明釉	É N9	/		高台内銘•一重圏線				土器	内80	_	HΖ		褐	灰	IT PE	油痕有	120/
13	SK70	磁器	48	50	底12	染付 透明釉	É N9		肥前	高台砂付着	M65		第28図	碗	-	(22)	rie o	E54	5YR	R6/4	± #-	#***	1470
14	SK73	磁器	37	(31)	底12	染付 透明釉	10YF		肥前	高台砂付着 餌猪口か	M68	1	SE02	陶器	34	29	底6	灰釉 透明釉	にぶ N8	い橙		碁筍底	M78
15	SK73	陶器	30	-	底12	染付	にぶい		肥前	底部糸切	M67	2	SE02	陶器	50	-	底12	染付	灰		肥前	陶胎染付	M79

	) att 144	製種	法		遺存	釉薬	胎土	色調			宇測		) all 146	<b>製種</b>		量	遺存	釉薬	胎土的	色調			実測
番号	遺構	種別	a b	d d	/12	絵付	外面	内面	産地	備考	番号	番号	遺構 SD04	種別	a b	d 30	712 □1	絵付	外面 2.5Y	内面	産地	備考	番号
3	SE02	すり鉢 陶器	_ 127	(60)	底12	鉄泥	5YF にぶ		須佐	見込に重ね焼痕有 全面に鉄泥 高台内にノミ痕	M77	15	上 SD04		96	152	底4	透明釉 鉄泥	灰i	<u>á</u>	九谷	内面~外面鉄釉 外面下部鉄泥	Q61 Q64
4	SE02	土師器皿 土器	140 内100	(27) —	□2		5YF		在地	凹線一条	M80		上	陶器	168	_	底3	鉄釉	浅黄	橙	7.0	内面胎土目痕1残	Q04
5	SE03	紅皿 磁器	55 18	14	完形	透明釉	N 灰		肥前		N6	17	SD05	皿 磁器	125 45	42 —	口8 底12	青磁釉	N9 É		肥前	見込蛇目釉剥ぎ 高台砂付着 漆継痕	T55
6	SE03	碗 磁器	92 50	61 —	口5 底12	透明釉染付	N 灰		肥前		N7		第30図										
7	SE03	小皿磁器	94 30	22	完形	透明釉	N 灰	白	肥前	型打成形	N8	1	SD06	甕 須恵器	=	(50) 頸156	頸2		10YR 灰I			外面タタキ・ナデ・ハケ 内面当具痕・ナデ	N46
8	SE04	瓶 陶器	138	(86) 頸93	□3	鉄釉	7.5Y にぶ		不明	漆継	E35	2	SD06	碗 磁器	86 33	54 —	口3 底12	透明釉染付	N9 É		肥前		T57
9	P2	血 陶器	44	(20)	底7	灰釉	N 灰	白	肥前	見込胎土目1残 高台胎土目2残	M91	3	SD06	すり鉢 陶器	140 68	47	口1 底1	鉄釉	10YR 褐/	灭	不明	釉薬二度掛け	T56
10	P2	瓶 陶器	88	(43)	底2	不明	10F 赤	橙	肥前		M92	4	SD06	土師器皿土器	84 内42	15 —	□10		10YR 浅黄	i橙	在地	灯芯油痕1ヵ所 拳痕有	M74
11	P2	土師器皿土器	100 内57	21	□6		10YI 浅黄	<b>专橙</b>	在地		M93	5	SX02	血 陶器	106 29	37	口6 底12	灰釉	5YR 相	ŧ .	肥前	見込胎土目痕4ヵ所残 口縁部歪み大	Q77
12	P3	陶器	96	(15)	□2	灰釉	10YI 灰	白	瀬戸美濃		M73	6	SX02	碗 陶器	52	(18)	底6	灰釉	10YR 灰I	<u> </u>	肥前	高台内刻印「森」 京焼風陶器	Q76
13	P7	碗 陶器	120	(41)	□1	透明釉 鉄絵	2.5	<b>黄色</b>	京・信		M75	7	SX02	土師器皿土器	120 内60	23	□2	AE BOST	2.5YF 相	1	在地	灯芯油痕1/12以上	Q78
14	P11	植木鉢施釉土器	92	(54)	底3	透明釉	5YF 淡		在地	穴径20mm	M76	8	SX01	小坏磁器	58 15	26	口9 底12	透明釉 色絵	N9 É	1	肥前	色絵(赤)	Q68
15	SD01	甕 土師器	188	(35) 頸152	口1 頸1		2.5YR6/6 橙	5YR7/6 橙		砂○赤○焼○ 外面擬凹線有	E93	9	SX01	磁器	106	(63)	□5	透明釉 染付	N8 灰i	Á	肥前	高台内銘「大明年製」 高台内1重圏線 A 漆継	Q71
		工品和超		JATOL	281			182		内外面摩滅		10	SX01	磁器	92 32	57 —	口11 底12	透明釉 染付	N9 É	1	肥前		Q74
16	SD01	甕 土師器	176 —	(36) 頸152	□2		10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白		礫○砂○赤△焼○ 外面スス付着 口縁部指頭圧痕有	T84	11	SX01	蓋物 磁器 碗	94 42 102	52 - 50	底12	透明釉染付透明釉	N9 自 N9	i	肥前	m. +	Q73
$\vdash$										内外面摩滅		12	SX01	磁器皿	35	(36)	底12	遊明相 染付 透明釉	É N9	1	肥前か	貫入有	Q72
17	SD01	甕 土師器	158	(39) 頸133	口1 頸1		10YR7/3 にぶい	10YR8/2 灰白		礫○砂○骨△赤△焼○ 外面スス付着	T82	13	SX01	磁器	107	-	底2	染付 色絵	É		肥前	色絵(赤・黄・緑)	Q75
18	SD01	甕 土師器	161	(37) 頸138	口1 頸1		黄橙 10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白		外面ナデ 内面摩滅 砂◎赤△焼○ 内外面摩滅	T81	14	SX01	皿 磁器	142 83	41 —	底12	透明釉染付	N8 灰i		肥前	高台内銘「渦福」 蛇目凹型高台 口縁輪花	Q70
19	SD01	甕	(136)	(42) ( 頸	□1		10YR6/1	10YR7/2 にぶい		礫○砂○赤△焼○	T85	15	SX01	蓋 磁器	101 摘36	26 受88	□8		N9 白		肥前		Q69
19	3001	土師器	_	112)	以下		褐灰	黄橙		内外面ナデ	100	16	SX01	碗 陶器	99 42	59 胴104	口9 底12	鉄釉 長石釉	10YR 灰I		瀬戸 美濃か		Q67
20	SD01	甕	144	(80)	□12		5YR7/4	5YR7/4		礫○砂△赤△焼○ 外面摩滅	M106	17	SX01	土師器皿 土器	116 内66	(20) —	□2		7.5YF 浅黄		在地	灯芯油痕2/12以上	Q65
20	3001	土師器	_	頸128	шіг		にぶい橙	にぶい橙		内面摩滅、ケズリ	WITOO	18	SX01	灯明皿 施釉土器	112 —	(16) —	□1	透明釉	10YR 浅黄		在地	灯芯油痕1/12以上	Q66
21	SD01	甕 土師器	230	(56) 頸190	口1 以下		10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白		砂△赤△焼○ 外面摩滅 内面摩滅、ハケ	E98	19	SX05	水滴陶器	36 15	_		灰釉	2.5Y 灰i	白	不明	内面無釉 型押成形 置付無釉、砂付着	T73
22	SD01	底部 土師器	_ 44	(38)	底12		7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR7/3 にぶい橙		礫○砂△赤△焼○ 内外面摩滅	M104	20	SX05	磁器	84 50	60	口7 底12	透明釉染付	N9 É		肥前	高台内一重圏線 A 高台内銘「大明年製」	T74
			44	(20)						礫△砂△赤○焼○		21	SX05	土師器皿	124 内50	21	□3		7.5YF		在地		T72
23	SD01	底部 土師器	64	(30)	底3		10YR8/3 浅黄橙	5Y8/1 灰白		底部内面黒斑 外面摩滅 内面ハケ	E94	22	SX05	土師器皿土器	114 内40	22	□3		7.5YF	R7/4	在地	灯芯油痕3/12以上	T71
		责	184	(74)			2.5Y6/1	10YR8/2		礫△砂△赤△焼○		23	SX05	土師器皿	116 内40	22	口6 底6		7.5YF 浅黄	R8/4	在地	灯芯油痕3ヵ所残 1/12以上	T70
24	SD01	土師器	-	-	□2		黄灰	灰白		口縁段有 内外面ナデ 摩滅	T83		第31図										
		底部	_	(21)			10YR7/4	10YR7/4		砂△骨△赤△焼○		1	SX03	紅皿磁器	62 19	23	口7 底8	透明釉	N9		肥前	畳付無釉 型押成形 陽刻文(蛸唐草)	T69
25	SD01	土師器	(54)		底5		にぶい 黄橙	にぶい 黄橙		外面摩滅 内面ハケ	T86	2	SX03	小坏 磁器	66 27	39	底12 口5	透明釉 染付	N9 É		肥前	畳付無釉	T67
1	第29図											3	SX03	碗 磁器	88 36	57 —	口6 底4	透明釉 染付	N9 白		肥前	畳付無釉	T68
1	SD01	壺 土師器	96 —	(46) 頸55	口3 頸3		10YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙		砂△赤○焼○ 内外面摩滅	E95	4	SX03	皿 磁器	148 92	45 —	口1 底4		N9 白		肥前	輪花24弁 蛇目凹型高台	T63
2	SD01	壺か 土師器	116	(20)	□1		7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR7/3 にぶい橙 10YR7/2		砂△赤△焼○ 外面ナデ 内面摩滅 礫○砂○骨○赤△焼○	E97	5	SX03	皿 陶器	130 48	52 —	口2 底10		2.5Y 浅i		肥前	内面目跡1個残 高台内「柴」刻印 京焼風陶器 吳須絵	T64
3	SD01	高杯 土師器	170 —	(123) 頸31	口3 頸12		にぶい 黄橙	にぶい 黄橙		外面摩滅  内面ハケ→ミガキ・ナ  デ	T87	6	SX03	鉢 陶器	272 86	80	口1 底6	透明釉鉄釉	2.5Y 灰I		九谷か	高台内墨書有 漆継 内面ハリ目痕3残	T66
4	SD01	高杯土師器	_	(32)			7.5YR8/3 浅黄橙	7.5YR8/3 浅黄橙		礫△砂△赤△焼○ 内外面摩滅	M105	7	SX03	土師器皿土器	82 内32	17	<u>⊭</u> 11	98.10	7.5YF	R7/4	在地	P) III / 1 / D 1 (K 37X	T59
5	SD01	高杯土師器	=	(77) 頸34	頸6		10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白		礫△砂○赤△焼○ 内外面摩滅	T88	8	SX03	土師器皿	74 内40	15	<b>□</b> 7		10YR 灰i	R8/2	在地		T60
6	SD01	高杯土師器	=	(61) 頸34	頸12		2.5YR7/8 橙			礫△砂△骨△赤△焼○ 内外面摩滅	M108	9	SX03	土師器皿	116 内50	22	□10		10YR 浅黄	18/3	在地	灯芯油痕7/12以上	T61
7	SD01	脚部 土師器	_	(72) 頸32	頸12		10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙		砂△赤△焼○ 内外面摩滅	M109	10	SX03	火鉢 土器	-	(95) 200	底3		10YR 浅黄	R8/3	在地	外面赤色漆塗布 3足か	T65
8	SD01	脚部 土師器	_ 112	(43)	底3		10YR7/1 灰白	10YR4/1 褐灰		礫△砂△焼○ 内外面摩滅	M107	11	SX03	焼塩壺 土器	48 94	32 64	口4 底2		10YR にぶい	R7/4	在地		T58
	05-	脚部	_	(36)			10YR7/3	5YR7/3		砂△赤△焼○		12	SX04	ミニチュア領磁器	36 14	21	口6 底12	透明釉染付	N9	/	肥前		M103
9	SD01	土師器	100	-	底2		にぶい 黄橙	にぶい橙		内外面摩滅	E96	13	SX04	小坏磁器	52 14	28	口3 底7	透明釉色絵	N9	)/	肥前	色絵(金・朱・不明)	T76
10	0001	小型壺	_	(48)	<b>₽</b> 10		5YR7/4	10YR8/4		砂△赤◎焼○	F00	14	SX04	小坏 磁器	44 26	24	口3 底3	透明釉 染付	N9 É		肥前		T77
10	SD01	土師器	14	胴68	底12		にぶい橙			底部外面黒斑 内外面摩滅	E99	15	SX04	小坏 磁器	58 28	20 —	口8 底12	透明釉 染付	N9 白		肥前		T78
11	SD01		_	(70)	向1つ		7.5YR8/8			砂△赤△焼○	M110	16	SX04	小坏 磁器	56 24	22 —	口2 底4	透明釉	N9 É		肥前		T75
11	SD01	土師器	17	頸54 胴88	底12		黄橙	明褐灰		穴径11mm 黒斑 外面ハケ 内外面摩滅	WILIA	17	SX04	小坏 磁器	54 22	31 —	底12	透明釉 染付	N8 灰i		肥前	外面底部カンナ目	E87
12	SD03	土師器皿 土器	108	(23)	□2		10YI 浅黄	R8/3 专橙	在地	灯芯油痕2/12以上	T54	18	SX04	碗 磁器	88 42	42 —	底6	透明釉 染付	N9 É	ı	肥前		E84
13	SD04	碗	87	70	□5	透明釉瑠璃釉	N		瀬戸	外面釘彫、焼継 外面瑠璃釉	Q63	19	SX04	碗 磁器	80 28	47 —	底6	透明釉 染付	7.5Y 灰i	白	肥前		E80
13	J. D. O.4	磁器	46	_	底12	染付	F	3	美濃	口縁内面に染付	400	20	SX04	碗 磁器	83 32	56 —	底12	透明釉 染付	N9 白	1	肥前		E82
14	SD04 上	鉢 磁器	137 70	50 —	口2 底12	透明釉	N E		肥前	菊形 高台一部砂付着 漆継 25花弁 型打ち 内面に菊紋3か所残	Q62	21	SX04	碗 磁器 碗	102 38 101	52 — (36)	ほぽ 完形	透明釉透明釉	N9 自 N9	l //	肥前肥前		E83
										- 月山 に 州収 リバ 門 7次		22	SXU4	磁器			⊔5	染付	É		肥何		E81

		\	製種	法		遺存	釉薬	胎土	色調			実測		\	製種	法		遺存	釉料	ž –	胎土	色調	T	Г
1	番号	遵ੱ		b	d		絵付			産地	備考		番号	週菁			d	/12	絵	र्ग	外面	内面	産地	L
No.   No.	23	SX04	磁器	67	_	底12	染付	E	<u> </u>	肥前		M99	24	SX07		34	(31)	底12	透明染化		N 灰		肥前	=
1900   1900	24	SX04			34	底6				肥前		M100		第34図										
19   19   19   19   19   19   19   19	25	SX04			39	底6				肥前	高台内1重圏線 A 高台内銘有	E85	1	整地層			83	口7 底8	透明 染(		N E		肥前	
19	26	SX04		- 42	(43)	底12				肥前		E86	2	整地層		- 84	(30)	底6	透明染化		N 灰		九谷	内
1	27	SX04			74	底8	透明釉	5YF	R7/8	肥前	刷毛目 二次被熱	M96	3	整地層				□7	透明染付	釉	N		肥前	色
1	28	SX04	碗	89	67	底12	透明釉	2.5Y	/R5/3	肥前	刷毛目	M84	4	整地層	鉢	-	_	□1	透明釉	鉄釉緑釉	5YF 褐	R5/1	肥前	三見
No.   No.		第32図	PANEA	30			日ル	1000	n valvael				5	整地層	鉢	-	(40)	破片	口ル	和	5Y	6/1	珠洲	兄
No.   No.				93	63	底12				方.信		MOG	$\vdash$		土鍋	180		□12	鉄利	ish		Y8/1	京・信	
			碗		72							-	$\vdash$		_	108			3/(1	ы .	2.5			底
					79							$\vdash$	L′	DEAL	土器	内58	_	压10			灰	<u>é</u>	在地	(1
1				56				淡	黄		底部スス付着 二次被熱													
No.   No.			陶器		-			灰	白			$\vdash$	第	7表	貝製	品観	察	長						
1	5	SX04	陶器		-	底4		赤	橙	不明	3足	M102	w D	/sp.140 E	24 14						- m	~ ==	$\Box$	_
	6	SX04	陶器	摘33	受40	受12	透明釉	にぶ	い赤	不明		M87	番号	遺構・月	曾位 種	5川 前	<b>於大長</b>	最大帕	品 最力	[ ]	重量 g	色調		_
	7	SX04	陶器	_	-	□1		1	橙	須佐		M98		第34図										
	8	SX04		182 —		□2				不明	鉄釉流し掛け	M82	8	SD0	4 杓 <del>-</del>	子か	105		78	13				±蠣
19   19   19   19   19   19   19   19	9	SX04		290 —	(120)	□1				不明	藁灰釉流し掛け	M83												
18   18   18   19   2   2   2   2   2   2   2   2   2	10	SX04			15 —	底12				不明	ロクロ 灯芯油痕全周	E90	**	o <del>=</del>	<b>∧</b> ₽	<b>4</b> 11 🗆	<b>年日</b> 12	<b>⇔</b> ±						
Real   1   1   1   1   1   1   1   1   1	11	SX04	土師器皿	116 内72	25	完形		7.5Y	/R7/6	在地		E77	- 第	8 表	金馬	製品	11批判	<b>茶</b> 表						_
13   13   13   13   13   13   13   13	12	SX04	土師器皿	116	22	□11		10Y	R8/3	在地	外面底部酸化物付着	E78	番号	遺構	種別	材	質	法量 a	法量 b	法量 c	法量 d	法量 e	重量(g)	
1	13	SX04	土師器皿	120	24			10Y	R8/4	在地		E89		第34図										İ
1   1   1   1   1   1   1   1   1   1	14	SX04	土師器皿	88	14			2.5	Y7/3	在地		E76	9	SK88	寛永通寶	- Si		23.0	24.0	6.0	6.0	9.0	2.60	新
1   1   1   1   1   1   1   1   1   1		SX04	土師器皿	88	17			10Y	R7/4		灯芯油痕5ヵ所以上	F79	$\vdash$	SK88		+	$\rightarrow$	24.0	24.0	6.0			1.95	+
1   1   1   1   1   1   1   1   1   1					15								-				-	-	24.0	8.0	8.0		1.70	+
1   1   1   1   1   1   1   1   1   1					37								-			+	$\rightarrow$							+
1   1   1   2   1   2   2   1   2   2			土器		_						内外面スス付着	$\vdash$	$\vdash$			+	$\rightarrow$	- 1	25.4	6.0			3.20	+
			土器	19	芯10			1	橙		灯芯油痕1ヵ所	$\vdash$	$\vdash$			-	$\rightarrow$	22.8	23.1	6.9	6.9		1.72	*
1   1   1   1   1   1   1   1   1   1	19	SX04	土器	_	受50			淡	橙	在地		M90	14	整地層	寛永通寶	銅		25.5	25.5	6.2	6.2	1.5	3.49	F.
1   1   1   1   1   1   1   1   1   1	20	SX04	土器	58	胴80			淡	(橙	在地		M88	15	整地層	寛永通寶	Şi.		25.4	25.4	6.4	6.4	1.3	2.96	古
	21	SX04	土器	120	_	底12		にぶ	い橙	在地	外面花形刻印8残 3足	M85	16	整地層	寛永通寶	銅		25.0	25.0	6.0	6.0	1.0	7.90	21
SX06   MMS   28	22	SX04			78 —	底3				在地		M89	17	整地層	古銭	錦		22.0	22.0	8.0	8.0	0.8	1.10	半
SXUG   MSS   29   一   底部   MSG		第33図											18	SK20	煙管雁首	銅		55.0	12.0	10.0	14.0		5.80	/
SX06   MSE   25	1	SX06			18		透明釉			肥前		N60	19	SK21	煙管吸口			56.5	40.0	120.0			9.06	羅外
3 SAUS 協議         36 - 底4 染付 灰白         原白         肥前         No.9 ( )         2 ( )         SR40 ( )         不明 納 ( )         37.         12 ( )         連伸性 ( )         原前         No.9 ( )         22 ( )         SR40 ( )         不明 納 ( )         37.         12 ( )         連伸性 ( )         原前 ( )         No.9 ( )         上版 ( )         No.6 ( )         22 ( )         SR40 ( )         不明 納 ( )         37.         以 ( )         海付 ( )         白 ( )         肥前 ( )         高台内線所 ( )         22 ( )         SR40 ( )         不明 納 ( )         37.         117.         高明時 ( )         日本 ( )         上版 ( )         22 ( )         SR40 ( )         不明 ( )         117.         38.         58.         58.         59.         日本 ( )         38.         118.         38.         118.         38.         118.         38.         118.         38.         118.         38.         118.         38.         118.         38.         118.         38.         118.         38.         118.         38.         118.         38.         118.         38.         118.         38.         118.         38.         118.         38.         118.         38.         118.         38.         38.         151.         38.         38.         38.	2	SX06			34					肥前		N62	20	SD04	煙管雁首	銅		(46.0)	16.0	9.0	15.0		3.30	) 額
4         SX06         競機 88	3	SX06			50					肥前		N64	21	SK46	不明	錦		57.0	62.0	65.0			25.86	直
5   SX06   成職   88   88   58   E4   E41   透明物   24   SK29   不明   銅   117.   6   SX06   成職   32   51   日本   136   156   E41   136   147   148	4	SX06	碗	88	57	□8	透明釉	N	19/	肥前		N69	22	SK29	匙か	SF.		(131)	29.0	1.0			4.96	T
6   SX06   検離器   132   55   51   E6   透明釉   N9/	5	SX06	碗	88	58	□4	透明釉	N	19/	肥前	高台内銘「大明年製」	N68	23	SX04	不明	銅		117.0	1.0	1.0			1.50	,
Ref	6	SX06	碗	132	51	□3	透明釉	N	19/	九谷		N67	24	SK29	不明	89	ŧ	118.0	17.0	5.0			20.00	,
Ref							米円						25	SK29	刃物	89	ŧ	151.0	17.0	12.0			26.30	+
8   SX06   合子   56   40   底4   透明軸   10   10   10   10   10   10   10   1	7	SX06			39		透明釉			肥前	蛇目凹型高台	N63	26	SK30	≨T	89	ŧ	63.0	13.0	8.0			7.37	+
日   日   日   日   日   日   日   日   日   日	0	evne	合子	56	40	底	海田和	N	19/	RED (1)	소고효	NG1	-			-	$\rightarrow$		8.5	7.5			4.35	+
10   SX06   開露   28   開房の   配9   鉄絵   灰白   水16   水16   水17   水16   水17   水17   ススター   ススタ				36	_							$\vdash$				-	$\rightarrow$					-		+
10   SAUS   内容   SAUS   内容   SAUS   内容   SAUS   NOS   SAUS   S			陶器		胴60		鉄絵	灰	白				-			-	$\rightarrow$	51.0	20.0	15.0			19.49	╁
1   1   1   1   1   1   1   1   1   1			陶器	50	_	底12	鉄絵	灰	白			$\vdash$	-			-	$\rightarrow$	72.0	16.0	9.5			17.07	╁
13   SX06   上部器皿   116   23   正10   10   10   10   10   10   10   1			陶器	96	-	底12		赤	褐			$\vdash$	-			-	$\rightarrow$	100.0	15.5	7.5		$\vdash$	11.95	+
14   SX06	12	SX06	陶器	_	_		鉄釉	灰	黄	肥前か	由机器性器压产	N70	31	SK41	釘	舒	ŧ	71.0	14.5	9.5			9.86	1
14   SX06	13	SX06	土器	内52	-	底10		浅	黄橙	在地		N52	32	SD03	釘	銵	ŧ	64.0	14.5	8.0			8.25	1
15   SX06   土藤器   内50   一 底7	14	SX06	土器	内55	_	底5		浅	黄橙	在地		N54	33	SD03	釘	\$9	ŧ	69.0	13.0	7.0			11.87	1
10   SX06   土路   内52   一 底11   漢夷僧 住地 灯芯油飯金周   N51   35   SX06   到 飲 97.   17   SX06   土路器四   120   20   口2   在3   2.5 Y7/6   在地 内外面指摘圧痕   N55   36   SX06   釘 飲 102.   18   SX06   土部器四   76   19   口11   7.5 Y8 R8/4   在地 内外面指摘圧痕   N58   A7/8	15	SX06	土器	内50	-	底7		浅	黄橙	在地	灯芯油痕全周	N53	34	SD04	舟釘	舒	ŧ	140.0	21.0	14.0			63.00	
18   SX06   土締器   内52   一 底3   権	16	SX06	土器		23					在地		N51	35	SX06	釘	舒	ŧ	87.0	15.0	9.0			10.85	1
18   SAU0   上級   内42   一 底12   演奏権   住地   内外面スイ付業   NS5   3   整地層   到   数 (67.1 mm)   19   SX06   土崎器皿   84   土器   内32   一 底5   「こぶし奏権   在地   内外面スイ付業   NS7   内外面スイ付業   NS7   内外面スイ付業   NS7   大阪   土崎器皿   80   八切7   一 底3   「10YR7/3   在地   内外面スイ付業   NS6   大阪   大阪   大阪   大阪   大阪   大阪   大阪   大	17	SX06			20					在地	内外面指頭圧痕	N55	36	SX06	釖	舒	ŧ	102.0	18.5	10.0			2.21	
19     SX06     土締器皿 84 内32 ー 底5     10YR7/3 にぶい黄檀 ためり高スイ付着 内外面指摘圧痕 内外面が固えて付着 内外面が固えて付着 内外面が固えて付着 内部 10YR7/3 にぶい黄檀 ためり高スイ付着 内部 10YR7/3 にぶい黄檀 大り面えて付着 内部 10YR7/3 にぶい黄檀 左地 内外面指摘圧痕 内部 10YR7/3 にぶい黄檀 左地 内外面指摘圧痕 内部 10YR7/3 にぶい黄檀 左地 底部回転糸切痕 内外面指摘圧痕 N59 上海 10XR7 により 大り下のでは 10XR7 により 大り下のでは 10XR7 により 大り下のでは 10XR7 により 1	18	SX06	土師器皿	76	19	□11				在地		N58	37	整地層	釘	93	ŧ	(67.5)	24.0	26.0			45.07	
20     SX06     土錦閣 内37     17	19	SX06	土師器皿	84	18	□7		10Y	R7/3	在地	内外面指頭圧痕	N57	38	整地層	釘	39	ŧ	95.0	22.5	31.5			97.60	
SXO6	20	SX06	土師器皿	80	17	□3		10Y	R7/3	在地	内外面指頭圧痕	N56	39	整地層	釘か	99	ŧ	103.0	29.0	28.0			140.00	$\dagger$
工務     内30     一     E12     浅度性     内外面相關社模       22     SX06     土籍     46     40     ほぼ     5YR76     在地     赤色粒並     N50			土師器皿	84	22	□6		7.5Y	/R8/4		底部回転糸切痕	N59				1				l	1			_
工製品 12 一 完形 恒			土錘	46	40	ほぼ		5YF	R7/6															
			小坏	56	32	□2	添加納	N	18/															
23 SAU/ 磁器 26 - 底4 <sup>返明相</sup> 灰白 <sup>此則</sup> 室刊好り層 18U	ادع	JAU/	磁器		_	底4	ルミ門作出			がい利引	本はおけ無	100												

91			器種	法	量	遺存	釉薬	胎土	色調			実測
티	番号	遺構	種別	a b	c d	/12	絵付	外面	内面	産地	備考	番号
9	24	SX07	碗 磁器	- 34	(31) —	底12	透明釉 染付	Ni 灰		肥前	二次被熱	T79
0		第34図										
5	1	整地層	蓋物 磁器	108 78	83 —	口7 底8	透明釉 染付	N:		肥前		N41
ŝ	2	整地層	皿 磁器	- 84	(30)	底6	透明釉 染付	Ni 灰		九谷	内面墨弾き技法	N40
6	3	整地層	蓋 磁器	44 8	17 28	□7	透明釉 染付 色絵	N:		肥前	色絵(朱)	N42
4	4	整地層	鉢 陶器	376 —	(78) —	□1	透明釉 鉄釉 白泥 緑釉	5YF 褐		肥前	二彩 刷毛目 見込胎土目1・砂目2残	N43
	5	整地層	鉢 陶器	_	(40) —	破片		5YI		珠洲		N44
6	6	攪乱	土鍋 陶器	180 —	(84) 198	□12	鉄釉	2.5\ 灰		京•信	口縁部スス付着 底部スス付着	E92
5	7	攪乱	土師器皿 土器	108 内58	25 —	底10		2.5\ 灰		在地	底部中央穿孔1ヵ所 (径6mm)	E91
4												

## 第7表 貝製品観察表

番号	遺構・層位	種別	最大長	最大幅	最大厚	重量g	色調	備考	実測番号
	第34図								
8	SD04	杓子か	105	78	13			牡蠣貝 孔径表 4 mm、裏 6 mm	E133

# 88表 金属製品観察表

_												
9		第34図										
6	9	SK88	寛永通寶	銅	23.0	24.0	6.0	6.0	9.0	2.60	新寛永	E103
9	10	SK88	寛永通寶	銅	24.0	24.0	6.0	6.0	1.2	1.95	古寛永	E102
8	11	整地層	古銭	銅	(20.0)	24.0	8.0	8.0	1.0	1.70	「□宋通寶」	M119
7	12	整地層	寛永通寶	銅	25.3	25.4	6.0	6.0	1.3	3.20	新寛永	T102
1	13	整地層	寛永通寶	銅	22.8	23.1	6.9	6.9	1.1	1.72	新寛永	T104
0	14	整地層	寛永通寶	銅	25.5	25.5	6.2	6.2	1.5	3.49	新寛永 背上に 「文」	T105
8	15	整地層	寛永通寶	銅	25.4	25.4	6.4	6.4	1.3	2.96	古寛永	T103
5	16	整地層	寛永通寶	銅	25.0	25.0	6.0	6.0	1.0	7.90	2枚溶着 古寛永	M118
9	17	整地層	古銭	銅	22.0	22.0	8.0	8.0	0.8	1.10	判読不明	M120
	18	SK20	煙管雁首	銅	55.0	12.0	10.0	14.0		5.80		M116
0	19	SK21	煙管吸口	真鍮 (銀メッキ)	56.5	40.0	120.0			9.06	羅宇残存 外面に鶴の文様	T101
2	20	SD04	煙管雁首	銅	(46.0)	16.0	9.0	15.0		3.30	羅宇残存	M117
4	21	SK46	不明	銅	57.0	62.0	65.0			25.86	直径54mm	E100
9	22	SK29	匙か	銅	(131)	29.0	1.0			4.96		E101
8	23	SX04	不明	銅	117.0	1.0	1.0			1.50		M115
7	24	SK29	不明	鉄	118.0	17.0	5.0			20.00		M113
3	25	SK29	刃物	鉄	151.0	17.0	12.0			26.30		M112
J	26	SK30	釘	鉄	63.0	13.0	8.0			7.37		T90
1	27	SK30	釘	鉄	(50.0)	8.5	7.5			4.35		T89
5	28	SK30	釘	鉄	51.0	20.0	15.0			19.49		T91
6	29	SK32	釘	鉄	72.0	16.0	9.5			17.07		T97
1	30	SK32	釘	鉄	100.0	15.5	7.5			11.95		T98
0	31	SK41	釘	鉄	71.0	14.5	9.5			9.86		T96
2	32	SD03	釘	鉄	64.0	14.5	8.0			8.25		T93
4	33	SD03	釘	鉄	69.0	13.0	7.0			11.87		T92
3	34	SD04	舟釘	鉄	140.0	21.0	14.0			63.00		M114
1	35	SX06	釘	鉄	87.0	15.0	9.0			10.85		T95
5	36	SX06	釘	鉄	102.0	18.5	10.0			2.21		T94
8	37	整地層	釘	鉄	(67.5)	24.0	26.0			45.07		T99
7	38	整地層	釘	鉄	95.0	22.5	31.5			97.60		T100
6	39	整地層	釘か	鉄	103.0	29.0	28.0			140.00		M111
9												

## 第9表 瓦観察表

## 第10表 土人形観察表

番号	遺構・層位	種別	胎土色	釉色		法量c			備考	実測	番号	遺構	器種	a a	量 c	遺存	釉薬・絵付		上色調	産地	備考	実測
	第35図	表面処理		表面色	法重 D	法量 d		(g)		番号		第39図	種別	b	d	/12		外面	内面			番号
1	SK06	丸瓦	N4/	5YR4/1	(149)	(15)	_	500	光沢無	T113	1	SK29	土人形	(34)	25			7.5	YR7/6	在地	天神様 型合中実	E33
2	SK27	赤瓦·片面施釉 平瓦	灰 N8/	褐灰	(97)	(70)	_	33.6	刻印有「□上」	M128	2	SK46	土製品	63	19			10	橙 /R7/4	在地	非化3カ州 裃を着た男性	E45
		類 丸瓦	灰白 N6/		(265)	24	_						土製品 土人形	34 67	38	ほぼ			い黄橙 YR7/6		中実 型合 男性座像 中実型合	+
3	SK31	燻 丸瓦	灰 N8		164 305	82	_	1100	刺縫痕 玉縁部分41mm	T112	3	整地層	土製品	48 68	21	完形ほぽ			橙 YR7/4	在地	底部穴1 左腕付近1	N48
4	SK31	燻	灰白 5Y8/1		173	76	_	1400	刺縫痕 コビキB	M126	4	整地層	主製品	44	_	完形		に	ぶい橙	在地	中実型合 底部穴1	N49
5	SK31	丸瓦 燻	灰白		_	_	=	140	刻印有梅鉢か	E110	5	SK29	土製品	55 55	12			にぶ	/R7/3 い黄橙	在地	心に宝腐の棒状残仔	E21
6	SK31	平瓦燻	N7/ 灰白		(132) (102)	16	=	265	刻印有 四つ割り菱か	E109	6	SK58	土人形土製品	径46 孔径2	高12	□6			YR7/6 橙	在地	独楽 穿孔1 表面キラコ雲母	Q44
7	SK31	平瓦 燻	N4/ 灰		(307) (146)	22	=	1500	刻印有 「○十」	T110	7	SK47	土人形 土製品	42 3	9	完形			/R7/2 い黄橙	在地	独楽 穿孔1	E48
8	SK31	平瓦燻	N8/ 灰白		295 258	22 —	=	2840		M126	8	SX01	土人形 土製品						YR8/3 黄橙	在地		
	第36図																				底部穿孔1	_
1	SK31	平瓦 燻	7.5Y8/1 灰白		306 (285)	20	_	2660		E108	9	SX04	土人形 土製品	68 18	21			E	/R8/2 灭白	在地	魚 型合わせ 背びれ部分穿孔1	Q82
2	SK32	平瓦 燻	N8 灰白		(146) (114)	(22)	_	530		E113	10	SK77	人形 陶器	18 10	22	完形	透明釉 鉄釉 染付		/R8/2 灭白		水鳥 中実	T44
3	SK32	腰瓦燻	5Y6/1 灰		290 (155)	23	=	1360	漆喰痕有	N75	11	SX01	土人形 土製品	(114) 101	54 —				YR7/4 ぶい橙	在地	舟 穿孔2	Q79
4	SK41	丸瓦 燻	N8/ 灰白		(99) (115)	23 (35)	=	240	玉縁部分42mm 穿孔1 刺縫痕	M130	12	SK47	土人形 土製品	53 22	19	完形			5Y8/2 灭白	在地	舟 中実	E49
5	SK41	平瓦 赤瓦·片面施釉	10YR8/3 浅黄橙	5YR6/4 にぶい橙	(235) (250)	18	=	135	光沢無	T114	13	SX03	土人形 土製品	69 70	33			10	/R8/3 黄橙	在地	台座 型押し	T62
6	SK41	腰瓦	5Y6/1	10-3-V-IE	(74)	(21)	_	124	漆喰痕有 刻印有「○堺」	N74	14	整地層	土人形	38	19	ほぽ		7.5	YR7/6	在地	蓋	N47
7	SK41	腰瓦	灰 N4/		(116)	23	_	275	刻印有「〇十」	N73	15	SX04	土製品	27	(32)	完形 底12	鉄泥	5Y	橙 'R8/4	在地	底部糸切	M10
8	SK41	腰瓦	灰 N5/		(70)	24	_	270	漆喰痕有	N72	16	SK21	土製品	40 30	34	底12	2000	2.	炎橙 5Y8/2	在地		M22
	第37図	燻	灰		(112)	_	_	270	刻印有「○堺」	14/2	10	SKZI	土製品	44	胴76	#L12			灭白	1116	並形即水切	IVIZA
		平瓦	N8/		(65)	26	I –		turn-t-F.O I													
1	SK59	煉腰瓦	灰白 5Y7/1		(90)	23	_	136	刻印有「○△」	M127	第1	1表	石事	l 品 種	見察え	長						
	SK60	燻	灰白		(45)	-	_	93.2	刻印有「〇堺」	E111				r mu		- L-		重量	色調		備考	実測
2							l	l .	从不能化物什么		- 無早											
3	SK61	丸瓦 燻	N8/ 灰白		252 (92)	21 (70)	<u>-</u>	612	外面酸化物付着 玉縁部分36mm 刺縫痕 コビキB 棒状圧痕	E112	番号	第40図	曾位   村	重別	最大長	最大幅	最大厚	(g)	巴神		DHS '5'	番号
	SK61 SK62	類 平瓦	灰白 N5/		(92)		=	612 470	玉縁部分36mm 刺縫痕 コビキB	E112				重別 低石	(72)	政大临		(g) 70.0	5Y7/1		粘板岩 砥面5面	番号 T108
3		類 平瓦 類 平瓦	灰白 N5/ 灰 N8/		(92) (139) (103) (143)	(70)	_		玉縁部分36mm 刺縫痕 コビキB	T111	1	第40図	D 4	既石	(72)	5	1 10	70.0	5Y7/1 灰白 5G7/1	$\rightarrow$	粘板岩 砥面5面	T108
3 4 5	SK62 SD04	煙 平瓦 煙 平瓦 煙 軒桟瓦	灰白 N5/ 灰 N8/ 灰白 10R4/3	7.5R3/2	(92) (139) (103) (143) (154) (304)	(70) 23 —	_ _ _ _	470 600	玉縁部分36mm 刺縫痕 コビキB 棒状圧痕 穿孔2箇所	T111 T116	1 2	第40図 SK10 SK29 SK29	D #	低石 下明	(72)	(126	i1 10 i) (75)	70.0	5Y7/1 灰白 5G7/1 明緑 5G7/1	i	粘板岩 砥面5面	T108
3 4 5 6	SK62 SD04 SK88	煙 平瓦 煙 平瓦 燻	灰白 N5/ 灰 N8/ 灰白	7.5R3/2 暗赤褐	(92) (139) (103) (143) (154)	23 - 20 -	_	470 600 2750	玉縁部分36mm 刺縫痕 コビキB 棒状圧痕	T111 T116 M131	1 2 3	第40図 SK10 SK29 SK29 石組み	9 2	低石 不明 不明	(72) (172) (237)	(126	(1 10 (75) (75) 53	70. 0 145. 0 292. 0	5Y7/1 灰白 5G7/1 明緑	:	粘板岩 砥面5面	T108 E107 T109
3 4 5 6	SK62 SD04 SK88 SK91	燻 平瓦 煙 平瓦 燻 軒桟瓦 赤瓦・全面施釉	灰白 N5/ 灰 N8/ 灰白 10R4/3 赤褐 N7/ 灰白		(92) (139) (103) (143) (154) (304) (302) (126) (160)	23	_ _ _ _	470 600	玉線部分36mm 刺線痕 コビキB 棒状圧痕 穿孔2箇所 光沢有	T111 T116 M131 E114	1 2 3 4	第40図 SK10 SK29 SK29 石組み SK30	00 章 9 2 中 2 中 3	不明不明显石	(72) (172) (237) (74)	5 (12 <del>0</del> (224 5	(75) (75) (5) 13	70.0 145.0 292.0 95.0	5Y7/1 灰白 5G7/1 明緑 5G7/1 明緑 N4/ 灰	1	粘板岩 砥面5面 緑緑凝灰岩 石瓦か 緑緑凝灰岩 石瓦か 頁岩か 穿孔1:孔径8mm	T108 E107 T109 M121
3 4 5 6 7	SK62 SD04 SK88 SK91 SK94	煙 平原 煙 甲煙 排機瓦 赤瓦·全面施釉 丸瓦 埋 炬 炬 東	灰白 N5/ 灰 N8/ 灰白 10R4/3 赤褐 N7/ 灰白 N4/ 灰		(92) (139) (103) (143) (154) (304) (302) (126) (160) (81) (70)	(70)  23 - 20 - 21 - 23 77 (22) -	- - - - 11	470 600 2750 1170	玉縁部分36mm 刺縫痕 コビキB 棒状圧痕 穿孔2箇所	T111 T116 M131 E114 T115	1 2 3 4 5	第40図 SK10 SK29 SK29 石組み SK30 SK31	D	低石 下明 目 石	(72) (172) (237) (74)	5 (126 (224 5	(1) 10 (75) (53) 53 13 19 24	70.0 145.0 292.0 95.0	5Y7/1 灰白 5G7/1 明線 5G7/1 明線 N4/ 灰 2.5Y7/	1	粘板岩 砥面5面 緑緑凝灰岩 石瓦か 段縁凝灰岩 石瓦か 頁岩か 穿孔1:孔径8mm 中粒砂岩 砥面5面	T108 E107 T109 M121 E104
3 4 5 6 7 8	SK62 SD04 SK88 SK91	煙 平瓦 煙 瓦 煙 瓦 克 克 全 瓦 克 全 瓦 克 全 瓦 克 全 瓦 克 煙 瓦 魚 煙 瓦 魚 煙 瓦 魚 煙 五 魚 魚 魚 魚 魚 魚 魚 魚 魚 魚 魚 魚 魚 魚 魚 魚 魚	灰白  N5/ 灰 N8/ 灰白  10R4/3 赤褐  N7/ 灰白  N4/ 灰 N5/ 灰		(92) (139) (103) (143) (154) (304) (302) (126) (160) (81) (70) (252) (96)	(70)  23 - 20 - 21 - 23 77 (22) - 20 (53)	- - - - 111 - - -	470 600 2750	五縁部分36mm 刺組額 コビキ B 棒状圧痕 学れ2箇所 光沢有 刻印有「○堺」	T111 T116 M131 E114 T115 M133	1 2 3 4 5 6	第40図 SK10 SK29 SK29 石組み SK30 SK31	00 6 9 7 9 7 9 7 9 7 9 7 9 7 9 7 9 7 9 7 9	不明不明显石	(72) (172) (237) (74) 65	5 (126 (224 5 3 3 4	11 10 (75) (75) 53 13 15 13 24 2 26	70.0 145.0 292.0 95.0 79.7 1,110.0	5Y7/1 灰白 5G7/1 明縁 5G7/1 明線 N4/ 灰 2.5Y7/ 灰白 2,5Y7/	1	給板岩 祇面5面 緑緑凝灰岩 石瓦か 緑緑凝灰岩 石瓦か 寶字孔1:孔径8mm 中粒砂岩 砥面5面 中粒砂岩 砥面4面	T108 E107 T109 M121 E104
3 4 5 6 7	SK62 SD04 SK88 SK91 SK94	煙 平瓦 煙 平瓦 中域 平瓦 使	灰白  N5/ 灰 N8/ 灰白  10R4/3 赤褐  N7/ 灰白  N4/ 灰 N5/ 灰 N8/ 灰白	暗赤褐	(92) (139) (103) (143) (154) (304) (302) (126) (160) (81) (70) (252) (96)	(70)  23 - 20 - 21 - 23 77 (22) - 20 (53)	- - - - 11 - -	470 600 2750 1170	玉線部分36mm 刺線痕 コビキB 棒状圧痕 穿孔2箇所 光沢有	T111 T116 M131 E114 T115	1 2 3 4 5	第40図 SK10 SK29 SK29 石組み SK30 SK31	DD	低石 下明 目 石	(72) (172) (237) (74)	5 (126 (224 5	11 10 (75) (75) 53 13 15 13 24 2 26	70.0 145.0 292.0 95.0	5Y7/1 灰白 5G7/1 明線 5G7/1 明線 N4/ 灰 2.5Y7/ 灰白 10Y4// 灰	i i i i i i i i i i i i i i i i i i i	粘板岩 砥面5面 緑緑凝灰岩 石瓦か 段縁凝灰岩 石瓦か 頁岩か 穿孔1:孔径8mm 中粒砂岩 砥面5面	T108 E107 T109 M121 E104
3 4 5 6 7 8	SK62 SD04 SK88 SK91 SK94 SX03	煙 平瓦 煙 平瓦 煙 下 克 中境 下 全 页 电线 页	灰白  N5/ 灰 N8/ 灰白  10R4/3 赤褐  N7/ 灰白  N4/ 灰 N5/ 灰 N8/		(92) (139) (103) (143) (154) (304) (302) (126) (160) (81) (70) (252) (96)	(70)  23 - 20 - 21 - 23 77 (22) - 20 (53)	- - - 111 - - - -	470 600 2750 1170	五縁部分36mm 刺組額 コビキ B 棒状圧痕 学れ2箇所 光沢有 刻印有「○堺」	T111 T116 M131 E114 T115 M133	1 2 3 4 5 6	第40図 SK10 SK29 SK29 石組み SK30 SK31	DD	低石 下明 下明 品石 低石	(72) (172) (237) (74) 65	5 (126 (224 5 3 3 4	11 10 (75) (75) 53 13 19 24 2 26 2 23	70.0 145.0 292.0 95.0 79.7 1,110.0	5Y7/1 灰白 5G7/1 明線 5G7/1 明線 N4/ 灰 2.5Y7/ 灰白 10Y4/1 灰 2.5Y8黄	11 11 11 13 3	給板岩 祇面5面 緑緑凝灰岩 石瓦か 緑緑凝灰岩 石瓦か 寶字孔1:孔径8mm 中粒砂岩 砥面5面 中粒砂岩 砥面4面	T108 E107 T109 M121 E104
3 4 5 6 7 8 9 10	SK62 SD04 SK88 SK91 SK94 SX03	煙 平瓦 煙 東東 東東 全瓦 煙 東瓦 全瓦 煙 東原 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東	灰白  N5/ 灰 N8/ 灰白 10R4/ 天 N7/ 灰白 N4/ 灰 N5/ 灰 N5/ 灰 N5/ 灰 17.5Y8/3	暗赤褐 7.5YR5/4	(92) (139) (103) (143) (154) (304) (302) (126) (160) (81) (70) (252) (96) — — (197)	(70)  23 - 20 - 21 - 23 77 (22) - 20 (53) - 21	- - - - 11 - - - - -	470 600 2750 1170 800 200	五縁部分36mm 射離症 コビキ B 棒状圧痕 字孔2箇所 光沢有 刻印有「○堺」	T111 T116 M131 E114 T115 M133 T117	1 2 3 4 5 6 7	第40図 SK10 SK29 SK29 石組み SK30 SK31	DD	低石 不明 不明 温石 低石 低石	(72) (172) (237) (74) 65 76	5 (126 (224 5 3 4	11 10 (75) (75) 53 13 15 13 24 2 2 26 2 23 15 11	70.0 145.0 292.0 95.0 79.7 1,110.0	5Y7/1 灰白 5G7/1 明線 5G7/1 明線 N4/ 灰 2.5Y7/ 灰白 2.5Y7/ 灰白 2.5Y7/ 灰 2.5Y7/	11 11 13 2	粘板岩 祗面S面 緑緑類灰岩 石瓦か 貝岩か 野孔1:孔径8mm 中粒砂岩 砥面S面 中粒砂岩 砥面4面 泥岩か 砥面4面	T108 E107 T109 M121 E104 E105 E106
3 4 5 6 7 8 9 10	SK62 SD04 SK88 SK91 SK94 SX03 SX05 SX07	煙 平瓦煙 平原 煙 排及瓦施柏 之瓦煙 平原 地域 克全瓦原 煙 東瓦 煙 東瓦 煙 煙 東面 地域 東京 煙 煙 地域 東京 煙 煙 地域 東京 大 全 度 度 度 度 度 度 度 度 度 度 度 度 度 度 度 度 度 度	灰白  N5/ 灰 N8/ 灰白 10R4/ 天 N7/ 灰白 N4/ 灰 N5/ 灰 N5/ 灰 N5/ 灰 17.5Y8/3	暗赤褐 7.5YR5/4	(92) (139) (103) (143) (154) (304) (302) (126) (160) (81) (70) (252) (96) — — (197)	(70)  23 - 20 - 21 - 23 77 (22) - 20 (53) - 21	- - - - 11 - - - - -	470 600 2750 1170 800 200	五縁部分36mm 射離症 コビキ B 棒状圧痕 字孔2箇所 光沢有 刻印有「○堺」	T111 T116 M131 E114 T115 M133 T117	1 2 3 4 5 6 7 8 8	第40図 SK10 SK29 SK29 石組み SK31 SK31 SK31	29 29 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20	低石 下明 石	(72) (172) (237) (74) 65 76 121 (76)	5 (126 (224 5 3 4 4 4	11 10 (75) (75) 53 13 15 13 24 2 2 26 2 23 15 11	70.0 145.0 292.0 95.0 79.7 1,110.0 180.0	5Y7/1 灰白 5G7/1 明縁 N4/ 灰 2.5Y7/ 灰白 10Y4/1 灰 2.5Y8/ 次 2.5Y8/ 3/ 3/ 3/ 3/ 3/ 3/ 3/ 3/ 3/ 3/ 3/ 3/ 3/	1 1 1 3 2 2	粘板岩 砥面5面 緑緑凝灰岩 石瓦か 貝岩か 穿孔1:孔径8mm 中粒砂岩 砥面5面 中粒砂岩 砥面4面 泥岩か 砥面4面	T108 E107 T109 M121 E104 E105 E106 T106
3 4 5 6 7 8 9 10	SK62 SD04 SK88 SK91 SK94 SX03 SX05 SX07	煙 平瓦煙 平瓦煙 等性色面底 赤瓦。全瓦 地面 東面 東面 東面 東面 東面 東面 東面 東面 東面 東面 東面 東面 東面	灰白  N5/ 灰 N8/ 灰 N8/ 灰 10R4/3 赤褐 N7/ 灰 ロ N4/ 灰 N5/ 灰 N5/ 灰 N8/ ス N8/ N8/	暗赤褐 7.5YR5/4	(139) (103) (143) (154) (304) (302) (126) (160) (252) (96) (197) (103) (183) 241 (109)	23 20 21 22 20 (53) 21	- - - - 11 - - - - -	470 600 2750 1170 800 200 900	五縁部分36mm 別組度 コビキ B 棒状圧痕 字孔2箇所 光沢有 刻印有「□上」 光沢無	T111 T116 M131 E114 T115 M133 T117 E115	1 2 3 4 5 6 7 8 9	第40図 SK10 SK29 SK29 石組み SK31 SK31 SK31 SK32	20 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	低石 下明 不	(72) (172) (237) (74) 65 76 121 (76)	5 (126 (224 5 3 3 4 4 4 4 6 6	1 10 (75) (75) 53 13 15 13 19 24 2 26 2 2 23 5 11 10 25	70.0 145.0 292.0 95.0 79.7 1,110.0 180.0 60.0	5Y7/1 灰白 5G7/1 明線 5G7/1 明線 N4/灰 2.5Y7/ 灰白 10Y4/1 灰 2.5Y8黄 2.5Y7/ 7.5Y7/	11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11	粘板岩 砥面5面 緑緑凝灰岩 石瓦か 夏岩か 石瓦か 夏岩か 砥面5面 中粒砂岩 砥面5面 中粒砂岩 砥面6面 泥岩か 砥面4面 配岩か 砥面5面	T108 E107 T109 M121 E104 E105 E106 T106 T107 M124
3 4 5 6 7 8 9 10 11	SK62 SD04 SK88 SK91 SK94 SX03 SX05 SX07 第38図 SE03	煙 平瓦煙 中原 東原 東原 東原 東原 東原 東原 東原 東原 東原 東原 東原 東原 東原	灰白  N5/ 灰 N8/ 灰 N8/ N94/3 赤褐 N7/ 灰白 N5/ N5/ N5/ N5/ N8/ N5/ N8/ N7/ N5/ N8/ N7/ N7/ N7/ N7/ SY7/1	暗赤褐 7.5YR5/4 にぶい褐	(92) (139) (103) (143) (154) (304) (302) (126) (160) (81) (70) (252) (96) - - - (197) (103) (183) 241 (109) (92) (135)	23	- - - 111 - - - - -	470 600 2750 1170 800 200 900	五縁部分36mm 別総会 コビキ B 棒状圧痕 字孔2箇所 光沢有 刻印有「○堺」 刻印有「□上」 光沢無	T111 T116 M131 E114 T115 M133 T117 E115	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	第40図 SK10 SK29 SK29 SK30 SK31 SK31 SK32 SK32 SK32	00 \$ \$ 9 \$ 7 \$ 9 \$ 7 \$ \$ \$ \$ \$ \$ \$ \$ \$ \$ \$	版石	(72) (172) (237) (74) 65 76 121 (76) 112 25	5 (126 (224 5 3 3 4 4 4 4 6 6	11 10 (75) (75) (75) (75) (75) (75) (75) (75)	70.0 145.0 292.0 95.0 79.7 1,110.0 180.0 60.0 200.0	5Y7/1 灰白 5G7/1 明線 N4/ 灰 2.5Y7/ 灰白 10Y4/1 灰 2.5Y8/ 淡黄 2.5Y7/ 灰百 2.5Y7/ 灰齿 2.5Y7/ 天 5Y3/ 天 5Y3/ 天 5 2.5Y7/ 天 5 2.5Y7/ 天 5 2.5Y7/ 5 2 2.5Y7/ 5 2.5Y7/ 5 2.5Y7/ 5 2.5Y7/ 5 2.5Y7/ 5 2.5Y7/ 5 2.5Y7/ 5 2.5Y7/ 5 2.5Y7/ 5 2.5Y7/ 5 2.5Y7/ 5 2.5Y7/ 5 2.5Y7/ 5 2.5Y7/ 5 2 2.5Y7/ 5 2.5Y7/ 5 2.5Y7/ 5 2.5Y7/ 5 2.5Y7/ 5 2.5Y7/ 5 2.5Y7/ 5 2.5Y7/ 5 2.5Y7/ 5 2.5Y7/ 5 2.5Y7/ 5 2.5Y7/ 5 2.5Y7/ 5 2.5Y7/ 5 2 2.5Y7/ 5 2.5Y7/ 5 2.5Y7/ 5 2.5Y7/ 5 2.5Y7/ 5 2.5Y7/ 5 2.5Y7/ 5 2.5Y7/ 5 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 2 2 2 2 1 7 1 7 1 7 7 7 7	粘板岩 祇面5面 緑緑類灰岩 石瓦か 緑緑類灰岩 石瓦か 穿料1:孔径8mm 中粒砂岩 祇面5面 中粒砂岩 祇面4面 泥岩か 祇面4面 粘板岩 祇面5面 中粒砂岩 祇面5面	T108 E107 T109 M121 E104 E105 E106 T107 M124 M123
3 4 5 6 7 8 9 10 11 1 2	SK62 SD04 SK88 SK91 SK94 SX03 SX05 SX07 第38図 SE03 SX04	煙 平度 東東 東東 東東 東東 東東 東東 東東 東東 東東 東東 東東 東東 東東	灰白  N5/ 灰 N8/ 灰 N8/ 灰 10R4/3	暗赤褐 7.5YR5/4 にぶい褐	(92) (139) (103) (143) (154) (304) (126) (160) (252) (296) (197) (103) (183) 241 (109) (92) (125) (125) (126) (135) (143) (154) (160) (170	(70) 23 - 20 - 21 - 23 77 (22) - 20 (53) - 21 - 18 - 18 (52)	- - - 111 - - - - -	470 600 2750 1170 800 200 900	五縁部分36mm 別総会 コビキ B 棒状圧痕 字孔2箇所 光沢有 刻印有「○堺」 刻印有「□上」 光沢無	T111 T116 M131 E114 T115 M133 T117 E115 M129 M132	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 111	第40図 SK10 SK29 SK29 SK30 SK31 SK31 SK31 SK32 SK47	00	悉石	(72) (172) (237) (74) 65 76 121 (76) 112 25 (133)	5 5 5 (126 (224 4 4 4 4 4 4 4 4 6 6 (61 (61 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	11 10 (75) (75) (75) (75) (75) (75) (75) (75)	70.0 145.0 292.0 95.0 79.7 1,110.0 180.0 200.0 3.5 1,630.0	5Y7/1 灰白 5G7/1 明緑 N4/ 灰 2.5Y7/ 灰白 2.5Y7/ 次白 2.5Y7/ 次方 2.5Y7/ た 2.5Y7/ た 2.5Y7/ た 2.5Y7/ た 2.5Y7/ た 2.5Y7/ た 3次費 2.5Y7/ た 5 3次費 3次費 3次 5 3次 5 3 2 4 5 5 5 7 5 7 5 7 5 7 5 7 5 7 5 7 5 7 5	11 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	粘板岩 祗面5面 緑緑凝灰岩 石瓦か 真岩か 穿孔1:孔径8mm 中粒砂岩 砥面5面 中粒砂岩 砥面4面 泥岩か 砥面5面 中粒砂岩 砥面5面 中粒砂岩 砥面5面 中粒砂岩 砥面5面	T108 E107 T109 M121 E104 E105 E106 T106 T107 M124 M123
3 4 5 6 7 8 9 10 11 1 2 3	SK62 SD04 SK88 SK91 SK94 SX03 SX05 SX07 第38図 SE03 SX04	煙 平度 準度 中度 中度 中度 中度 中度 中度 中度 中度 中度 中	灰白  N5/ 灰 N8/ 灰 N8/ 灰 N8/ 灰 N7/	暗赤褐 7.5YR5/4 にぶい褐	(92) (139) (103) (143) (154) (304) (302) (126) (160) (81) (70) (252) (96)  — (197) (103) (183) 241 (109) (92) (135) (125) (192) (192) (192) (192) (192)	23 - 20 - 21 - 20 (53) - 21 - 21 - 21 - 21 - 21 - 21 - 21 - 2		470 600 2750 1170 800 200 900 900 280 500	五縁部分36mm 別総会 コビキ B 棒状圧痕 字孔2箇所 光沢有 刻印有「○堺」 刻印有「□上」 光沢無	T111 T116 M131 E114 T115 M133 T117 E115 M129 M129 T118	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 111 12	第40図 SK11 SK25 SK25 SK3 SK3 SK3 SK3 SK3 SK3 SK3 SK3	00 ままま 2 2 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3	低石 TRING TO THE	(72) (172) (237) (74) 65 76 121 (76) 112 25 (133) (140)	5 5 5 (1266 ) (1264 )	11 10 (75) (75) 53 55 13 99 24 22 26 22 23 55 11 10 25 88 7 88 81 1) 45	70.0 145.0 292.0 95.0 79.7 1,110.0 180.0 60.0 200.0 3.5 1,630.0	5Y7/1 灰白 5G7/1 明縁 N4/ 灰 2.5Y7/ 灰白 2.5Y7/ 灰白 2.5Y7/ 下 7.5Y7/ 東白 2.5GY/ 7.5Y7/ 明オリー: 2.5GY6 オリーラ 10Y4/ オリーラ 10Y4/ オリーフ 10Y4/ オリータ 10Y4/ オリー 10Y4/ オリー 10Y4/ オリー 10Y4/ オリー 10Y4/ オリー 10Y4/ オリー 10Y4/ オリー 10Y4/ オリー 10Y4/ オリー 10Y4/ オリー 10Y4/ オリー 10Y4/ オリー 10Y4/ オリー 10Y4/ オリー 10Y4/ オ 10Y4/ 10	11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11	粘板岩 祗面5面 緑緑凝灰岩 石瓦か 緑緑凝灰岩 石瓦か 真岩か 穿孔1:孔径6mm 中粒砂岩 砥面6面 中粒砂岩 砥面6面 北岩か 砥面6面 和数分岩 砥面5面 郷石「下カ」 類灰岩	T108 E107 T109 M121 E104 E105 E106 T106 T107 M124 M123
3 4 5 6 7 8 9 10 11 1 2 3 4 5	SK62 SD04 SK88 SK91 SK94 SX03 SX05 SX07 第38図 SE03 SX04 SX04	煙 互 煙 互 煙 互 煙 互 煙 互 煙 互 煙 互 煙 互 煙 互 煙 互	灰白  N5/ 灰 N8/ 灰白  10R4/ 灰 N7/ 灰 N8/ 灰 N7/ 灰 N8/ 灰 N5/ 灰 N8/ 灰 N8/ 灰 N7/ 灰 N8/ 灰 N7/ 灰 N8/ 灰 N7/ 灰 N7/ 灰 N7/ 灰 N7/ 灰 N7/	暗赤褐 7.5YR5/4 にぶい褐	(92) (139) (103) (143) (154) (304) (302) (126) (160) (252) (96) (197) (103) (183) (193) (193) (193) (192) (175) (170) (1	(70)  23 - 20 - 21 - 23 77 (22) - 20 (53) - 18 18 (52) 22 - 20 - (18)		470 600 2750 1170 800 200 900 280 500 960 150	至	T111 T116 M131 E114 T115 M133 T117 E115 M129 M132 T118 T119 T120	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14	第40回 SK10 SK22 SK22 石組み SK31 SK31 SK31 SK32 SK47 SK47 SK47 SK47 SK47 SK47 SK47 SK47	3	底石 明明 石 石 石 石 石 石 石 石 石 石 石 石	(72) (172) (237) (74) 65 76 121 112 25 (133) (140) (114)	\$ 5 5 5 (126 6 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12	11 10 (75) (75) (75) (75) (75) (75) (75) (75)	70.0 145.0 292.0 95.0 79.7 1,110.0 180.0 200.0 3.5 1,630.0 180.0 50.3	5Y7/1 灰白 5G7/1 明緑 N4/ 灰 2.5Y7/ 灰白 2.5Y7/ 灰白 2.5Y7/ 灰白 2.5Y7/ 灰白 2.5Y7/ 天子 2.5Y7/ 天子 2.5Y7/ 大子 スティー スティ	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	粘板岩 祇面5面 緑緑凝灰岩 石瓦か 緑緑凝灰岩 石瓦か 穿料11:孔径8mm 中粒砂岩 祇面6面 中粒砂岩 祇面4面 北板岩 祇面5面 中粒砂岩 祇面5面 中粒砂岩 祇面5面	T108 E107 T109 M121 E104 E105 E106 T107 M124 M123 M122 T123
3 4 5 6 7 8 9 10 11 1 2 3 4 5 6	SK62 SD04 SK88 SK91 SK94 SX03 SX05 SX07 第38図 SE03 SX04 SX04 SX04 SX04	煙 平煙 下煙	灰白  N5/ 灰 N8/ 灰 N8/ 大 N9/	暗赤褐 7.5YR5/4 にぶい褐	(92) (139) (103) (143) (154) (304) (302) (126) (81) (70) (96) (197) (103) (183) (192) (192) (192) (192) (192) (192) (193) (193)	23 - 20 - 21 - 20 (53) - 21 - 21 - 21 - 21 - 22 - 22 - 22 - 2		470 600 2750 1170 800 200 900 280 500 960 150	至 報節分 3 6 mm 射能度 □ ビキ B 棒状圧痕    李孔 2 箇所   光沢有   刻印有「○堺」   刻印有「□上」   光沢無    有孔1   光沢無	T111 T116 M131 E114 T115 M133 T117 E115 M129 M132 T118 T119 T120 T121	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15	第40図 SK10 SK25 SK25 SK30 SK31 SK31 SK31 SK32 SK47 SK47 SK47 SK47 SK47 SK47 SK47 SK47	3	低石 下明明石 石 石 石 石 石 石 石 石 石 石 石 石 石 石 石 石 石	(72) (172) (237) (74) 655 76 121 (76) 112 25 (133) (140)	\$ 5 5 5 (126 6 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12	11 10 (75) (75) 53 13 15 13 19 24 2 26 2 23 15 111 10 25 8 8 7 88 81 1) 45 19 29	70.0 145.0 292.0 95.0 79.7 1,110.0 60.0 200.0 3.5 1,630.0 300.0 180.0	5Y7/1 灰白 5G7/1 明縁 5G7/1 明縁 5G7/1 明縁 下 2.5Y7 灰白 10Y4/1 灰の 2.5Y7 天の 2.5Y7 天の 2.5Y7 大の 2.5Y7 2.5Y7 大の 2.5Y7 大 2.5Y7 大 2.5Y7 大 2.5Y7 大 2.5Y7 大 2.5Y7 大 2.5Y7 大 2.5Y7 大 2.5Y7 大 2.5Y7 大 2.5Y7 大 2.5Y7 大 2.5Y7 大 2.5Y7 大 2.5Y7 大 2.5Y7 2.	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	粘板岩 砥面5面 緑緑凝灰岩 石瓦か 緑緑凝灰岩 石瓦か 質者か 穿孔1:孔径8mm 中粒砂岩 砥面5面 中粒砂岩 砥面4面 粘板岩 砥面5面 中粒砂岩 砥面5面 中粒砂岩 砥面5面 地数砂岩 砥面5面	T108 E107 T109 M121 E104 E105 E106 T107 M124 M123 M122 T123
3 4 5 6 7 8 9 10 11 1 2 3 4 5 6 7	SK62 SD04 SK88 SK91 SK94 SX03 SX05 SX07 第38図 SE03 SX04 SX04 SX04 SX04 SX04 SX04 SX04 SX04	煙 平度 中度 中度 中度 中度 中度 中度 中度 中度 中度 東度 東度 東度 東度 東度 東度 東度 東度 東度 東	灰白  N5/ 灰8/ 灰8/ 灰8/ 大8/ 大8/ 大8/ 大8/ 大8/ 大8/ 大8/ 大8/ 大8/ 大	暗赤褐 7.5YR5/4 にぶい褐 5YR5/4 にぶい赤褐	(139) (103) (143) (154) (304) (302) (126) (160) (81) (70) (103) (113) (103) (113) (103) (113) (1	(70)  23 - 20 - 21 - 23 77 (22) - (53) - 21 - 20 (53) - 21 - (18) (52) 20 - (18) (52)		900 900 150 170 240	五縁部分36mm 制制額 コビキ B 棒状圧復	T111 T116 M131 E114 T115 M133 T117 E115 M129 M132 T118 T119 T120 T121 Q84	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15	第40図 SK10 SK25 SK25 SK35 SK31 SK31 SK31 SK32 SK47 SK47 SK47 SK47 SK47 SK47 SK47 SK47	3	悉不明明 石石石石石石石石石石石石石石石石石石石石石石石石石石石石石石石石石石石	(72) (172) (237) (74) 655 76 121 (76) 112 25 (133) (140) (114) (22	5 5 (1266 (2244 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	11 10 (75) (75) 53 13 19 24 2 26 2 23 15 11 10 25 8 7 18 8 81 1) 45 19 29 18 8 45 5	70.0 145.0 292.0 95.0 79.7 1,110.0 60.0 200.0 3.5 1,630.0 300.0 180.0 50.3	5Y7/1 灰白 5G7/1 明緑 N4/ 灰 2.5Y7/ 灰白 2.5Y7/ 灰白 2.5Y7/ 灰白 2.5Y7/ 灰白 2.5Y7/ 灰白 2.5Y7/ の方 2.5Y7/ の方 3.5Y7/ の方 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5		粘板岩 祗面5面 緑緑凝灰岩 石瓦か 原料が 原料が 原料1:孔径mm 中粒砂岩 砥面4面 中粒砂岩 砥面5面 中粒砂岩 砥面5面 中粒砂岩 砥面5面 地板岩 砥面5面 地板岩 砥面5面 地板岩 砥面5面 地板岩 砥面5面 地板岩 砥面5面	T108 E107 T109 M121 E104 E105 E106 T107 M124 M123 M122 T122 T123 T126
3 4 5 6 7 8 9 10 11 1 2 3 4 5 6	SK62 SD04 SK88 SK91 SK94 SX03 SX05 SX07 第38図 SE03 SX04 SX04 SX04 SX04	煙 平煙 下煙	灰白  N5/ 灰 N8/ 灰 N8/ 大 N9/	暗赤褐 7.5YR5/4 にぶい褐	(92) (139) (103) (143) (154) (304) (302) (126) (81) (70) (96) (197) (103) (183) (192) (192) (192) (192) (192) (192) (193) (193)	(70)  23  - 20 - 21 - 23  77  (22) - 20 (53) 1  18 - 18 (52) (18) (52) 20		470 600 2750 1170 800 200 900 280 500 960 150		T111 T116 M131 E114 T115 M133 T117 E115 M129 M132 T118 T119 T120 T121	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15	第40図 SK10 SK25 SK25 SK35 SK31 SK31 SK32 SK47 SK47 SK47 SK47 SK47 SK47 SK47 SK47	3 3 3 3 5 5 6 6 7 7 6 6 7 7 6 6 7 7 6 7 6 7 7 6 7 7 6 7 7 7 6 7	悉不明明	(72) (172) (237) (74) 655 76 121 (25) (133) (140) (114) (22) (80)	5 5 5 (1266 (2244)	11 10 (75) (75) (75) (75) (75) (75) (75) (75)	70.0 145.0 292.0 95.0 79.7 1,110.0 60.0 200.0 3.5 1,630.0 300.0 180.0 50.3	5Y7/1 灰白 5G7/1 明縁 5G7/1 明縁 N4/ 灰 2.5Y7/ 灰白 10Y4/1 火 2.5Y7/ 火 2.5Y7/ 火 2.5Y7/ 火 2.5Y7/ 火 2.5Y7/ 火 2.5Y7/ 火 2.5Y7/ 火 2.5Y7/ 火 2.5Y7/ 火 2.5Y7/ 火 2.5Y7/ 火 ス 3.3 10Y4/ 10Y	11 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	粘板岩 砥面5面 緑緑凝灰岩 石瓦か 原料が 石瓦か 原料が 石瓦か 原料が 石瓦か 原料が 石瓦か 原料が 磁面5面 中粒砂岩 砥面4面 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	T108 E107 T109 M121 E104 E105 E106 T107 M124 M122 T122 T123 T126 E120
3 4 5 6 7 8 9 10 11 1 2 3 4 5 6 7	SK62 SD04 SK88 SK91 SK94 SX03 SX05 SX07 第38図 SE03 SX04 SX04 SX04 SX04 SX04 SX04 SX04 SX04	煙 平煙 平煙 赤瓦、丸煙 赤瓦、丸煙 東煙 丸煙 丸煙 丸煙 丸煙 丸煙 丸煙 丸煙 丸煙 丸煙 丸	灰白  N5/ 灰 N8/ 灰 N8/ 灰 10R4/場 N7/ 灰 10R4/場 N7/ 灰 N5/ 灰 N5/ 灰 N8/ 灰 N8/ 灰 N8/ 灰 N8/ 灰 N8/ 灰 N8/ 灰 17.5 Y8/3 浅黄僧  N8/  N7/ 白 N7/ 灰 ロ N7/	暗赤褐 7.5YR5/4 にぶい掲 5YR5/4 にぶい赤褐	(92) (139) (103) (143) (154) (304) (302) (126) (160) (81) (70) (252) (96) (197) (103) (1183) (241) (109) (125) (192) (170) (181) (192) (192) (193) (119) (193) (119) (193) (119) (193) (119) (193) (119) (193) (119) (193) (119) (193) (119) (193) (119) (193) (119) (193) (119) (193) (119) (193) (119) (193) (119) (193) (119) (193) (119) (193) (119) (193)	(70)  23 - 20 - 21 - 23 77 (22) - (53) - 21 - 20 (53) - 21 - (18) (52) 20 - (18) (52)		900 900 150 170 240		T111 T116 M131 E114 T115 M133 T117 E115 M129 M132 T118 T119 T120 T121 Q84	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 1 2	第40図 SK10 SK25 SK25 SK35 SK31 SK31 SK31 SK32 SK47 SK47 SK47 SK47 SK47 SK47 SK47 SK47 SK47 SK47 SK47 SK47 SK32 SK32 SK32 SK31 SK32	3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3	悉不明明	(72) (172) (237) (74) 655 76 (121 (16) (133) (140) (114) (116) 22 (80) 384	\$ 5 5 6 (1266 ) \$ 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6	11 10 (75) (75) 53 15 13 19 24 22 26 22 23 15 11 10 25 8 7 8 8 8 11 ) 45 9 29 8 8 45 5 11 13 16 145	70.0 145.0 292.0 95.0 79.7 1,110.0 180.0 200.0 3.5 1,630.0 180.0 50.3 4.0	5Y7/1 灰白 5G7/1 明縁 5G7/1 明縁 N4/ バ ア 2.5Y7白 (灰白 10Y4/1 灰 2.5Y7黄 7.5Y7/ 原オリー: 2.5GY7、 明オリー: 10Y8/1 スリー: 10Y8/1 20Y8/1 スリー: 10Y8/1 スリー: 10Y8/1 スリー: 10Y8/1 スリー: 10Y8/1 20Y8/1 スリー: 10Y8/1 スリー: 10Y8/1 スリー: 10Y8/1 スリー: 10Y8/1 20Y8/1 スリー: 10Y8/1 2	11 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	粘板岩 祇面5面  緑緑類灰岩 石瓦か 緑緑類灰岩 石瓦か 原穿孔1:孔径8mm 中粒砂岩 祇面面面 中粒砂岩 祇面4面 北岩 祇面5面 中粒砂岩 祇面5面 中粒砂岩 祇面5面	T108 E107 T109 M121 E104 E105 E106 T106 T107 M124 T122 T123 T126 E120
3 4 5 6 7 8 9 10 11 1 2 3 4 5 6 7 8	SK62 SD04 SK88 SK91 SK94 SX03 SX05 SX07 第38図 SE03 SX04 SX04 SX04 SX04 SX04 SX04 SX04 SX04	煙 下原 医甲腺	灰白  N5/ 灰 N8/ 灰 N8/ 灰 N8/	暗赤褐 7.5YR5/4 にぶい掲 5YR5/4 にぶい赤褐	(92) (139) (103) (143) (154) (304) (302) (126) (160) (81) (70) (252) (192) (103) (1197) (103) (1197) (103) (1197) (103) (1197) (103) (1197) (104) (109	(70)  23 - 20 - 21 - 23 77 (22) - 20 (53) 18 (52) 22 - (18) (52) 20 (18) (52) 20 21 - 20 - 21 - 20 - 21 - 20 - 21 - 20 - 20		900 900 2750 1170 900 280 500 150 170 240	五縁部分36mm 射線度 コビキ B 棒状圧復   「字孔2箇所   光沢有   刻印有「□上」   光沢無   刻印有「□上」   刻印有「□上」   光沢無   刻印有「□上」   刻印有「□上」   光沢無   ぶ唯億有	T111 T116 M131 E114 T115 M133 T117 E115 M132 T118 T119 T120 T121 O84 N76	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15	第40図 SK10 SK25 SK25 SK35 SK31 SK31 SK32 SK47 SK47 SK47 SK47 SK47 SK47 SK47 SK47	3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3	悉不明明	(72) (172) (237) (74) 655 76 121 (25) (133) (140) (114) (22) (80)	\$ 5 5 6 (1266 ) \$ 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6	11 10 (75) (75) 53 15 13 19 24 2 26 2 23 15 11 10 25 8 7 18 81 1) 45 5 5 11 11 13 16 145 145	70.0 145.0 292.0 95.0 79.7 1,110.0 60.0 200.0 3.5 1,630.0 300.0 180.0 50.3	5Y7/1 灰白 5G7/1 明線 5G7/1 明線 5G7/1 明線 下 2.5Y7/ 灰白 2.5Y7/ 灰白 10Y4/1 灰り 2.5Y7 デカープ 2.5GY7 ボリープ 10Y4/1 水 水 水 メ 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	11 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	粘板岩 祇面5面  緑緑類灰岩 石瓦か  緑緑類灰岩 石瓦か  原著力・	T108 E107 T109 M121 E104 E105 E106 T106 T107 M124 M122 T122 T123 T126 E120
3 4 5 6 7 8 9 10 11 1 2 3 4 5 6 7 8	SK62 SD04 SK88 SK91 SK94 SX03 SX05 SX07 第38図 SE03 SX04 SX04 SX04 SX04 SX04 SX08 SX08 SX08 SX08 SX08 SX08 SX08 SX08	煙 平煙 東京 東京 東京 東京 東京 東京 東京 東京 東京 東京	灰白  N5/ 灰 N8/ 灰 10R4/3 未 N7/	暗赤褐 7.5YR5/4 にぶい褐 5YR5/4 にぶい赤褐 7.5YR5/4 にぶい裾	(92) (139) (103) (103) (143) (154) (154) (154) (154) (154) (160) (81) (70) (192) (193) (11	(70)  23 - 20 - 21 - 23 77 (22) - 20 (53) - 18 - 18 (52) 20 - (18) (52) 20 - 19 - 22 - 18 - 18 -		900 900 2750 1170 900 280 500 150 170 240		T111 T116 M131 E114 T115 M133 T117 E115 M132 T118 T119 T120 T121 O84 N76	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 1 2	第40図 SK10 SK25 SK25 SK35 SK31 SK31 SK31 SK32 SK47 SK47 SK47 SK47 SK47 SK47 SK47 SK47 SK47 SK47 SK47 SK47 SK32 SK32 SK32 SK31 SK32	9 29 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	悉不明明	(72) (172) (237) (74) 655 76 (121 (16) (133) (140) (114) (116) 22 (80) 384	\$ 5 5 (1266 ) \$	11 10 (75) (75) 53 15 13 19 24 22 26 22 23 15 11 10 25 8 7 8 8 8 11 ) 45 9 29 8 8 45 5 11 13 16 145	70.0 145.0 292.0 95.0 79.7 1,110.0 180.0 200.0 3.5 1,630.0 180.0 50.3 4.0	5Y7/1           灰白           5G7/4           明緑           N4/           区グ/1           原ク           2.5Y7/           反白           2.5Y7/           反白           2.5Y7/           万           7.5Y7/           月十分一プ           2.5GY7,           月イナリープ           10YR8           樹田           N1.5/           10GY7,           日のGY7,           10GY7,           日のGY7,           以上           バス           10GY7,           日本           10GY7,           日本           10GY7,           日本           10GY7,	11 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	粘板岩 祇面5面  緑緑類灰岩 石瓦か 緑緑類灰岩 石瓦か 原穿孔1:孔径8mm 中粒砂岩 祇面面面 中粒砂岩 祇面4面 北岩 祇面5面 中粒砂岩 祇面5面 中粒砂岩 祇面5面	T108 E107 T109 M121 E104 E105 E106 T106 T107 M124 M122 T122 T123 T126 E120
3 4 5 6 7 8 9 10 11 1 2 3 4 5 6 7 8	SK62 SD04 SK88 SK91 SK94 SX03 SX05 SX07 第38図 SE03 SX04 SX04 SX04 SX04 SX04 SX04 SX08 SX08 SX08 SX08 SX08 SX08 SX08 SX08	煙 互	灰白  N5/ 灰 N8/ 灰 10R4/	暗赤褐 7.5YR5/4 にぶい掲 5YR5/4 にぶい赤褐	(92) (139) (103) (143) (154) (154) (154) (154) (154) (154) (154) (154) (154) (154) (154) (154) (154) (154) (154) (154) (154) (155) (160) (81) (170) (192) (135) (192) (135) (192) (1	(70)  23 - 20 - 21 - 23 - 37 7 (22) - 20 (53) - 21 - 21 - 20 (552) 22 (18) (52) 20 - 19 - 18 - 18 - 18 - 18 - 18 - 18 - 18		470 600 2750 1170 800 200 900 280 500 960 150 240 295 640		T111 T116 M131 E114 T115 M133 T117 E115 M129 M132 T118 T119 T120 T121 O84 N76 E116	1 2 3 4 4 5 6 7 8 8 9 10 11 12 13 14 15 1 2 3	第40図 SK10 SK22 SK25 SK36 SK31 SK31 SK31 SK32 SK47	3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3	低下听唱品 低 底 低 低 在 在 在 在 在 在 在 在 在 石 石 石 石 石 石 石 石 石	(72) (172) (237) (74) 65 76 121 (76) 112 25 (133) (140) (114) (116) 22 (80) 384	\$ 5 (1266 (2244	11 10 (75) (75) 13 15 13 19 24 12 26 2 23 15 11 10 25 8 7 18 8 11 ) 45 19 29 18 45 5 11 13 16 145 14 18	70.0 145.0 292.0 95.0 79.7 1,110.0 180.0 200.0 3.5 1,630.0 300.0 180.0 50.3 4.0	SY7/1   灰白   SG7/1   明緑   SG7/1   明緑   SG7/1   明緑   C2.5Y7/   灰白   2.5Y7/   灰白   10Y4/1   灰クイ   アライ   SY7/   RIST   SY7	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	粘板岩 低面5面  緑緑凝灰岩 石瓦か  緑緑凝灰岩 石瓦か  原発11:孔径のmm 中 20 砂岩 低面5面 東 30 砂岩 低面5面 第 50 砂岩 低面5面 第 50 砂岩 低面5面	T108 E107 T109 M121 E104 E105 E106 T107 M124 M123 T122 T123 T126 E120 E121 T127
3 4 5 6 7 8 9 10 11 1 2 3 4 5 6 7 8 9	SK62 SD04 SK88 SK91 SK94 SX03 SX05 SX07 第38図 SE03 SX04 SX04 SX04 SX04 SX04 SX08 SX08 SX08 SX08 SX08 SX08 SX08 SX08	煙 下煙 医甲烷 医甲烷 医甲烷 医甲烷 医甲烷 医甲烷 医甲烷 医甲烷 医克克克 电流 医原生 医皮质 医克克克 医克克克 医克克克 医皮质	灰白  N5/ 灰 N8/ 灰 10R4/8  N7/ 灰 10R4/8  N7/ 灰 N5/ 灰 N5/ 灰 N8/ 灰 N5/ 灰 N8/ 灰 N8/	暗赤褐 7.5YR5/4 にぶい裾 5YR5/4 にぶい赤褐 7.5YR5/4 にぶい裾	(92) (139) (103) (143) (143) (143) (143) (304) (302) (126) (160) (252) (196) (197) (103) (183) (192) (170) (192) (170) (192) (170) (192) (170) (192) (170) (192) (170) (192) (170) (192) (170) (192) (170) (192) (170) (192) (170) (192) (170) (192) (170) (192) (170) (192) (170) (192) (170) (192) (170) (192) (170) (192) (183) (192) (	(70)  23 - 20 - 21 - 23 77 77 20 (53) - 21 - 21 - 20 (53) - 21 - (18) (52) 22 - (18) (52) 20		470 600 2750 1170 800 200 900 280 500 960 150 240 295 640	五縁部分36mm 制制額 の コビキ B 棒状圧復	T111 T116 M131 E114 T115 M133 T117 E115 M129 M132 T118 T119 T120 T121 O84 N76 E116 E117	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 1 2 3 4	第40図 SK100 SK25 SK25 SK25 SK36 SK31 SK31 SK31 SK32 SK47 SK47 SK47 SK47 SK47 SK25 SK47 SK25	9 2 3 9 p 2 3 p 2 3 p 2 3 p 3 p 3 p 3 p 3 p 3 p	低不明明 石石石石石石石石石石石石石石石石石石石石石石石石石石石石石石石石石石石	(72) (172) (237) (74) 65 76 121 (76) 112 25 (133) (140) (114) (22 (80) 384	\$ 5 (1266 (2244	11 10 (75) (75) 53 13 19 24 2 266 2 233 5 11 10 25 8 7 88 45 5 11 13 13 16 145 18 5 5 5 5	70.0 145.0 292.0 95.0 79.7 1,110.0 60.0 200.0 3.5 1,630.0 50.3 4.0	5Y7/1 灰白 5G7/1 明緑 5G7/1 明緑 7G7/2 の 2.5Y7 2 2.5Y7 1 アクロ 2.5Y7 2 2.5Y7 3 アクロ 2.5Y7 3 アクロ 2.5GY7 3 アクロ 7.5Y7 7 アクロ 7.5Y7 7	1 1 1 1 1 1 3 3 2 2 2 2 2 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7	粘板岩 低面5面  緑緑凝灰岩 石瓦か  緑緑凝灰岩 石瓦か  真岩か  原子11:孔径のmm 中 24 低面5面 中 25 中 36 低面5面 中 26 位 低面5面 中 27 位 低面5面 東 37 位 低面5面 東 38 位 低面5面	T108 E107 T109 M121 E104 E105 E106 T107 M124 M123 T122 T123 T126 E120 E121 T127

# 第12表 木製品観察表

番号	遺構 層位	種別	法量 a	法量 b	法量 C	備考	実測 番号	番号	遺構 層位	種別	法量 a	法量 b	法量 c	備考	実測 番号
	第42図							19	SK46	棒状	(106)	12	8	先端尖る加工有	T156
1	SK04	板状	187	78	5		E125	20	SK61	板状	(228)	109	3	穿孔3	M155
2	SK04	板状	187	38	5		E127	21	SK61	板状	(153)	(60)	17		M157
3	SK04	板状	77	22	9		E126	22	SK61	板状	(125)	(17)	4		M156
4	SK04	板状	105	20	12		E130	23	SK61	板状	(96)	(45)	12		M158
5	SK04	板状	98	10	6		E128	24	SK61	漆器椀	128	64	92	内面赤漆 外面黒漆	E144
6	SK04	棒状	227	13	8		E129	25	SK61	漆器椀か皿	_	(56)	(15)	外面花文様(赤・金) 内面赤漆 外面黒漆	E145
7	SK04	栓	53	26	18	一部加工痕有	E132	26	SK62	板状	211	27	3	1 3 period 2 2 period 2 period 2	T153
8	SK04	栓か	58	43	43	一部加工痕有	E131	27	SK62	板状	121	28	35		T154
						DD/H_1R'FI					_				_
9	SK06	板状	109	55	3		N81	28	SK62	板状	109	18	3		T163
10	SK06	板状	94	44	3		T131	29	SK62	箸	164	4	4		T164
11	SK06	板状	111	24	3		T133	30	SK62	棒状	222	21	11		T162
12	SK06	板状	126	18	3		T132	31	SK62	桶側板	230	96	6	箍跡有 焼印有	N104
13	SK06	板状	(197)	66	4		T134	32	SK62	桶側板	115	41	6	箍跡有	T151
14	SK06	板状	128	44	10		T135	33	SK62	桶側板	112	38	6	箍跡有	T152
15	SK06	板状	219	34	11		T136	34	SK62	円板状	(55)	(165)	13	穴2 焼印有	N103
16	SK06	板状	200	23	3		N82	35	SK62	円板状	61	61	3		Q93
17	SK06	板状	(162)	24	7	穿孔3 木釘2残	N83	36	SK62	漆器製品	(104)	(35)	4	内外面黑漆	N99
18	SK06	棒状	236	26	17		N85	37	SK62	不明	97	(4)	5	穿孔1	N102
19	SK06	棒状	(127)	11	11	釘穴8	N84	38	SK62	容器	60	60	53	加工痕有	Q94
20	SK06	ハケか	176	54	8	穿孔7	E142	39	SK62	下駄	223	73	26	高70 歯幅(140) 露卯 差歯(1残)	M160
21	SK06	漆器椀	114	60	49	内面赤漆 外面黒漆	E141		第44図	·				Table 1 Control	
22	SK06	円板状	88	89	6		E143	1	SK63	円板状	(136)	515	13		T150
23	SK06	下駄	237	77	37	高59 歯幅117 露卯	M153	2	SK85	板状	(163)	46	7		T158
24	SK06	下駄	230	79	41	差歯(2残) 高55 歯幅117 露卯	T149	3	SK85	棒状	(220)	28	10		T157
25	SK06	下駄	(138)	63	26	差歯 高61 歯幅(84)	M154	4	SK85	箸	(128)	(6)	(5)		T160
						差歯(1残)									_
26	SK10	円板状	86	(76)	4		T148	5	SK85	答	(106)	(5)	(6)		T161
27	SK10	円板状	108	(70)	3		E140	6	SK85	不明	339	31	10	片側側面のみキザミ    内面赤漆 外面黒漆	E149
28	SK10	円板状	(175)	(67)	8	釘穴2	E136	7	SK85	漆器蓋	_	(54)	(27)	外面文様(黄·赤) 内面赤漆 外面黒漆	N101
29	SK10	円板状	(165)	(30)	8	釘穴2	E135	8	SK85	漆器椀	-	60	(48)	外面文様(赤)	N100
30	SK10	円板状	(301)	(107)	10		T147	9	SK85	円板状	(97)	(24)	(6)		T159
31	SK10	板状	(141)	28	9	穿孔1	E139	10	SK87	漆器椀	-	62	(83)	内面赤漆 外面黒漆 高台内赤漆で丸印(径7mm)	E148
32	SK10	箸	(195)	6	5		E138	11	SK96	板状	(85)	26	5	穿孔1	E123
33	SK10	棒状	368	39	18		N86	12	SE03	板状	1013	155	23	釘穴6	M136
34	SK10	下駄	142	60	24	穿孔3 連歯	E137	13	SE03	板状	(590)	52	6	釘穴4	Q85
	第43図							14	SE03	板状	210	66	25		N78
1	SK16	不明	98	19	3		E146	15	SE03	棒状	(650)	85	71		N79
2	SK16	下駄	200	(52)	16	連歯	E147	16	SE03	杭か	711	50	52		E124
3	SK17	下駄	(135)	71	(24)	差歯	M159	17	SE03	棒状	(320)	35	14		Q86
4	SK20	棒状	(188)	23	17	穿孔2(径7mm、径11mm)	T146	18	SE03	円板状	181	(88)	13	焼印有「木越屋」	M139
5	SK20	箸	(70)	5	4	側面1面黒漆塗布	T144	19	SE03	円板状	65	42	4	白色付着物有	M150
6	下層 SK20	箸	(81)	6	5		T145	20	SE03	円板状	(121)	(40)	4		M149
7	下層 SK20	円板状	72	72	7		T143	21	SE03	桶側板	157	(46)	6	焼印有	M146
	下層					<b>格印</b> 方 签路左									
8	SK21	桶側板	173	43	65	焼印有 箍跡有	Q91	22	SE03	桶側板	158	59	7	焼印有	M145
9	SK21	下駄	(222)	99	36	連歯	Q90	23	SE03	桶側板	155	50	7	<b>箍跡有</b>	M151
10	SK21	下駄の歯	99	(73)	14	差歯	Q92	24	SE03	桶側板	158	46	6		M147
11	SK22	板状	(120)	23	3	釘穴1	N94	25	SE03	桶側板	158	(34)	5		M148
12	SK22	不明	(187)	24	7	両端加工	N93	26	SE03	不明	(185)	89	44		M152
13	SK22	箸	(142)	6	5		N96		第45図						
14	SK22	箸	(69)	6	5		N97	1	SE03	部材	(661)	96	56	鉄釘1	M137
15	SK22	棒状	(114)	8	6		N95	2	SE03	部材	(668)	91	95	加工痕有3	T130
16	SK22	棒状	(149)	11	11	ff	N98	3	SE03	部材	(873)	85	78	加工痕有2	Q87
17	SK22	不明	(190)	(144)	67		N92	4	SE03	部材	373	72	79		E150
			1	16	8		T155	5	SE03	部材	(330)	80	33	加工痕有2	T128

番号	遺構 層位	種別	法量 a	法量 b	法量 C	備考	実測番号
6	SE03	部材	(434)	91	39	加工痕有2	M138
7	SE03	部材	(446)	122	85		M135
8	SE03	部材	483	62	30		E122
9	SE03	部材	(278)	95	92	加工痕有1	T129
	第46図						
1	SE03	舟材 (底板)	452	415	75	鉄釘7 木釘3 鉄釘穴3 木釘穴3 井戸枠に転用	T137
2	SE03	舟材 (底板)	420	513	80	埋木2(隠し釘)2 舟釘8 鉄釘1 木釘15 井戸枠に転用	N80
3	SE03	舟材 (底板)	(446)	(455)	70	鐵2 舟釘1 鉄釘6 木釘4 舟釘穴1 木釘穴16 井戸枠に転用	M134
	第47図						
1	SE03	舟材 (底板)	379	720	64	鐵2 舟釘2 鉄釘17 木釘18 不明3 井戸枠に転用	E134
	第48図						
1	SE04	桶側板	(780)	186	20	井戸 桶を転用し井戸材として使用している	M144
2	SE04	桶側板	(746)	173	24	井戸 箍痕有 桶を転用し井戸材として使用している	Q88
3	SE04	桶側板	(691)	85	17	井戸 桶を転用し井戸材として使用している	M141
4	SE04	桶側板	(751)	196	22	井戸 箍痕有 桶を転用し井戸材として使用している	Q89
5	SE04	桶側板	(880)	137	25	井戸 箍痕有 桶を転用し井戸材として使用している	M142
6	SE04	桶側板	(343)	65	21	井戸 桶を転用し井戸材として使用している	T139
7	SE04	桶側板	(440)	169	24	井戸 箍痕有 桶を転用し井戸材として使用している	T138
8	SE04	桶側板	(696)	133	23	井戸 桶を転用し井戸材として使用している	M140
	第49図						
1	SE04	桶側板	(714)	162	25	井戸 箍痕有 桶を転用し井戸材として使用している	E112
2	SE04	桶側板	(745)	104	26	井戸 箍痕有 桶を転用し井戸材として使用している	M143
3	SE04	桶側板	(771)	122	30	井戸 箍痕有 桶を転用し井戸材として使用している	T140
4	SE04	桶側板	(699)	81	205	井戸 箍痕有 桶を転用し井戸材として使用している	T142
5	SE04	桶側板	(690)	123	22	井戸 箍痕有 桶を転用し井戸材として使用している	T141
6	SD04	円板状	(110)	(88)	3		N89
7	SD04	円板状	(97)	(93)	4		N90
8	SD04	円板状	(42)	(22)	3		N91
9	SX07	板状	(234)	45	6		N88
10	SX07	板状	(107)	19	6		N87

第13表 出土瓦計量表 (単位:g)

弗13衣 出土 <sub>遺構</sub>	調査区	燻瓦	⊻ • g) 燻瓦 平	燻瓦	燻瓦	燻瓦	燻瓦	燻瓦	燻瓦	赤片面瓦	赤片面瓦	赤片面瓦	赤両面瓦	赤両面瓦	赤瓦	赤両面瓦軒	赤瓦	黒片面瓦	黒両面瓦桟	黒両面瓦平	黒瓦軒桟	黒瓦鎌平	黒瓦面戸	黒瓦雁振	黒瓦道具瓦	黒瓦	総計
SK01	1 -3	丸 500	<del>半</del> 540	軒平桟	軒平	桟	雁振	腰	小計 1,040	丸	<del>-</del>	桟	平	桟	雁振	桟	小計 0	桟	XIII 3	, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	,	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	,	,	,	小計 0	
SK04	1 一①南		70	)					70								0									0	7
	1 一①南	80	380						460	460	220						680									20	1,16
	1一①中	380 560	1,650						2,030 2,470								0									0	
	1一①中	610	890						1,500								0									0	
	1 -3	0.0	130						130								0		20							20	15
SK11畦	1 -3		50						50								0									0	
	1 一①中	60	560						620								0		20							20	64
	1 一①中	250	180					440	430								0									0	43
	1 一①中	90	620 1,320					110	730 1,410		90 230						90 230									0	
	1 一①中	580	90						670		230						0									0	
	1 一①北	170	520					130	820								0									0	
	1 一①北	200	120						320								0									0	32
	1 一①中	410	1,800						2,210								0		50							50	
	1 一①中	80	260						340		120						120									0	
	1 一①北	3,710 2,300	37, 590 5, 900					2,500	41,300 10,700								0									0	
	1 一①北	420	1,900					400	2,720		40						40									0	2,76
	1 一①北	580	1,020						1,600		130						130									0	
	1 一①北	660	2,410						3,070		560						560									0	
	1 一①北	2,910	5,400					70	8,380		30						30									0	
	1 一①北	3,000 470	11,760					1,600	16, 360 2, 220		250		330				580					390				390	
	1 一①北	4/0	450						450								0	_								0	2, 22
	1一①中		280						280		300						300									0	
SK40	1 一①中	380							380								0									0	38
	1 一①北	4,100	9,900					1,910	15,910	100	2,250						2,350									0	
	1 一②北		780						780								0							100		100	
	1 一②北		1,140 510				$\vdash$		1,140 510								0		50				<del>                                     </del>			50	
SK47	2-3	2,810	3,090						5,900		570						570		30							0	6, 47
SK48	2 - ③		20	)					20								0									0	
SK50	2 -3		50						50								0									0	5
SK52	2 -3	000	190						190		140						140									0	
SK54 SK55	2-3	260	110 240						370 240								0									0	
SK55 SK56	2-3	570	240						570								0									0	
SK57	2 - 3	175	110						285								0		680							680	
SK58	2 - ③	1,620	1,500						3,120								0									0	3, 12
SK59	2 -3	900	1,720		$\sqcup$	$\Box$	$\Box$	750	3,370								0									0	
SK60 SK61	2-2	1,000	1,700					90	960 2,700		135						135						-			0	
SK62	2-2	400	1,700					440	2,700		465	1,100					1,565									0	4, 28
SK63	2-2	240	950						1,190			1,100					0									0	
SK64	2 - ②	70	100						170								0									0	17
SK66	2-2	640	2,140						2,780								0									0	
SK67 SK66 • 68 • 69	2-2	260	400						660								0									0	
上層	2-2		140					855	995								0									0	99
SK68	2 - ②	190	790						980								0									0	
	2一①北		160						160								0									0	
	2一①北	100	595	-					675 100								0									0	
	2一①北	160	220						380		75						75									0	
SK74	2 -(1)	45	370						415								0									0	41
SK76	2 —①	270	780						1,050			45					45		15							15	
SK77	2 -1		2,460						2,460								0		0.400							0	
SK78 SK79周辺	2一①北		75 65						75 65								0		2,120				-			2,120	
SK81	2-①	110	03	1					110								0									0	
SK82	2 —①		60						60								0									0	6
SK85	2 - ①		285						285								0									0	28
SK87	2 -1		840 140						840			1 500		1 000		0.750	0 050		100							100	
SK88 SK89	2-①	30	140	1					140 30			1,500		1,800		2,750	6,050									0	
SK90下層	2-1	30							0		65						65									0	6
SK90	2 - 3		40						40								0									0	4
SK91	2 -3	980	470					100	1,550								0									0	
SK92	2 -3	50	190						240								0									0	
SK93 SK94	2-①	225	165 1,700			$\vdash$		200	165 2,125			285					285		80				-		105	185	
	1一①中	223	1,700					200	2,123			200					0		15						103	15	
SE02	1 一①北	100	70						170								0	90								90	26
SE03	1 一①中	860	3,020						3,880		540		220				760					900				900	5,54
	1 一①南	525	2,200						2,725								0									0	
	1 一①南	1,740	410						410 6, 190								0						-			0	
	1 一①北	3,850	14,470					1,050	19,370		990						990									0	
	1 一①北	860	1,740					285	2,885		140						140									0	
SX06	1 一①北	1,260	3,700	)			145	105	5,210								0									0	5, 21
	2-2	3,010	11,760					980	15,750	60		2,410		820			3,290		35							35	
	1 -3		45						45								0									0	
	1一①中 1一①中	730 1,250	3, 200 9, 050						3, 930 10, 300	350	245 3,090	1,100	150	340			935 4,340						-			670 1,635	
	1 一①中	1,250	9,050						840		3,080	1,100	100				4,340		300	/40						1,635	
SD06	2 - 3	765	1,940					190	2,895								0									100	2,99
	2 -1		710	)					710								0				70					70	78
		1,550	3,700				645		6,080		250						250				80					375	
包含層									49,670	765	2,750	340	720	90	200		4,865	280	9,700	3,140							
包含層 整地層		11,700	37,660 2 950		50	260	<del>     </del>								200						00		405			13,605	
包含層		11,700 430 62,895	37, 660 2, 950 217, 830	)				11,765	3,380	35 1,770		6,780	265	250 3,300	200	2,750	550 30,160	105	245		150				105	350	4, 28

# 第5章 総括

### 第1節 絵図からみた調査区の履歴

金沢城下町遺跡(兼六元町7番地点)が所在する地区は、調査地となった小学校の旧名が示すとおり、古くは味噌蔵町と呼ばれていた区域である。由来は慶長・元和期に当地に軍備貯蔵用の味噌蔵が置かれていたことに起因しているといわれており、場所は九人橋筋の奥村屋敷の場所とされている。延宝8年(1680)頃の御家中古分限帳に被記載者の邸地として味噌蔵の名が見られるが、前後に成立した延宝金沢図には施設としての味噌蔵の記載は既にない。

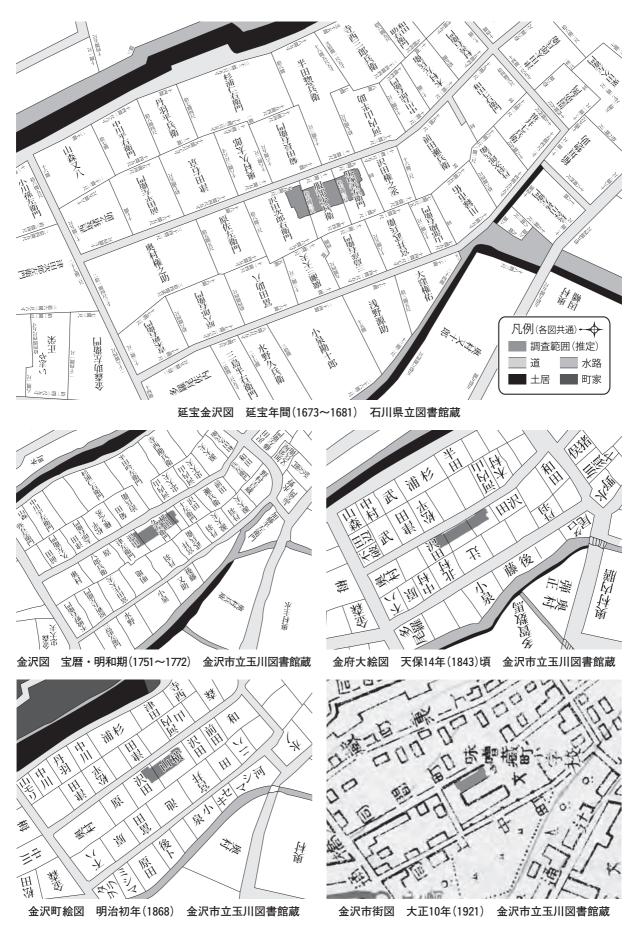
ここでは、絵図等を用いて調査区における現在までの土地利用の変化を追う。資料として用いたのは延宝金沢図(1673~1681、石川県立図書館蔵)、金沢図(1751~1772、金沢市立玉川図書館蔵)、金府大絵図(1843頃、同)、金沢町絵図(1868、同)、金沢市街図(1921、同)である。

藩政期において味噌蔵町は一貫して武家地であり、当調査区周辺には150石~500石の禄を有する平氏が居住していた。金沢は大戦時に空襲を受けていないため、藩政期の街路区画が現在にまで引き継がれている箇所が多く、当地もこれに該当し、数多く残る藩政期~近代の絵地図上での調査地の比定が可能であった。延宝金沢図は各居住地の間口、奥行の情報をもつ絵図であり、現在の区画と比較し同一と考えられる区画に記載されている間数を足し込むと京間(1間=6尺5寸)で289.82m、越前間(同6尺3寸)で279.85m、江戸間(同6尺)で266.91mであった。測量による実測値は約280mであり、越前間の寸法と合致する。江戸本郷邸における近世遺構についても、17世紀代に比定される遺構の多くがこの尺度を採用していることが知られており、延宝図記載の寸法は越前間である可能性が高い。

これを踏まえ、計測した寸法と調査区の座標値を基に延宝金沢図に調査区の位置を落とし込んだものが第50図上の図である。これによると調査区は武家地3軒に跨がっており、調査区北寄りは沢田次郎右衛門、中央は服部少兵衛、南寄りは小塚善左衛門と読める。小塚氏の南隣には沢田権之丞の屋敷があり、以後明治初年に至るまで、これら2軒の沢田氏の屋敷位置は変わることがないため、調査区の位置は各年代を通じて比定が可能である。

延宝金沢図で調査区北寄りに位置する沢田次郎右衛門は山賀野弥右衛門系で、沢田氏を称し禄4000石で前田利長に仕えた次(治)左右衛門長政の系統である。禄500石の馬廻組で、以後源大夫長宥 - 治兵衛長与 - 弥左衛門豊強と続く。弥左衛門のとき改易され250石となり、以後一貫する(第50図上の図では津左衛門)。同じく調査区中央は服部少兵衛の邸地である。寛文7年絵図(石川県立図書館蔵)では勝兵衛、御家中古分限帳では味噌蔵町服部庄兵衛とあるが同一人物と思われ、200石を禄する射手組である。元は沢氏を称し、子の五右衛門のとき加増され300石となり、以後覚兵衛宗春 - 琢左衛門宗恒 - 紋大夫 - 弥六和恒 - 清左衛門 - 琢左衛門 - 幸三郎嘉勝 - 鍉次郎信綱と続く。宝暦・明和期には既に服部氏の名は見えず、大火後の宅地替えと思われる。調査区南寄りを占めるのは小塚善左衛門で、名は秀成である。元禄6年(1693)侍帳に「ミそくら町奥村市郎右衛門末」として名前が見える。元禄9年(1696)馬廻近習番として200石を禄し、同年加増され350石となるも、のち閉門、流刑となり召放たれている。子甚五左衛門秀興は宮腰御材木奉行200石、以後斎宮行正 - 甚右衛門秀易 - 与平秀一と続く。宝暦・明和期の絵図に名はなく、明地(空地)となっている。

宝暦・明和期の絵図から元服部氏の敷地に名が見られるのが横山氏である。絵図に見える横山久左衛門は延享3年(1746)書物役として諸頭系譜巻第八上に名が見えるが、詳細不詳の人物である。以後明治初年まで同地に横山氏の名が見え、天保14年頃の金府大絵図では敷地境が確認できることから、



第50図 絵図にみる本遺跡調査区周辺

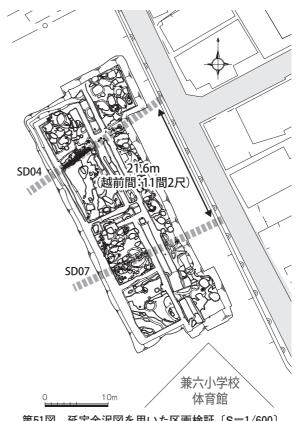
幕末の段階で隣の明地を合筆したものと考えられる。

廃藩後は武家の邸宅は悉く取り壊され、味噌蔵町は活気を失う。その跡地に明治39年(1906)、味噌 蔵町小学校が設立された。大正10年(1921)金沢市街図によれば、旧校舎は今回調査範囲と重なって配 されており、調査ではこの煉瓦造の基礎が検出されている。

# 第2節 遺構の変遷

近世以前の遺構としては、1-③区で古墳時代前 期の土師器が出土した SD01がある。調査区南壁か ら西壁にかけて緩やかな弧を描き流れており、平地 式建物の周溝とも考えられる。地形が調査区から北 東に向けて低くなることから、当該期集落は南西方 向に広がることが想定できよう。

近世においては絵図の検討で示したとおり、調査 地周辺は藩政期を通じて一貫して武家地であり、大 火前後の配置替えは認められるものの、区画割は3 区画を基本とし、大きな変化はない。今回の調査で は区画を示すものとして石組み蓋付の溝である SD 04が挙げられる。主軸方位は絵図に見える区画のそ れと合致しており、延宝金沢図における沢田次郎右 衛門と服部少兵衛の宅地境を示すものであろう。そ こから南へ約20mの箇所には拳大の礫を多量に含 む SD07が直線の溝状に走っており、これが延宝金 沢図での服部少兵衛 - 小塚善左右衛門間の境界を示 すものと考える。検出状況から土塀の基礎である可



第51図 延宝金沢図を用いた区画検証〔S=1/600〕

能性が高い。SD04と比べて主軸をやや東に採るが、延宝金沢図に見える服部少兵衛敷地の背割寸法距 離が正面に比べて1間狭くなっていることから、区画割そのものが方形を基準としているものでない 可能性が高い。また、第51図に示したとおり、この二つの遺構を前面道路側に延伸させ、その交点間 の距離を計測したところ21.6m となり、越前間での計算において絵図記載寸法と合致している。これ ら二つの区画境は藩政期を通じて受け継がれてきたものと考えられ、今回調査の基準線ともいえる遺 構である。SD07はSK85を切ることからも年代としては18世紀後半以降のものと考えられるが、前述 した理由から、延宝期、おそらくはそれ以前からの区画境の線形を踏襲しているものと考えられる。

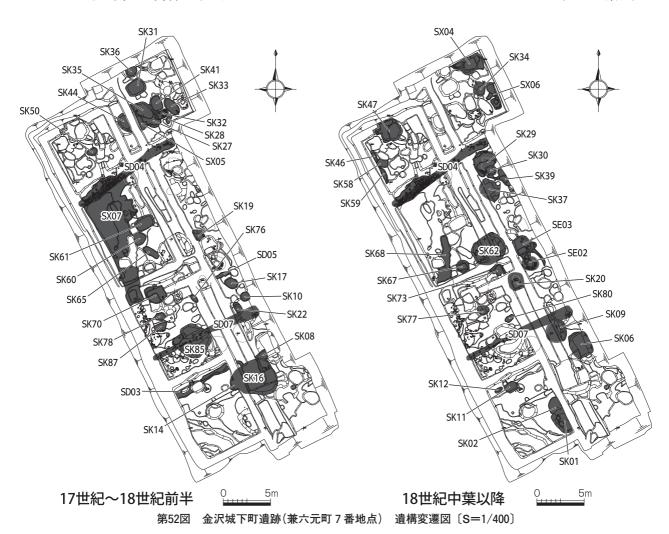
第52図は年代別の遺構配置図である。宝暦8年(1759)に発生した大火を基準として、それ以前と以 後を比較する資料として作成した。本来ならばさらに細かい年代に分けるべきであるが、紙幅と能力 の都合ということでご容赦願いたい。調査区は前面の道との高低差があるものの、絵図記載の情報等 から敷地の正面を占める範囲と考えられる。検出した遺構の中に建物跡などは認められず、植栽や井 戸等を備えた前庭的な空間が広がっていたものと推察される。

17世紀~18世紀前半の遺構は、被熱した陶磁器とともに石片・瓦片を多く含む、いわゆるゴミ穴が 多い。宝暦の大火によって焼損したものを廃棄したものと考えられる。1-①区で検出した土坑群か らは未加工の石や瓦類の出土が多くみられ、特に腰瓦の出土は全体の実に84.5%が北寄りの1-①北 区、2-③区から出土しており、特異な様相を示している。これら調査区は調査範囲のなかでも石高

の高い敷地を構成する区画であり、腰瓦を使用するような建造物を有していた可能性も指摘できようか。不整形な SX07も焼損後の整地造成と理解してよかろう。敷地境界である SD07と重なって存在する SK85は火災による敷地境の一時的な消失を示し、その南東にある SK16は区画と並行する SD03と一体として考えれば井戸及び水路であろう。SD03の延長上に建物が存在するものと考えられる。

18世紀中葉以降では横山氏の敷地となった中央の区画に多くの井戸が掘られている。うち SE02は石組みのものであるが、舟底板を転用した井戸枠をもつ SE03によって北側半分は破壊されている。SE 03とそこから南西に向かって延びる溝状の遺構とはセットとして考えてよいであろう。このほかにも SK20・SK29・SK37など、深さが1.5m を越える素掘りの穴が多く存在する。南の区画は一定期間明地であったが、幕末近くに横山氏の敷地となり、こちらにも SK01・SK09といった井戸と思しき遺構が掘削されている。最終的に土塀として存在した SD07の機能はこのときに失われ、明治に入ってしばらくの間に、沢田氏及び横山氏の屋敷は周辺に存在した武家屋敷群とともに取り壊され、その後、明治39年(1906)に味噌蔵町小学校がこの地に造成されることとなる。

以上、絵図による調査地の利用履歴の検証、検出遺構の変遷について述べた。当該発掘調査は、段 丘縁辺部における古墳時代集落の発見とその分布の推定がなされたこと、近世においては検出された 遺構の配置から武家敷地内における空間構成の一端が明らかになったことが成果として挙げられよう。 絵図との比較からその変遷を追うことができる希少な調査であり、鍋島焼や腰瓦、舟底板などをはじ めとする様々な出土遺物は、城下町の成立期から近代まで続く武家地における生活の様相を窺い知る ことができる貴重な資料である。 (以上、景山)



### 第3節 鍋島焼について

1-①南区のSX01から出土した鍋島窯で焼かれた色絵の皿片(第30図13)について、遺跡を特徴づける遺物として若干補足しておく。

鍋島焼は佐賀の鍋島藩が17世紀後半頃に開いた磁器窯で、藩の特産品として大名家への献上品の高級磁器を焼いていたといわれている。本来なら大名屋敷、公家屋敷など位の高い階層の居住地から出土することが多い。

本遺跡出土の鍋島焼は、絵図によると150~500石程度の武家居住地から出土している。内面に染付で菊花を描き、その上から菊花や葉に色絵を施し、赤い渦巻文を所々に配置する図柄となっている。外面は染付のみで、おそらく七宝文が巡り、高台には櫛目文が描かれている。『別冊太陽 古伊万里』には、渦巻の巻き方が少なめではあるが、伝世品として18世紀前半から中頃の同じ図案の色絵皿が「鍋島色絵蔓薔薇文皿」として紹介されている。また、東京都新宿区の三栄町遺跡(下級武士の敷地跡)から出土した、同じ図案で色絵が付けられていない染付のみの皿も「色絵生地鍋島皿」として掲載されている。

金沢市内では他に鍋島焼が出土した遺跡として、金沢大学埋蔵文化財調査センターが金沢大学附属病院宝町キャンパス調査地点で行った発掘調査がある。調査では300石以上の与力町跡地から鍋島焼の染付7寸皿の組皿(10枚程度)が出土している。報告では、鍋島藩から贈られた加賀藩の重臣がさらに下賜したものではないかとしている。

今回の出土品は、藩主や重臣から下賜された品である可能性もあるが、本遺跡が金沢城から東に約300m しか離れていない点や、出土遺構がSX01という不明確でいろいろな時期の遺物が埋土に混ざる遺構であることから、城内で発生した残土を整地土として搬入した可能性も十分にある。

#### 第4節 出土瓦について

本遺跡から出土した瓦片は約800点あり、総重量は330kg を越える。重量を計測した結果は第13表出 土瓦計量表のとおりであるので参照願いたい。

出土量は1-①北区、2-③区など、北の調査区ほど多い傾向があり、その構成は全体のおよそ84%が燻瓦で9%が赤瓦、7%が黒瓦となっている。種類は丸瓦、平瓦、軒平桟瓦、軒平瓦、桟瓦、雁振瓦、腰瓦、鎌平瓦、面戸瓦、道具瓦などに分けられた。また、燻瓦の種別をみると、平瓦、丸瓦に次いで腰瓦の出土量が多い。先にも述べたが、腰瓦の出土範囲は調査区北寄りに偏りをみせており、1-①北区及び2-③区で腰瓦全体の約84.5%を占めている。これら調査区には18世紀前半までのゴミ穴が多く確認されており、宝暦の大火に関連する大規模整地に関連していることも想定されようか。特異な出土状況であることは間違いない。

腰瓦は、金沢城においては櫓や長屋の塀などに使用されていたことが金沢城調査研究所の発掘調査により明らかになっている。しかし、これまでに金沢市が発掘調査をした近世遺跡から腰瓦が出土するのは大変稀有な事例であったことから、本当に150~500石規模の武家屋敷でも腰瓦が自由に使用されていたのか疑問に思った。これまでに解読されている文献史料には加賀藩が武士の階級によって居住地に瓦の使用を禁止するというお触れは残ってはいないし、本遺跡周辺の建築図面なども残っていないので疑問は残る。

第3節でも記述したように城の残土に混入したものが搬入されたものか、本当に本遺跡で使用されていた腰瓦であったのか真相は不明であるが、珍しい例としてあげておく。今後、金沢市内の城下町遺跡発掘調査で腰瓦が出土するかを見守っていきたい。

(以上、新出)

### 第5節 舟底板について

SE03から井戸枠転用材として出土した船関連遺物については、資料整理中に松井哲洋氏(関宿城博物館客員研究員・和船研究会会員・海事史学会会員)に実見していただく機会を得、数多くのご指摘をいただいた。また、廣瀬直樹氏(氷見市教育委員会教育総務課主任学芸員)においても実測図及び写真をもとにいくつかのご指摘を得た。以下に、指摘内容について要約して紹介したい。

#### (1) 松井氏からのご指摘

- ・北陸の和船には①旧来のチキリを多用し、刳り抜き部を持つ「準構造船」のドブネやトモブトと、 ②刳り抜き部をもたない「構造船」である加賀テントなど、の2系統あることが知られており、出土 部材の接合具や整形状況から、②であることが確認される。
- ・部材は船の航(カワラ)または敷(シキ)と呼ばれる船底部材である。
- ・両端の材が実別ぎし中央の材が折れている三枚組の部材(第47図 g~k)に関しては、船底の折腰部分に見られる仕口で、日本海側の船特有の接合技法である可能性が高い。逓信省管船局明治35年発行の「大和形船製造寸法書」によれば、航(カワラ)は中航と両航の3材で構成され、北前船(日本海側の船)は中航を曲り材・耳航を実別ぎとし、檜垣・樽廻船(瀬戸内の船)は逆となる。実別ぎ部の凸側のほうが船尾側の艪航(トモガワラ)、凹側が前側の胴航(ドウガワラ)となる。
- ・北陸地方の造船固着技術のほぼすべてを確認することができる。接合具には①チキリ、②平鎹(ヒラカスガイ)、③縫い釘(落とし釘)、④通り釘、が確認される。裏側にある2列の釘跡は⑤皆折れ釘(カイオレクギ)による「スベリ」材固着痕の可能性がある。
- ・通り釘の用法としては、①打ち込みのみ、と②尾返しをする方法(釘の先端部を折り曲げる)との2種類がある。船板上面に見えている長方形鉄部は尾返し釘の特徴である。他部材にある、ほぼ長方形の埋め木の部分も、落とし釘の埋め木ではなく、通り釘の尾返しの埋め木かもしれない。釘の打ち込み方の詳細なトレースにより確認する必要がある。
- ・各部に漆が多用されていることが確認される。チキリ下部の接着や、接合部に充填されたマキハダ にもウルシが使用されているようである。
- ・金沢21世紀美術館近くの茶室山宇亭の腰板にチキリと落とし釘で接合された船板材が転用されていることを確認した。富山県高岡からの移築ということである。

#### (2) 廣瀬氏からのご指摘

- ・北陸の和船については、大正頃~昭和30年代頃の情報に比べて近世の情報は少ないため、興味深い。
- ・多様な接合技術がひとつの資料にまとまってみられ、船材接合方法の見本市のようである。①チキリ(鼓形の木製カスガイ):日本海沿岸の造船技術の特徴、②縫釘(落とし釘)と釘隠しの埋木、③造船時の仮固定用の手カスガイの爪痕:接合面挟んで左右にある小穴で縫釘を打った後に取り外したもの、④平カスガイ:新造時ではなく、修繕時の可能性。
- ・三枚構成の板材 (第47図  $g\sim k$ ) のうち、g とj は板材が連続し、h とk、i はホゾ組みである。こうした接合は強度を持たせるために船大工がよく使う技術で接合部を互い違いにすることで強度を保つ。 氷見のテント船では、2 枚構成の底板の屈曲部で、一枚はあらかじめ曲がった形にのこぎりで挽く「挽き曲げ」とし、もう一枚は屈曲を別材のホゾ接ぎで造り出している。3 枚構成でも1 枚だけ接がずに一木で造ったりする。
- ・本部材群が1艘分かそれとも2艘分かとの問題については、接合方法は多様ながら、写真や図で見

る限り同一個体(1艘分)でも違和感はないように見受けられる。

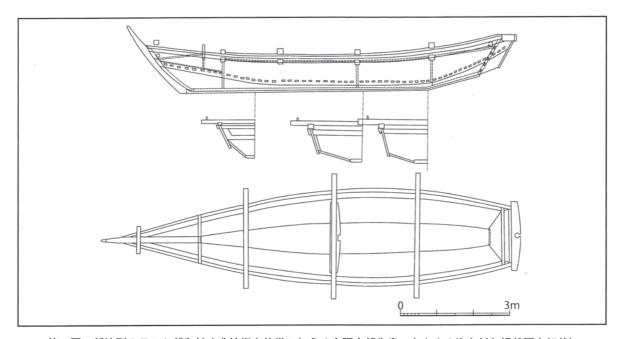
・本部材は川舟の底板もしくは、二枚棚構造(二階造り)の海船の底板の可能性を考える必要がある。 出土地点(内陸で河川に近いこと)や底外面がフナクイムシの食害を受けていない点などから川舟の可能性もあるが、川舟としては板厚が厚すぎ、厚さのわりに狭い。ただし、富山県砺波郡の明治期の川舟(高瀬舟)には底板7.5cmという記録がある。金沢の川舟については手元に情報がなく、船形は不明。海船だとすれば、二枚棚構造の船、例えば能登外浦から加賀に特徴的な「加賀テント」などの底板である可能性がある。富山県新湊(現、射水市)の、10m前後の「テント」船が、船板の厚さ10cm程度、底板の幅は船首の細いところで15cm程度、中央で80cm程度、船尾で40cm程度と出土資料の法量に近い。

・以上により、二枚棚構造の船の底板の可能性が高い。漁船だと大型の部類、荷船だと小型の部類になる。荷船だとすると、例えば大型の弁才船の千石積みで船長30m 程度になるが、本資料は10m 程度のいわゆる小廻船(コマワリ・コマワシ)の可能性がある。

なお、松井、廣瀬両氏からは、多数の参考資料の提供をいただいた。『とやまの和船』においては 入善町芦崎の網船(氷見市立博物館蔵)に底板にチキリ(当初)、ヌイクギ(修理)、平カスガイ(修理)が みられる二枚棚構造船があることや、砺波郡の川舟(高瀬舟・船長約13.2m)に底板厚約7.5cm のもの があり、材の接合にはチキリのほか六寸の縫釘、五寸と六寸の皆折釘を用い、接合部にはヒワダを込 めた上からウルシで取り固めるなどが記され、各所に出土資料との共通点を見いだすことができる。

以上、両氏の指摘から、日本海側における近世期の船材資料は類例が少なく、近代以降の記録や類例から、出土資料は二枚棚構造船の船底材の可能性が高いということ、新造時と補修時という時間差がある可能性があるが、船材接合技術が多様で、随所に日本海側の造船技術の特徴をみることができることが特筆できよう。

(庄田)



第53図 新湊型のテント(『和船建造技術を後世に伝える会調査報告書 とやまの海と船』掲載図を転載)

### 【引用・参考文献】

氏家栄太郎著・八木田武夫編 1999 『金沢市街温故叢誌 乾・坤』

川村紀子 2008 「大坂出土の土製品―大阪市内を中心として―」『関西近世考古学研究16 土人形 が見た近世社会』

田川捷一編著 1995 『加越能近世史研究必携』

藤本強 1990 「江戸時代の基準尺度について」『東京大学本郷構内の遺跡 医学部附属病院地点』

日置謙編 1956 『加能郷土辞彙』

水本和美 2010 「天皇と将軍の器」『季刊考古学第110号 幕藩体制に関わる近世陶磁器』

宮本雅明 2015 「日本の城下町と金沢城下町―発展過程と空間類型―」『金沢城下町論集 第1分 冊』

森田平次 1934 『金沢古蹟志』

石川県教育委員会 2017 『金沢市金沢城下町遺跡(東兼六町5番地区)』

石川県教育委員会 2014 『金沢市金沢城下町遺跡(丸の内7番地点)Ⅰ』

石川県姓氏歴史人物大辞典編纂委員会 1998 『石川県姓氏歴史人物大辞典』 角川書店

石川県金沢城調査研究所 2010 『金沢城跡石垣修築工事報告書-玉泉院丸南西石垣-』 角川書店

金沢市 1999 『金沢市史 資料編15 学芸』

金沢市 2004 『金沢市史 通史編1』

金沢市玉川図書館近世史料館 2013 『諸氏系譜 上』

金沢市玉川図書館近世史料館 2015 『諸氏系譜 下』

金沢市玉川図書館近世史料館 2017 『加賀藩侍帳 上』

金沢大学資料館 2015 『資料館×埋蔵文化財調査センター平成27年度特別展 加賀藩 与力 武士の ほまれ』

氷見市立博物館 2015 『特別展 とやまの船と船大工―船が支えた人びとの暮らし―』

氷見市立博物館・和船建造技術を後世に伝える会 2011 『和船建造技術を後世に伝える会調査報告 書Ⅲ とやまの和船』

氷見市立博物館・和船建造技術を後世に伝える会 2016 『和船建造技術を後世に伝える会調査報告書V とやまの海と船』

平凡社 1988 『別冊太陽 古伊万里』

平凡社 1991 『石川県の地名』

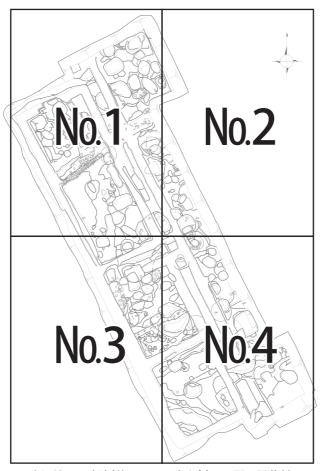
### 金沢城下町遺跡(兼六元町7番地点)遺構平面図 凡例

本報告書で対象とした金沢城下町遺跡(兼六元町7番地点)の遺構平面図を掲載する。

- 1. 遺構平面図のページ設定は北西より南東にかけて行い、通し番号を付した。ページの配置については以下のとおりである。
- 2. 遺構平面図は航空測量の成果を再編集し掲載した。掲載図版に関係する発掘調査における航空測量の実績については以下のとおりである。

平成23年度 日本海航測株式会社

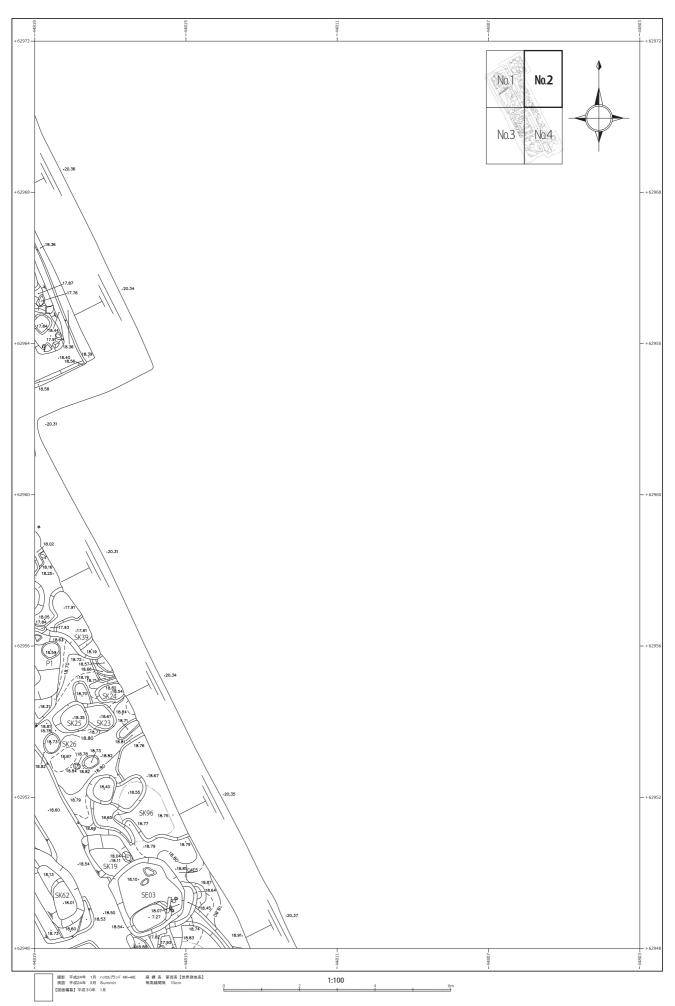
- 3.座標値は世界測地系2000に基づいた公共座標 (MK-WE 座標系第 Ⅲ系) に準拠しており、縮尺は1: 100である。方位は各ページに図示している。
- 4. 図中50%濃度の一点破線で示されたラインは、調査が完了し施工業者に引き渡した後、貯留槽の施工中に海抜17.4mの高さにて確認された遺構のラインである。遺構確認の報告及び記録のための座標測定にご協力いただいた(株)リクケンには、この場をお借りして重ねて感謝申し上げる。
- 5. 主要な遺構には遺構番号を付した。



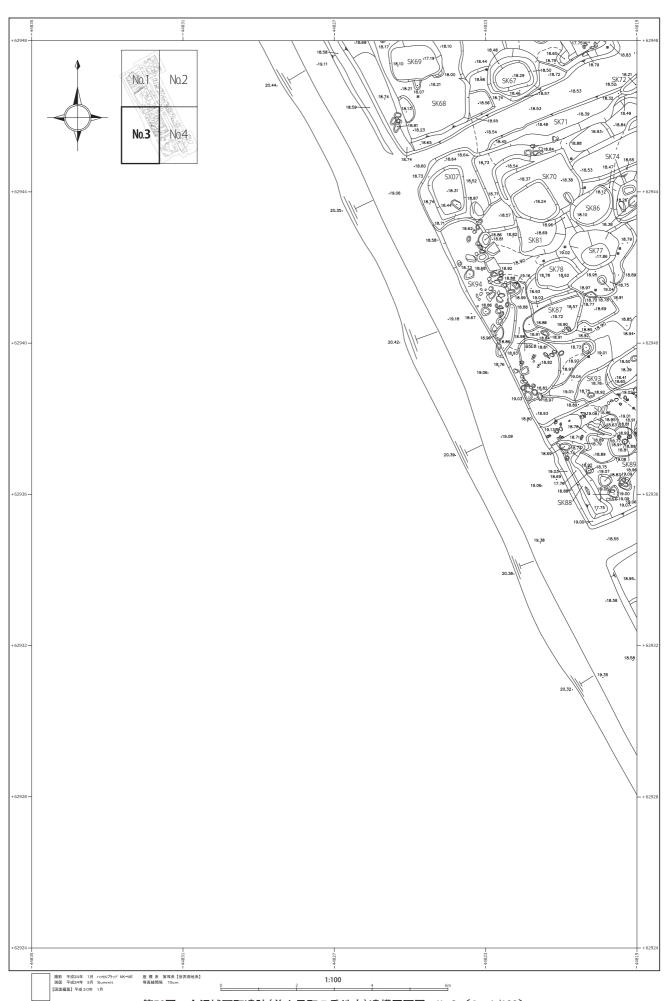
金沢城下町遺跡(兼六元町7番地点)平面図 図葉割



第54図 金沢城下町遺跡(兼六元町7番地点)遺構平面図 No.1 [S=1/100]



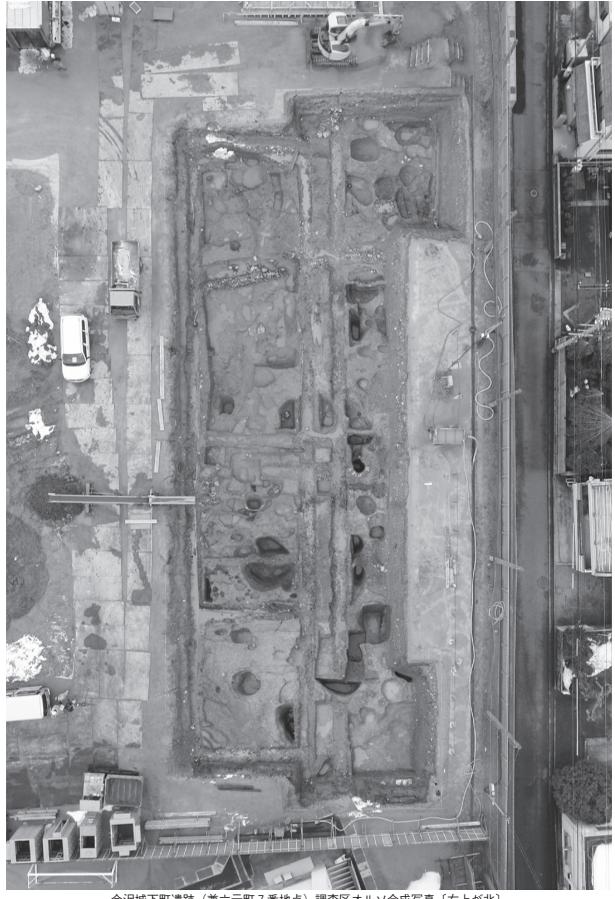
第55図 金沢城下町遺跡(兼六元町7番地点)遺構平面図 No.2 [S=1/100]



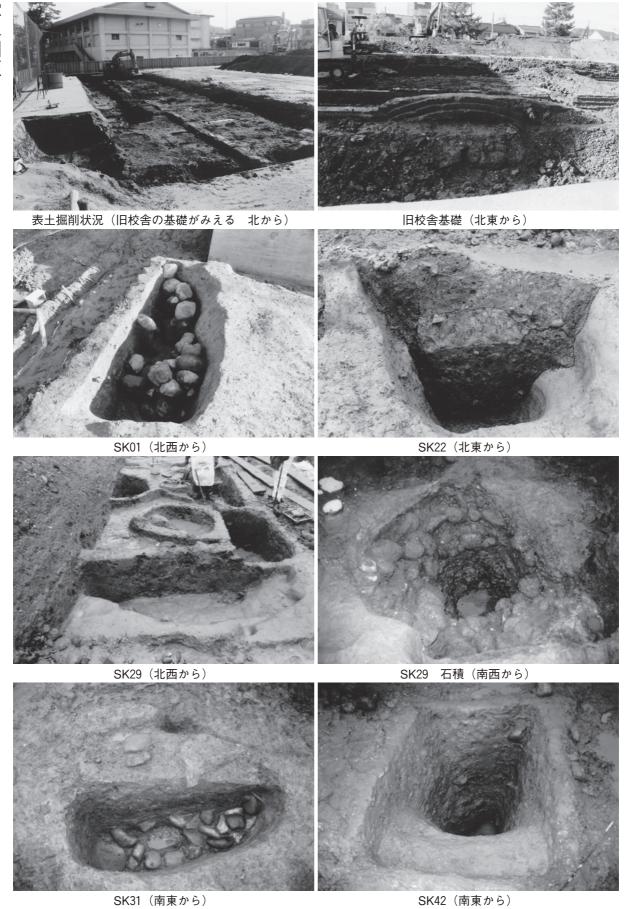
第56図 金沢城下町遺跡(兼六元町7番地点)遺構平面図 No.3 [S=1/100]

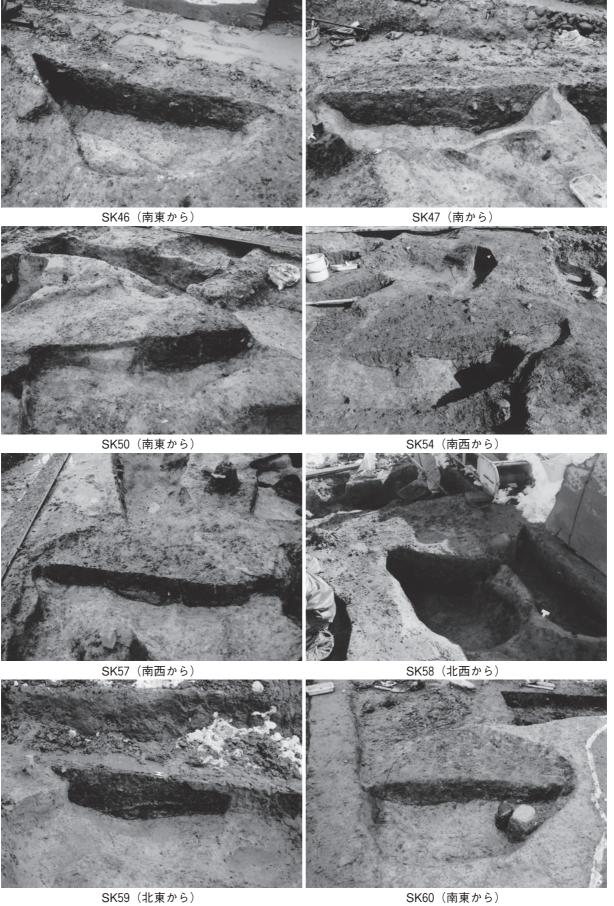


第57図 金沢城下町遺跡(兼六元町7番地点)遺構平面図 No.4 [S=1/100]

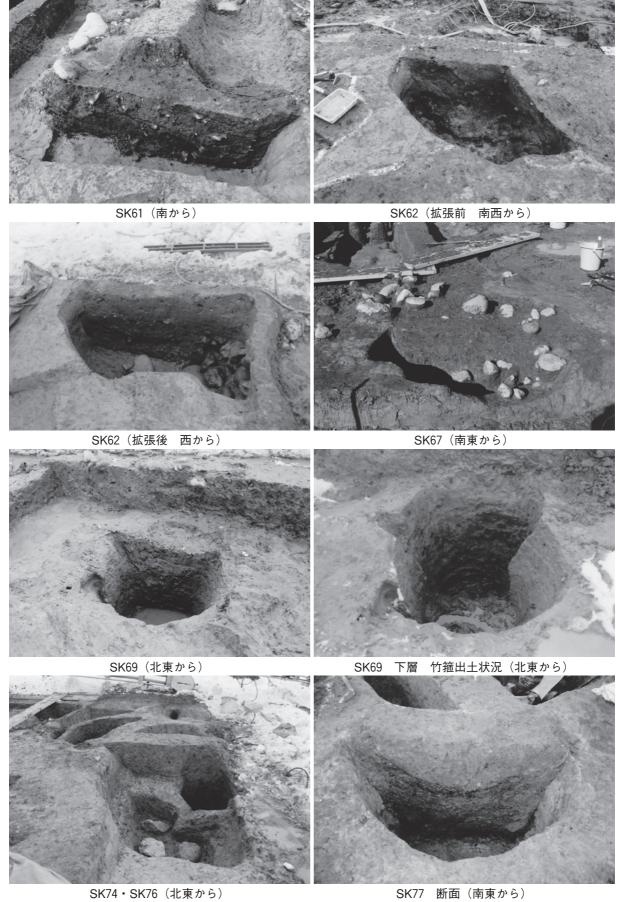


金沢城下町遺跡(兼六元町 7番地点)調査区オルソ合成写真〔右上が北〕

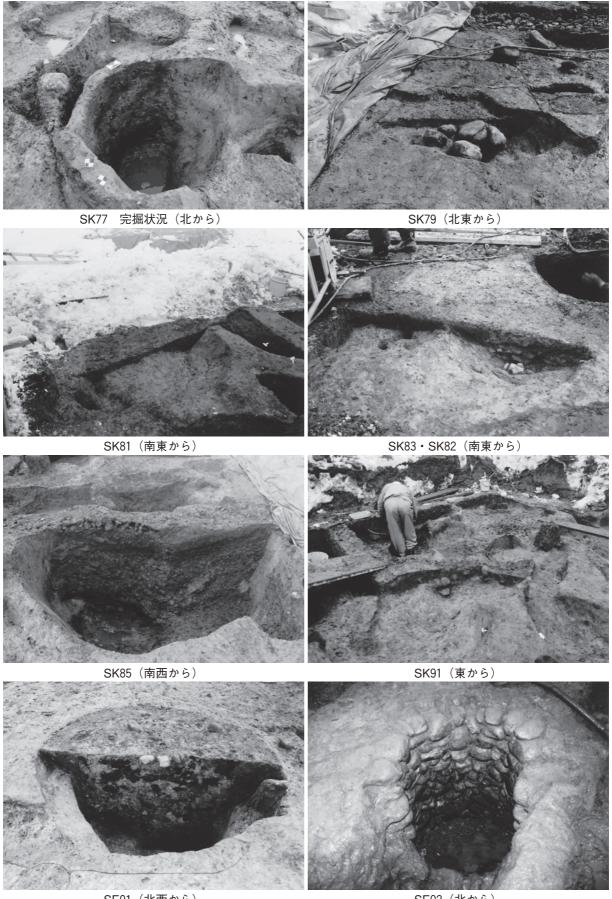




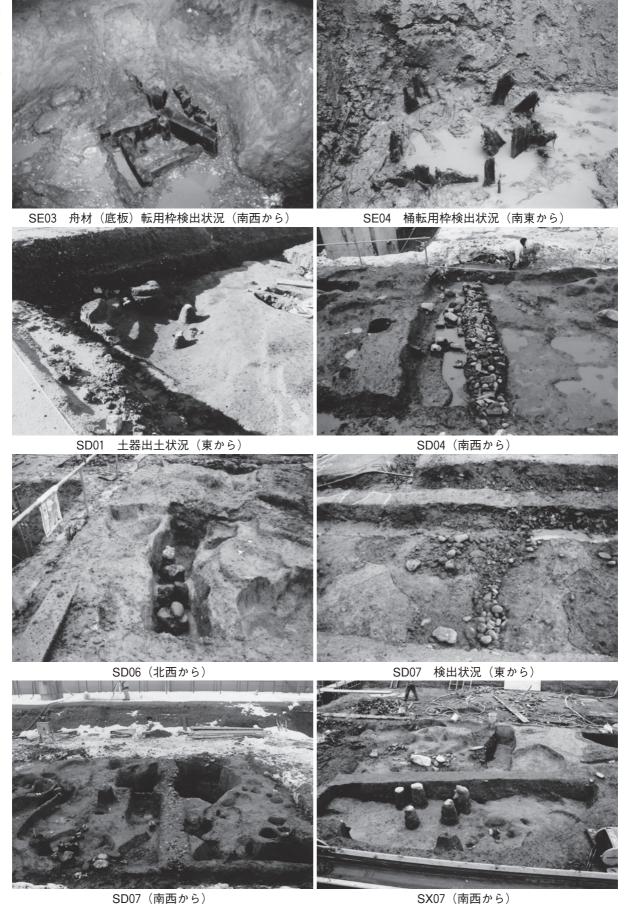
SK59 (北東から)



SK74・SK76 (北東から)



SE01 (北西から) SE02 (北から)





SK09 甕(第15図10)

SK09 土師器皿(第15図11~14)



SK29 碗・皿 (第17図8・12)

SK29 碗(第17図15~17)



SK31 碗・小坏(第18図4~11・13・14)





SK77 碗 (第25図27)



SK85 皿 (第26図11)



SK85 茶入・小坏(第26図13・12)



SK85 皿 (第26図16)



SK85 火入 (第26図18)



SK80 手水鉢 (第26図4)



SX01 碗(第30図10・11)

SX01 蓋(第30図15)



SX04 焼塩壺・蓋 (第32図19・20)

SX04 土師器皿(第32図10~17)

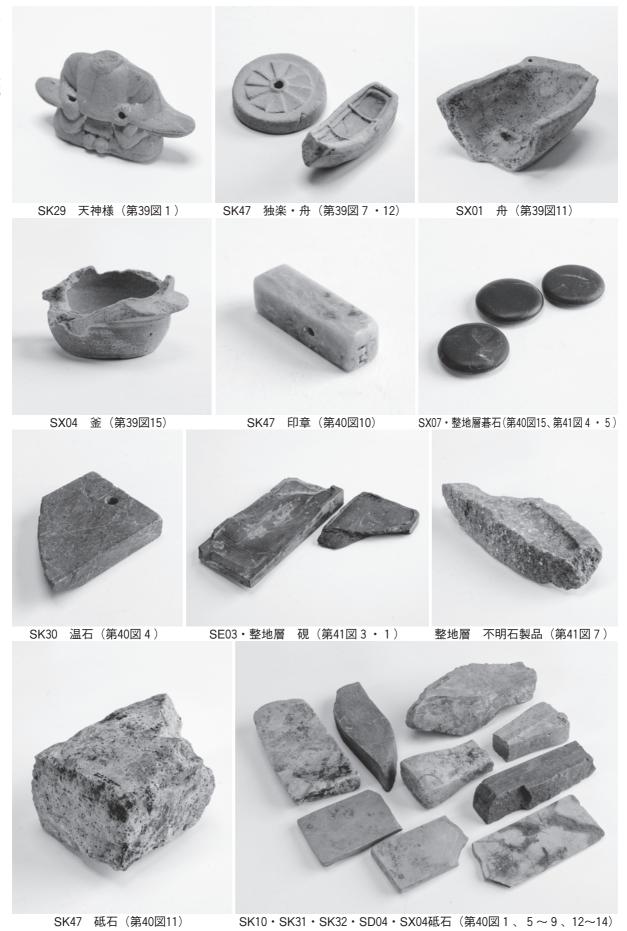


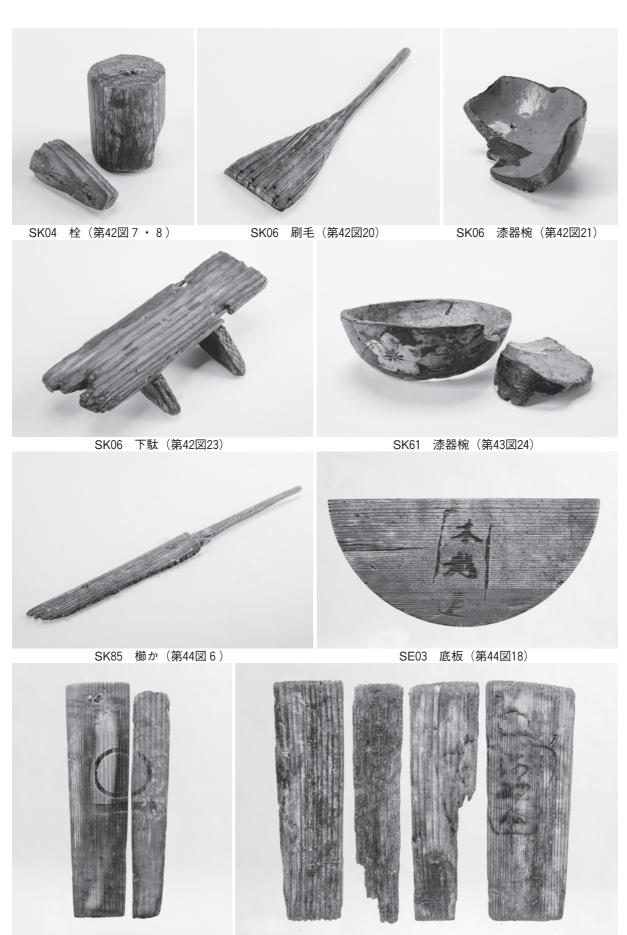
金属製品 銭 (第34図 9~17)



金属製品







SE03 桶側板(第44図21・22・24・25)

SK62 桶焼印 (第43図31)





SE03 舟底板(第46図1 左:表面 右:裏面)





SE03 舟底板(第46図2 左:表面 右:裏面)





SE03 舟底板(第46図3 左:表面 右:裏面)





SE03 舟底板(第47図1 左:表面 右:裏面)

## 報告書抄録

ふりがな	いしかわけんかなざわし かなざわじょうかまちいせき (けんろくもとまち 7 ばんちてん)										
書 名	石川県金沢市 金沢城下町遺跡 (兼六元町7番地点)										
副書名	準用河川源太郎川雨水貯留施設整備工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書										
卷  次											
シリーズ名	金沢市文化財紀要										
シリーズ番号	312										
編集者名	新出敬子 景山和也 庄田知充										
編集機関	金沢市埋蔵文化財センター										
所 在 地	〒920-0374 金沢市上安原南60番地										
発行年月日	西曆2018年 3 月28日										
ふりがな	ふりがな 所在地		コード		北緯		東 経	2121 - 1-4 HH DD	調査		
所収遺跡名			市町	「村	遺跡番号	0 , ,,		· , ,,	調査期間	調査面積	調査原因
かなざわじょう か まち い せき 金沢 城 下町遺跡	いしかわけん 石川県		72014			36°3	33' 59"	136°39′57″	2011.11.12	723 m²	雨水貯留施設
(兼六元町7番地点)	かなざわしけんろく 金沢市兼六								~		整備工事
									2012.2.9		
じゅう: 1 5											
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構			主な遺物			特記事項	
金沢城下町遺跡	集落	古墳時代		溝		土師器、須恵器			周溝か		
(兼六元町7番地点)	城下町 江戸時代		井戸、土坑、			土師器、陶磁器、土器、瓦、			色鍋島の皿片が出土した。		
			石着		組溝		木製品	品、石製品、:	金属製品	井戸枠に舟	の底板を転用。
要 約											

調査地は金沢城の東側約300mの地点に位置する武家地で、絵図等で確認できる範囲においては禄150石~500石クラスの武家地3軒があった場所と推定される。

遺跡からは、平地式建物の周溝と目される古墳時代前期の大溝が1条検出されている。調査区周辺の地形から、当該期の集落は調査地の南西側に向けて展開していることが推測される。

近世では、屋敷境の溝と思われる石組みの溝(平らな石製の蓋を伴う)が1条、屋敷境を示す石列(土塀の基礎か) 1条、井戸4基、近世のゴミ穴と考えられる大型土坑、整地層などが検出されている。中でも井戸 SE03の底からは 舟の底板を転用した井戸枠が検出され、北陸における近世の舟の構造の一部が明らかになった。また、調査区南東部 からの鍋島焼色絵皿片1点の出土や、調査区北寄りから燻瓦の腰瓦が多く出土している点も特筆すべき事項として挙 げられる。

当該発掘調査は、段丘縁辺部における古墳時代集落の発見とその分布の推定がなされたこと、近世においては検出された遺構の配置から武家敷地内における空間構成の一端が明らかになったことが成果として挙げられよう。絵図との比較からその変遷を追うことができる希少な調査であり、鍋島焼や腰瓦、舟底板などをはじめとする様々な出土遺物は、城下町の成立期から近代まで続く武家地における生活の様相を窺い知ることができる貴重な資料といえる。

## 石川県 金沢市

## 金沢城下町遺跡 (兼六元町7番地点)

— 準用河川源太郎川雨水貯留施設整備工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —

(『金沢市文化財紀要312』)

平成30年(2018) 3月28日発行

発行 金 沢 市

編集 金沢市埋蔵文化財センター

〒920-0374

石川県金沢市上安原南60番地

TEL (076) 269-2451

印刷 ソノダ印刷株式会社

₹921-8161

石川県金沢市有松 4 丁目 3 番26号

TEL (076) 247 - 5157